

国民性の研究 第13次全国調査

—— 2013年全国調査 ——

中村 隆

土屋 隆裕

前田 忠彦

2015年2月

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3

統計数理研究所調査研究レポート

ISM Survey Research Report

統計数理研究所調査研究レポートは、当研究所の研究調査のデータの発表を目的として、調査研究レポート編集委員会の審査を経て、適宜、発刊する。ただし、内容に関してはすべて各著者・編者が責任を負う。著作権は統計数理研究所にあるものとする。調査研究レポート編集委員会の文書による承諾なしには、調査研究レポートの全部または一部の転載や複製は、いかなる形式、いかなる媒体においても禁ずる。ただし、各著者が執筆した部分については、本人が論文等で活用する権利は認める。

(注) 本調査研究レポートは過去に以下のような名称で発刊されてきたが、平成22年12月に誌名は現在の「統計数理研究所調査研究レポート（略称 調査研究レポート）」と変更された。

- No.1～2 統数研究レポート
- No.3～41 数研研究レポート
- No.42～101 統計数理研究所研究レポート
- No.102～ 統計数理研究所調査研究レポート

The Institute of Statistical Mathematics issues the series of ISM Survey Research Report under the supervision of the committee of ISM Survey Research Report in order to publish data of surveys carried out by the institute. The author(s) and/or editor(s) of each issue, however, are responsible for the content. Copyright is reserved by the Institute of Statistical Mathematics. No part of any issue may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electric or mechanical, including photocopy, recording, or any information storage and retrieval system, without permission in writing from the committee of the institute. The author or editor of each issue, however, may make use of his/her writing in another academic paper or article.

(Note) This series of survey reports has been published under different titles in the past, but it has been renewed as “統計数理研究所調査研究レポート (ISM Survey Research Report)” in December of 2010.

- No.1～2 統数研究レポート (Research Report, General Series)
- No.3～41 数研研究レポート (Research Report, General Series)
- No.42～101 統計数理研究所研究レポート (Research Report, General Series)
- No.102～ 統計数理研究所調査研究レポート (ISM Survey Research Report)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所
〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3
電話 050-5533-8500(代表)

The Institute of Statistical Mathematics
10-3 Midori-cho, Tachikawa
Tokyo 190-8562, JAPAN
Phone: +81-(0)50-5533-8500 (receptionist)

国民性の研究 第13次全国調査

—— 2013年全国調査 ——

中村 隆
土屋 隆裕
前田 忠彦

2015年2月

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3

第13次日本人の国民性調査委員会 (*委員長)

調査研究レポート作成班

中村 隆* (統計数理研究所 データ科学研究系 教授)

土屋 隆裕 (統計数理研究所 データ科学研究系 准教授)

前田 忠彦 (統計数理研究所 データ科学研究系 准教授)

目 次

I	概 要	1
§ 1	研究経過と調査項目	1
§ 2	調査実施の概要	2
II	質問文と集計表	9
	集計表の見方	9
§ 1	基本項目	11
§ 2	個人的態度	33
§ 3	宗 教	71
§ 4	子供・家	76
§ 5	身近な社会	85
§ 6	男女の差異	101
§ 7	一般の社会的問題	111
§ 8	政治的態度	133
§ 9	日本人・人種	144
III	文献と資料	155
IV	調査項目一覧表	207

I 概 要

このレポートは、統計数理研究所国民性調査委員会が5年ごとに実施している「日本人の国民性調査」の第13次全国調査(2013年秋実施)の結果を単純集計の形でまとめたものである。比較のため、今回調査した質問項目についての過去の結果も掲げている。より細かい集計結果は、統計数理研究所の「日本人の国民性調査」のホームページ(<http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/index.html>)でも公開している。

詳細な分析結果は統計数理研究所の『統計数理』や学会誌等で改めて発表する予定である。

§1 研究経過と調査項目

1. 研究の経過

国民性の研究は1953年(昭和28年)に第1次全国調査を行い、以後5年ごとに全国調査を行っている。したがって、今回(2013年)は13回目に当たり、初回から数えて60年目の調査である。

これらの全国調査はすべて20歳以上の日本人(第11次・第12次は80歳未満、第13次は85歳未満)を対象にした標本調査であり、各回ともそれぞれ層別多段サンプリングで約3,000~6,400名の対象者を抽出し、個別訪問面接聴取法で実施している。調査項目には、面接での質問項目と、サンプリングの段階で得られる性、年齢、地方別等の基本属性項目とがあり、毎回共通して使用している項目が多い。1973年(昭和48年)の第5次調査以降は、それまで継続してきた質問項目を主とするK型調査票と、新規の質問項目に重きを置くM型調査票という2種類の調査票を用いている。

なお、5年ごとの全国調査のほかに内容的に関連する多くの調査を行っている。これらの調査もそれぞれ独立の調査であると同時に、相互に比較・参照できるよう企画されている。

2. 質問項目の選定

面接調査という調査方法の制約はあるが、質問項目の選定に当たっては、できるだけ広い範囲から国民性の特徴をよく表わす題材を選ぶようにしている。

調査開始当初の質問項目の選定手順の概略はつぎのとおりである。まず、国民性に言及している内外の文献や資料から、日本人の性質、態度、特徴とみられるものを収集し整理する。つぎに、これらの事項から面接調査に適するような質問項目を作成する。最後に質問全体の構成を吟味して、調査票にまとめる。

なお、質問項目は、その後も各種のプリテストや吟味調査で検討を加えるとともに、何回もくり返して調査に用い、その性質を確かめるよう努めている。

3. 調査のねらいと調査票

国民性調査のねらいは大別して2つある。第1は、長期にわたる継続質問項目によって、日本人の“ものの考え方”の変化の様相を明らかにすることであり、第2は、従来との継続を図りながら、将来の新しい動向を探り、それに備えることである。このため、新しい調査項目や必ずしも継続的に調査はしていないが過去に質問したことのある項目も採用している。第12次調査では、平成期における日本人の意識動向を20世紀半ば以降の意識変化の中に位置づけ、今後の動向を見据えるということも念頭に置いた。第13次調査では2011年3月の東日本大震災の影響についても考慮した。

なお、今回の調査でもこれまで通り、K型とM型の2種類の調査票を用いた。両者とも、従来の継続質問項目と新しい質問項目の双方を含んでいるが、K型調査票はM型調査票に比べると長期にわたる継続質問項目の割合が高くなっている。

2種類の調査票にわけるのは、一人の対象者にかかる負担(面接時間の長さ)を軽減するためである。調査に当たっては、サンプルを二分し、奇数のサンプル番号の対象者にはK型調査票を、偶数のサンプル番号の対象者にはM型調査票を用いた。

§2 調査実施の概要

1. サンプリング

基本的な方針は、第8次～第12次全国調査とほぼ同じである(『第5日本人の国民性』1992年、p.483参照)。すなわち、まず全国の市区町村を、地方性および人口規模を考慮して層別し、各層のサンプルサイズと地点数を比例割当てで決める。つぎに各層では、割り当てられた数の地点(第1次抽出単位)を確率比例抽出で選ぶ(第1段サンプリング)。この時の抽出単位は市区町村内の町丁字等である。最後に、選んだ地点の住民基本台帳から、その地点に割り当てた人数のサンプルを等間隔抽出法で選んだ(第2

段サンプリング)。総地点数は400、計画サンプルサイズは全国で6,400人であり、1地点の割当人数は平均16人である(表1参照)。

第8~11次調査との相違は、第12次と今回の調査では、地点数、計画サンプルサイズを共に大きくしたこと、市部の層化を細かく行ったこと、抽出台帳を選挙人名簿から住民基本台帳に変更したこと(調査回によっては例外的に選挙人名簿を利用した地点がある)、したがって抽出単位を投票区ではなく国勢調査の集計単位としての町丁字等としたこと、である。地点抽出法の説明を従来のレポートとは変えたが、実際の抽出手順を変更したわけではない。

2. 調査の実施

日本人の国民性調査では、第8次までは全国の大学等の協力を得てサンプリングから面接に至る調査全体を統計数理研究所が実施したが、1993年の第9次調査から調査実施を専門調査会社に委託している。

今回の調査は株式会社日本リサーチセンターに委託して実施した。ただし、面接調査に先立つ標本抽出(台帳からの個人の抽出)の一部(400地点のうち東京都及び三府県で計30地点分)は統計数理研究所が担当した。標本抽出員は担当地点の市・区役所、町・村役場に行き、指示された方法で住民基本台帳からサンプルを抽出した。

面接調査の実施期間は2013年10月下旬から12月上旬である。調査員は、協力依頼状を事前に送付した上で対象者の家を訪問して本人に会い、調査票に書かれたとおりの質問をし、対象者の回答を調査票に記録した(個別訪問面接聴取法)。

この結果、最終的な回収サンプルサイズはK型調査票1,591、M型調査票1,579、合計3,170で、これは計画サンプルサイズ6,400の50%に当たる。調査不能の詳細は表2~表5に示されている。

第13次全国調査の実施では、つぎの方々のご協力を得た。まず、調査の準備から調査研究レポート作成までの作業を伊藤恵子さん、中川原千織さん、後藤由美子さん、金森京子さんに担っていただいた。回収データの点検作業等では、首都大学東京、日本社会事業大学、一橋大学の学生諸氏にも支援いただいた。これらの方々にご心からお礼申し上げたい。

今回の調査委員は、中村隆(委員長)、吉野諒三、前田忠彦、土屋隆裕、朴堯星(以上、統計数理研究所)である。ほかに、坂元慶行(統計数理研究所名誉教授)、林文(統計数理研究所調査科学研究センター客員教授)、松岡亮二(早稲田大学高等研究所)の三氏のご支援を得た。

このレポートの作成には、中村隆、土屋隆裕、前田忠彦が当たった。

表 1. 「第 13 次 日本人の国民性調査」サンプリング

母集団 (日本に居住する 20 歳以上 85 歳未満の日本人男女)	
母集団人口 ^a	= 99,897,926
計画サンプルサイズ	= 6,400
計画地点総数	= 400
1 地点あたりサンプルサイズ	= 16
1 地点あたり母集団人口	= 249,745

層 コード	層名称	層人口 ^a	市区町 村数 ^b	町丁字 等の数 ^c	割当 地点数	計画サンプ ルサイズ
	《全国計》	99,897,926	1,839	209,255	400	6,400
1. K-00	区 部	28,121,304	193	36,249	113	1,808
	市部計	61,994,385	751	138,295	248	3,968
2. S-01	人口 20 万人以上	24,360,951	90	41,851	98	1,568
3. S-02	人口 10 万人以上	16,786,460	154	33,312	67	1,072
4. S-03	人口 10 万人未満	20,846,974	507	63,132	83	1,328
5. G-00	郡 部	8,835,156	870	33,626	35	560
6. O-00	沖 縄 県	947,081	25	1,085	4	64

^a 母集団人口・層人口は 2010 年国勢調査による。島嶼部等および福島県の一部市町村の人口を除く。

^b 市区町村の区分も 2010 年国勢調査時点。その後の市区町村合併は反映させていない。

^c 地点抽出の単位となった地理的まとまりは、いわゆる「町丁字等」である。

表 2. 調査不能の理由

		死 亡	移 転	該 当 者 な し	尋 ね 当 ら ず	長 期 不 在	病 気	一 時 不 在	拒 否 ^a (本 人)	拒 否 ^a (そ の 他)	老 衰	そ の 他	計
K	実数	9	105	24	34	61	79	306	545	435	25	2	1,625
	%	1	6	1	2	4	5	19	34	27	2	0	101
M	実数	4	111	30	39	75	74	331	509	406	25	1	1,605
	%	0	7	2	2	5	5	21	32	25	2	0	101
K+M	実数	13	216	54	73	136	153	637	1,054	841	50	3	3,230
	%	0	7	2	2	4	5	20	33	26	2	0	101

^a 前回の第 12 次調査までは「拒否」を区別せずに記録したが、今回より「拒否（本人）：本人に面会して直接拒否された場合」と「拒否（その他）：それ以外の拒否の場合（家族または事前の電話による拒否など）」を区別した。

* 表 2～5 における K および M は、それぞれ K 型調査票および M 型調査票を割り当てた計画サンプルを意味する。K+M は両者を合わせたもの、すなわち、計画サンプル全体を意味する。

表3. 性別・年齢別サンプル、不能率

	性別		年齢別													計	
	男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 74	75 ~ 79	80 ~ 84		
K	回収 サンプル	737	854	66	84	116	145	140	110	142	157	178	138	145	108	62	1,591
	不能 サンプル	861	764	129	147	140	173	149	140	138	128	153	125	75	83	45	1,625
	不能率	54	47	66	64	55	54	52	56	49	45	46	48	34	43	42	51
	計画 サンプル	1,598	1,618	195	231	256	318	289	250	280	285	331	263	220	191	107	3,216
	行%	50	50	6	7	8	10	9	8	9	9	10	8	7	6	3	100

	性別		年齢別													計	
	男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 74	75 ~ 79	80 ~ 84		
M	回収 サンプル	714	865	86	75	111	138	149	109	122	131	177	161	157	109	54	1,579
	不能 サンプル	876	729	146	125	144	166	160	142	105	126	163	108	99	75	46	1,605
	不能率	55	46	63	63	56	55	52	57	46	49	48	40	39	41	46	50
	計画 サンプル	1,590	1,594	232	200	255	304	309	251	227	257	340	269	256	184	100	3,184
	行%	50	50	7	6	8	10	10	8	7	8	11	8	8	6	3	100

	性別		年齢別													計	
	男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 74	75 ~ 79	80 ~ 84		
K +	回収 サンプル	1,451	1,719	152	159	227	283	289	219	264	288	355	299	302	217	116	3,170
	不能 サンプル	1,737	1,493	275	272	284	339	309	282	243	254	316	233	174	158	91	3,230
	不能率	54	46	64	63	56	55	52	56	48	47	47	44	37	42	44	50
	計画 サンプル	3,188	3,212	427	431	511	622	598	501	507	542	671	532	476	375	207	6,400
	行%	50	50	7	7	8	10	9	8	8	8	10	8	7	6	3	99

2010年国調%	49	51	6	7	8	10	9	8	8	9	10	8	7	6	4	100
----------	----	----	---	---	---	----	---	---	---	---	----	---	---	---	---	-----

表 4. (#1.5) 市郡別サンプル、不能率

	市 郡 別														
	K					M					K + M				
	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	計サ ンプ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	計サ ンプ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	計サ ンプ 画ル	列 %
6 大都市 *	186	342	65	528	16	176	347	66	523	16	362	689	66	1,051	16
人口 50 万 以上の市	229	267	54	496	15	256	239	48	495	16	485	506	51	991	15
人口 20 ~ 50 万の市	337	335	50	672	21	315	349	53	664	21	652	684	51	1,336	21
人口 10 ~ 20 万の市	283	264	48	547	17	287	256	47	543	17	570	520	48	1,090	17
人口 5 ~ 10 万の市	266	211	44	477	15	251	221	47	472	15	517	432	46	949	15
人口 5 万 未満の市	118	84	42	202	6	126	74	37	200	6	244	158	39	402	6
町 村	172	122	41	294	9	168	119	41	287	9	340	241	41	581	9
計	1,591	1,625	51	3,216	99	1,579	1,605	50	3,184	100	3,170	3,230	50	6,400	99

* 6 大都市は、東京 23 区、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市。

表 5. (#1.6) 地方別サンプル、不能率

	地 方 別 *														
	K					M					K + M				
	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	計サ ンプ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	計サ ンプ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	計サ ンプ 画ル	列 %
北海道	70	58	45	128	4	80	48	38	128	4	150	106	41	256	4
東北	131	104	44	235	7	128	104	45	232	7	259	208	45	467	7
関東	458	623	58	1,081	34	455	617	58	1,072	34	913	1,240	58	2,153	34
中部 (東)	152	99	39	251	8	132	116	47	248	8	284	215	43	499	8
中部 (西)	139	168	55	307	10	155	147	49	302	9	294	315	52	609	10
近畿	269	292	52	561	17	265	293	53	558	18	534	585	52	1,119	17
中国	119	68	36	187	6	104	80	43	184	6	223	148	40	371	6
四国	60	44	42	104	3	58	45	44	103	3	118	89	43	207	3
九州	193	169	47	362	11	202	155	43	357	11	395	324	45	719	11
計	1,591	1,625	51	3,216	100	1,579	1,605	50	3,184	100	3,170	3,230	50	6,400	100

* 沖縄は九州に含む。

II 質問文と集計表

集計表の見方

1. [収録調査項目] ここには、2013年の第13次全国調査で使用した質問項目のほぼ全文と、その他の項目を含む全調査項目の集計表を収録した。収録順は原則として、国民性調査委員会で決めた調査項目の §、# 番号順になっている(ただし、同じ問番号の下にいくつかの質問が含まれている連問の場合は、第13次の実際の質問順とした)。また、第12次までの質問項目で、今回の質問と特に関連のあるものについては、参考までにその数値をのせた。
2. [調査の略称] 集計表には比較のため第1次～第13次全国調査の結果を示した。

略 称	説 明
XIII (2013)	2013年(平成25年)今回実施の第13次全国調査の結果
XII (2008)	2008年(平成20年)実施の第12次全国調査の結果
XI (2003)	2003年(平成15年)実施の第11次全国調査の結果
X (1998)	1998年(平成10年)実施の第10次全国調査の結果
IX (1993)	1993年(平成5年)実施の第9次全国調査の結果
VIII (1988)	1988年(昭和63年)実施の第8次全国調査の結果
VII (1983)	1983年(昭和58年)実施の第7次全国調査の結果
VI (1978)	1978年(昭和53年)実施の第6次全国調査の結果
V (1973)	1973年(昭和48年)実施の第5次全国調査の結果
IV (1968)	1968年(昭和43年)実施の第4次全国調査の結果
III (1963)	1963年(昭和38年)実施の第3次全国調査の結果
II (1958)	1958年(昭和33年)実施の第2次全国調査の結果
I (1953)	1953年(昭和28年)実施の第1次全国調査の結果

各集計表の間欄について：

- 第5次～第13次調査のKという記号は、K型調査票の質問番号およびその集計結果を示し、MはM型調査票の質問番号およびその集計結果を示す。また、K+Mとあるのは、当該質問が両調査票で用いられた場合の全体についての集計を示す。
 - 第2次調査も調査票を2種類作り、一方は問1から、他方は問101から始まっている。ただし、同一質問の集計結果は両者を合わせたものしか示していない。
 - ×印は、その回の調査では質問していないことを示す。
3. [D.K.] 集計表にあげられた選択肢のうちD.K. (Don't Know) は「わからない」の意味であるが、第8次全国調査までは、調査員に概略つぎのように指示した。

「サンプルが質問の内容を理解しないときは、質問をくりかえし、それでもわからないようならD.K. (Don't Know) とすること。質問の内容は、だれでもわかるはずの言葉を使うように心がけている。中には二、三その範囲を越えることもあろうが、統計調査であるから、この言葉で質問したとき、D.K. の人がどのくらいいたかは大切なデータとなるので、いいかえたりしないこと。」

第9次調査からは、前述のように、面接調査を専門調査会社に委託した。調査員への指示も同様に行ったが、第8次と第9次調査の間で、質問によっては選択肢の“その他”と“D.K.”についての結果数値に断層が見られる。すなわち、第9次の結果は、それまでに比べて、“その他”が少なく、“D.K.”が多めである。したがって、結果的には、両者についての調査現場での解釈に相違があったと考えざるを得ない。しかし、“その他”と“D.K.”を一括すると数値に大きな差はない。第10次調査から今回の第13次調査でも、断層があった項目で類似の傾向が続いているものがある。

4. [質問文の体裁] 質問文は、原則として第8次までの調査票に印刷した通りの体裁で示した。第9次調査からは調査票が専門調査会社で通常用いている体裁が変わっているが、調査は個別訪問面接聴取法で行われ、調査員が質問文を読み上げる方式なので、対象者の目に直接質問文の体裁が触れることはない。

回答記入欄も第8次までの調査票の体裁で示した。リスト(選択肢を記入して対象者に示す)を使用した質問は質問文の最初に[リスト]とある(ただし、第9次から第11次の実際の調査票には[回答票]と記されている)。なお、リストには選択肢のみを印刷し、“その他”、“D.K.”は入っていない。

5. [集計表の数値] (a) 集計表の数値は全回答者に対する割合(%)を示すもので、小数点以下を四捨五入してある。

具体的には、サンプルサイズを n 、当該選択肢の回答者数を m とするとき、 $100m/n$ の商 p と余り q を求め、 $2q < n$ ならば p そのままを、 $2q \geq n$ ならば $p+1$ を、四捨五入した%とした。

集計表中の%で、“0”は四捨五入して0%であることを、“-”はその回答者が全くいなかったことを示す。また、“*”は調査回によって当該選択肢が設けられていなかったことを示す。

(b) 集計表の計欄は、個々の選択肢の四捨五入した後の%を合計した数値で、必ずしも100(%)とはなっていない。また、()内は、集計に用いたサンプルサイズである。

(c) 本レポートに収録した結果数値(%)は、過去の研究レポート等に収録した%とわずかに異なる場合がある。それは、過去の調査のデータについて見直しを行ったこと、また過去の数値では、丸め方法の違いや、合計が100%になるようにいずれかの選択肢の%を増減して調整することがあったからである。

§1 基本項目

#1.1 性

#1.2 年齡

	問	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
		男	女	20 }	25 }	30 }	35 }	40 }	45 }	50 }	55 }	60 }	65 }	70 以上	
XIII (2013)	K+M	46	54	5	5	7	9	9	7	8	9	11	9	20	99 (3,170)
	K _{F2} ^{F1}	46	54	4	5	7	9	9	7	9	10	11	9	20	100 (1,591)
	M _{F2} ^{F1}	45	55	5	5	7	9	9	7	8	8	11	10	20	99 (1,579)
XII (2008)	K+M	47	53	5	6	8	8	8	8	10	12	11	10	14	100 (3,302)
	K _{F2} ^{F1}	47	53	5	5	8	9	9	8	9	11	11	11	13	99 (1,729)
	M _{F2} ^{F1}	47	53	5	6	7	8	8	8	11	13	11	10	14	101 (1,573)
XI (2003)	K+M	46	54	5	6	8	8	8	8	12	10	11	10	14	100 (2,350)
	K _{性年齡}	46	54	5	6	8	9	9	8	12	10	11	10	12	100 (1,192)
	M _{性年齡}	47	53	5	7	8	7	8	8	12	9	12	9	15	100 (1,158)
X (1998)	K+M	45	55	7	7	8	8	8	11	10	10	11	8	12	100 (2,680)
	K _{性年齡}	46	54	8	5	8	7	8	11	10	10	11	8	13	99 (1,339)
	M _{性年齡}	45	55	6	8	7	9	8	12	11	10	11	8	11	101 (1,341)
IX (1993)	K+M	46	54	8	7	8	9	13	11	10	10	10	7	7	100 (3,738)
	K _{性年齡}	46	54	8	8	8	9	13	11	10	9	10	6	7	99 (1,833)
	M _{性年齡}	47	53	8	7	9	9	12	11	10	10	10	7	7	100 (1,905)
VIII (1988)	K+M	45	55	10	8	9	13	10	10	9	9	8	6	8	100 (3,682)
	K _{性年齡}	45	55	9	8	10	13	10	10	8	9	8	6	9	100 (1,858)
	M _{性年齡}	44	56	11	8	8	13	11	10	10	8	8	6	8	101 (1,824)
VII (1983)	K+M	44	56	9	9	12	11	11	11	10	8	6	5	7	99 (4,429)
	K _{性年齡}	44	56	9	9	12	11	11	12	10	8	6	5	7	100 (2,256)
	M _{性年齡}	45	55	9	9	13	11	10	11	10	9	6	5	7	100 (2,173)
VI (1978)	K+M	44	56	10	12	12	11	11	11	8	7	6	5	7	100 (3,945)
	K _{性年齡}	44	56	9	12	12	13	11	11	9	7	5	5	7	101 (2,032)
	M _{性年齡}	43	57	10	12	13	10	11	11	8	7	7	4	6	99 (1,913)
V (1973)	K+M	45	55	14	12	12	12	12	10	8	7	5	4	5	101 (4,594)
	K _{性年齡}	46	54	14	12	12	11	12	10	7	7	5	4	5	99 (3,055)
	M _{性年齡}	43	57	13	11	12	13	12	10	9	7	5	4	5	101 (1,539)
IV (1968)	性年齡	47	53	12	13	13	13	11	8	7	7	6	4	4	98 (3,033)
III (1963)	性年齡	46	54	12	13	14	12	10	9	9	6	6	4	4	99 (2,698)
II (1958)	¹ ₁₀₁	46	54	15	14	14	10	11	9	7	7	6	4	4	101 (2,369)
I (1953)	性 ₁	47	53	19	15	11	11	10	8	9	6	5	3	3	100 (2,254)

#1.2b 婚姻

[リスト] あなたは結婚していらっしゃいますか？ つぎのどれに当たりますか？

1 未婚	
2 死別	
3 離別	
4 既婚	
5 その他 [記入]	6 D.K.

	問	1 未婚	2 死別	3 離別	4 既婚	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	17	7	5	71	0	0	100 (3,170)
	K44a	17	6	6	71	0	-	100 (1,591)
	M44a	17	7	5	71	0	0	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	15	6	4	75	-	0	100 (3,302)
	KF5a	15	6	4	74	-	0	99 (1,729)
	MF5a	14	5	4	76	-	0	99 (1,573)
XI (2003)	×							
X (1998)	K+M	14	7	3	77	-	0	101 (2,680)
	K40	14	8	2	76	-	0	100 (1,339)
	M36	13	7	3	77	-	0	100 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	56	17	8	1	70	*	4	100 (2,254)

注) 第10次(1998)調査までの見出しは#1.2b 婚姻・子

#1.2b2 子

[リスト] お子さんはいらっしゃいますか? つぎのどれに当たりますか?

1	いない
2	子どもがいる、子育ては終わった
3	子どもがいる、子育て中である
4	その他 [記入]
5	D. K.

	問	1 いない	2 子育ては 終わった	3 子育て中 である	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	24	48	27	0	0	99 (3,170)
	K44b	25	48	27	0	-	100 (1,591)
	M44b	24	48	28	0	0	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	21	48	30	0	1	100 (3,302)
	KF5b	21	49	29	0	1	100 (1,729)
	MF5b	21	47	31	-	1	100 (1,573)
XI (2003)	×						
X (1998)	×						
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	×						
V (1973)	×						
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#1.3b 学歴（新形式）

〔リスト〕あなたが、最後にいらっしゃった学校は、つぎのどれに当たりますか？（在学中の方はその学校をお答えください。）

（1～7のどれに当るか分からないときは、最終学校名を具体的にお答えいただくか、小学校から通算で何学年、学校に通ったかをお答えください。）

【調査員注：3～8に在学中の場合、下のXにも○をつける。中途退学した人はその前の卒業学校とする。その他詳細は調査要領を参照。】

- 1 小学校（学校に行かなかった場合を含む）
- 2 中学校（新制中学校または旧制高等小学校）
- 3 高等学校（工業/商業などの職業科高校を含む）
または旧制中学校（中学校、工業/商業学校、（高等）女学校）
- 4 短大（短期大学）、高専（高等専門学校）
- 5 旧制高等学校、旧制工業/商業専門学校、旧制高等工業/商業
- 6 大学（新制大学・旧制大学）
- 7 大学院
- 8 その他〔1～7のどれに当るか分からないときは最終学校名記入〕

	問	1 小学校	2 中学校	3 高等学校	4 短大	5 旧制高等 学校	6 大学	7 大学院	8 在学中	9 その他	計
XIII (2013)	K+M	1	15	45	16	1	19	2	0	1	100 (3,170)
	K42	1	15	45	16	1	19	1	0	1	99 (1,591)
	M42	1	16	45	16	1	18	2	0	1	100 (1,579)
XII (2008)	×										
XI (2003)	×										
X (1998)	×										
IX (1993)	×										
VIII (1988)	×										
VII (1983)	×										
VI (1978)	×										
V (1973)	×										
IV (1968)	×										
III (1963)	×										
II (1958)	×										
I (1953)	×										

[参考]

#1.3 学歴

あなたが、最後にいらっしゃった学校はなんですか？

1	小学校 [学歴なしを含む]
2	新制中学 [旧制高等小学]
3	新制高校 [工(商)業高校] 旧制中学校 [中学校、工(商)業学校、(高等)女学校]
4	大学、短大、高専 [旧制高等学校、工(商)業専門、高等工(商)業]
5	その他 [1~4のどれに当るか分らないときは最終学校名記入]

	問	1 小学	2 中学	3 高校	4 大学	5 その他	計
XIII (2013)	×						
XII (2008)	K+M	1	16	47	35	0	99 (3,302)
	KF4	2	16	48	33	0	99 (1,729)
XI (2003)	MF4	1	15	46	38	0	100 (1,573)
	K+M	3	20	48	29	0	100 (2,350)
	K38	3	19	48	30	0	100 (1,192)
X (1998)	M33	4	20	47	28	1	100 (1,158)
	K+M	5	21	46	26	1	99 (2,680)
	K38	6	22	45	26	1	100 (1,339)
	M34	5	20	48	27	1	101 (1,341)
IX (1993)	K+M	5	22	47	25	1	100 (3,738)
	K40	4	23	46	26	0	99 (1,833)
	M34	5	22	49	24	1	101 (1,905)
VIII (1988)	K+M	8	24	45	22	1	100 (3,682)
	K学歴	8	23	44	23	1	99 (1,858)
	M学歴	7	25	46	21	1	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	8	29	43	19	1	100 (4,429)
	K学歴	8	29	43	19	1	100 (2,256)
	M学歴	9	29	43	18	1	100 (2,173)
VI (1978)	K+M	10	32	40	16	2	100 (3,945)
	K学歴	10	32	41	15	2	100 (2,032)
	M学歴	11	32	39	17	1	100 (1,913)
V (1973)	K+M	15	30	41	12	2	100 (4,594)
	K学歴	15	30	42	11	2	100 (3,055)
	M29	14	31	40	13	2	100 (1,539)
IV (1968)	学歴	16	40	34	10	0	100 (3,033)
III (1963)	学歴	21	41	29	8	1	100 (2,698)
II (1958)	32a	31	37	24	7	2	101 (2,369)
	132a						
I (1953)	55	33	35	24	6	2	100 (2,254)

#1.4c 職業（新形式）

[リスト] では、あなたのお仕事の種類は、つぎのどれに当たりますか？

1	農林水産業	
2	自営の商工業	
3	専門、自由業（教員、医者など）	
4	管理職（課長以上）	
5	事務系の勤め人（ホワイトカラー）	
6	作業系の勤め人（ブルーカラー）	
7	主婦（専業主婦）	
8	学生、無職	
9	D.K.	

	問	1 農 林 水 産 業	2 自 営 の 商 工 業	3 専 門 ・ 自 由 業	4 管 理 職	5 事 務 系 の 勤 め 人	6 作 業 系 の 勤 め 人	7 主 婦	8 学 生 ・ 無 職	9 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	4	7	10	5	14	23	19	17	0	99 (3,170)
	K41b	4	7	10	5	14	24	18	17	0	99 (1,591)
	M41b	5	6	11	5	14	22	19	17	1	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	4	11	7	5	15	25	18	13	2	100 (3,302)
	KF6b	4	11	7	5	15	25	18	14	2	101 (1,729)
	MF6b	4	10	8	5	16	25	18	12	2	100 (1,573)
XI (2003)	K+M	5	11	6	5	14	23	19	16	0	99 (2,350)
	K39	5	10	7	5	14	23	20	15	0	99 (1,192)
	M34	5	12	5	5	14	22	18	18	0	99 (1,158)
X (1998)	K+M	6	12	5	5	16	23	18	15	0	100 (2,680)
	K39	5	11	5	5	16	23	18	16	0	99 (1,339)
	M35	7	13	4	5	16	23	18	14	0	100 (1,341)
IX (1993)	K+M	7	12	5	6	17	24	19	10	1	101 (3,738)
	K41b	7	13	5	6	16	25	19	9	1	101 (1,833)
	M35b	7	11	5	6	17	24	19	11	0	100 (1,905)
VIII (1988)	K+M	7	12	7	5	16	20	18	13	1	99 (3,682)
	K職業b	7	13	8	5	15	21	18	13	1	101 (1,858)
	M職業b	8	12	7	5	17	20	18	13	1	101 (1,824)
VII (1983)	×										
VI (1978)	×										
V (1973) <small>注)</small>	K+M	13	10	5	3	16	16	26	10	1	100 (4,594)
	K職業	13	10	5	3	16	16	26	10	1	100 (3,055)
	M30	13	11	5	2	15	16	27	10	1	100 (1,539)
IV (1968)	×										
III (1963)	×										
II (1958)	×										
I (1953)	×										

注) 第5次(1973)調査のコード(#1.4*)を順序を変えて組み込んだ。

#1.4d* 勤務形態

[リスト] あなたは、最近一週間に、何か収入を伴う仕事をしましたか。つぎの中のどれに当たりますか？

(仕事には自営業、農業などの手伝いや内職、パートタイム、アルバイトも含まれますが、家事や通学は含みません。)

1	(少しでも仕事をした場合)	主に仕事をした
2	(")	家事などのかたわら仕事をした
3	(")	通学のかたわら仕事をした
4	(少しも仕事をしなかった場合)	仕事を休んでいた
5	(")	仕事を探していた
6	(")	家事をした
7	(")	通学
8	(")	引退・年金生活など
9	その他 [記入]	
		10 D. K.

	問	1 主に仕事	2 家事と仕事	3 通学と仕事	4 仕事を休んでいた	5 仕事を探していた	6 家事	7 通学	8 引退・年金生活	9 その他	10 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	53	11	1	1	1	17	1	14	1	0	100 (3,170)
	K41a	54	11	1	2	1	17	1	14	1	0	102 (1,591)
	M41a	52	10	1	1	1	18	1	14	1	0	99 (1,579)
XII (2008)	K+M	56	10	1	2	1	18	1	10	0	0	99 (3,302)
	KF6a	55	10	1	2	1	18	1	10	0	0	98 (1,729)
	MF6a	58	10	1	2	1	18	0	10	-	0	100 (1,573)
XI (2003)	×											
X (1998)	×											
IX (1993)	×											
VIII (1988)	×											
VII (1983)	×											
VI (1978)	×											
V (1973)	×											
IV (1968)	×											
III (1963)	×											
II (1958)	×											
I (1953)	×											

[参考]

#1.4d 勤務形態

[リスト] あなたは、最近一週間に、何か収入を伴う仕事をしましたか。つぎの中のどれに当たりますか？

(仕事には自営業、農業などの手伝いや内職、パートタイム、アルバイトも含まれますが、家事や通学は含みません。)

1	(少しでも仕事をした場合)	主に仕事をした
2	(")	家事などのかたわら仕事をした
3	(")	通学のかたわら仕事をした
4	(少しも仕事をしなかった場合)	仕事を休んでいた
5	(")	仕事を探していた
6	(")	家事をした
7	(")	通学
8	その他(高齢など) [記入]	9 D.K.

	問	1 主に仕事	2 家事と仕事	3 通学と仕事	4 仕事を休んでいた	5 仕事を探していた	6 家事	7 通学	8 その他	9 D.K.	計
XIII (2013)	×										
XII (2008)	×										
XI (2003)	×										
X (1998)	×										
IX (1993)	K+M	58	13	1	2	1	19	1	6	0	101 (3,738)
	K41a	57	14	1	2	1	18	1	5	0	99 (1,833)
	M35a	58	12	1	2	1	19	1	6	0	100 (1,905)
VIII (1988)	×										
VII (1983)	×										
VI (1978)	×										
V (1973)	×										
IV (1968)	×										
III (1963)	×										
II (1958)	×										
I (1953)	×										

#1.5 市郡別

	問	1	2	3	4	5	6	7	計
		6 大 都 市 ^{注1)}	市					町 村	
			50 万 以 上	20 万 以 上	10 万 以 上	5 万 以 上	5 万 未 満		
XIII (2013)	K+M	11	15	21	18	16	8	11	100 (3,170)
	K市郡	12	14	21	18	17	7	11	100 (1,591)
	M市郡	11	16	20	18	16	8	11	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	12	13	22	15	14	8	16	100 (3,302)
	K市郡	11	13	22	15	15	7	16	99 (1,729)
	M市郡	12	13	22	14	13	8	17	99 (1,573)
XI (2003)	K+M	13	12	18	13	14	6	23	99 (2,350)
	K市郡	12	12	19	14	14	6	23	100 (1,192)
	M市郡	13	12	18	12	14	6	24	99 (1,158)
X (1998)	K+M	12	10	22	13	11	8	24	100 (2,680)
	K市郡	12	11	21	13	11	8	24	100 (1,339)
	M市郡	12	10	22	13	12	7	25	101 (1,341)
IX (1993)	K+M	12	10	21	11	14	6	25	99 (3,738)
	K市郡	12	10	21	11	15	6	25	100 (1,833)
	M市郡	13	10	22	11	14	5	25	100 (1,905)
VIII (1988)	K+M	12	9	20	11	14	7	26	99 (3,682)
	K市郡	12	9	20	11	15	7	26	100 (1,858)
	M市郡	13	9	21	11	13	7	26	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	14	8	20	11	14	7	25	99 (4,429)
	K市郡	14	8	20	12	14	7	25	100 (2,256)
	M市郡	14	8	20	11	14	7	25	99 (2,173)
VI (1978)	K+M	15	26		10	15	8	26	100 (3,945)
	K市郡	15	27		10	15	8	25	100 (2,032)
	M市郡	16	26		10	15	8	26	101 (1,913)
V (1973)	K+M	18	23		9	12	10	28	100 (4,594)
	K市郡	18	23		10	12	10	28	101 (3,055)
	M市郡	18	23		9	12	10	28	100 (1,539)
IV (1968)	市郡	17	17		10	12	11	32	99 (3,033)
III (1963)	市郡	16	12		11	11	11	38	99 (2,698)
II (1958)	市郡	15	10		9	9	13	44	100 (2,369)
I (1953)	市郡	14	7		6	6	7	61	101 (2,254)

注1) 6大都市は、東京23区、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市。

注) サンプル台帳より

#1.6 地方別

北海道	: 北海道
東北	: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部(東)	: 新潟、山梨、長野、静岡
中部(西)	: 富山、石川、福井、岐阜、愛知
近畿	: 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	: 鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	: 香川、愛媛、徳島、高知
九州	: 福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、(V以降) 沖縄

	問	1 北 海 道	2 東 北	3 関 東	4 中 部 (東)	5 中 部 (西)	6 近 畿	7 中 国	8 四 国	9 九 州	計
XIII (2013)	K+M	5	8	29	9	9	17	7	4	12	100 (3,170)
	K地方	4	8	29	10	9	17	7	4	12	100 (1,591)
	M地方	5	8	29	8	10	17	7	4	13	101 (1,579)
XII (2008)	K+M	5	8	29	9	10	16	7	3	12	99 (3,302)
	K地方	5	9	28	9	10	17	6	3	13	100 (1,729)
	M地方	4	8	30	9	10	15	7	3	12	98 (1,573)
XI (2003)	K+M	5	8	29	8	11	15	7	3	13	99 (2,350)
	K地方	5	8	29	9	10	15	7	3	13	99 (1,192)
	M地方	6	9	29	8	11	15	6	3	13	100 (1,158)
X (1998)	K+M	5	8	27	8	10	18	8	4	13	101 (2,680)
	K地方	5	8	27	8	9	17	8	4	13	99 (1,339)
	M地方	5	8	27	8	10	18	8	4	12	100 (1,341)
IX (1993)	K+M	5	8	29	9	10	15	7	4	13	100 (3,738)
	K地方	5	8	28	9	10	15	8	4	13	100 (1,833)
	M地方	5	8	29	9	10	16	7	4	13	101 (1,905)
VIII (1988)	K+M	5	8	26	10	10	17	7	4	12	99 (3,682)
	K地方	5	8	27	10	10	17	7	4	12	100 (1,858)
	M地方	5	9	26	10	9	17	8	4	12	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	4	9	29	8	10	17	7	4	12	100 (4,429)
	K地方	4	9	29	8	10	17	7	4	11	99 (2,256)
	M地方	5	8	28	8	10	17	7	4	12	99 (2,173)
VI (1978)	K+M	4	9	28	8	11	18	7	3	12	100 (3,945)
	K地方	4	9	28	8	11	18	7	3	12	100 (2,032)
	M地方	4	9	28	8	11	18	6	3	13	100 (1,913)
V (1973)	K+M	4	9	28	8	10	18	7	3	13	100 (4,594)
	K地方	4	9	28	8	10	17	7	3	13	99 (3,055)
	M地方	5	9	28	7	11	18	7	3	12	100 (1,539)
IV (1968)	地方	5	10	25	9	9	16	8	4	13	99 (3,033)
III (1963)	地方	5	10	23	9	10	17	8	4	13	99 (2,698)
II (1958)	地方	5	10	24	8	9	14	8	5	15	98 (2,369)
I (1953)	地方	5	11	22	8	9	15	8	6	15	99 (2,254)

注) サンプリング台帳より

#1.8 帰属階層

[リスト] かりに現在の日本の社会全体を、この表にかいてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅は、このどれに入ると思いますか？

1 上	
2 中の上	
3 中の中	
4 中の下	
5 下	
6 その他 [記入]	7 D. K.

	問	1 上	2 中の 上	3 中の 中	4 中の 下	5 下	6 その 他	7 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	1	13	56	24	4	-	2	100 (3,170)
	K39	2	13	54	25	4	-	2	100 (1,591)
	M26	1	13	57	24	3	-	2	100 (1,579)
XII (2008)	M24	2	10	55	28	4	-	1	100 (1,573)
XI (2003)	M24	1	10	57	25	4	-	3	100 (1,158)
X (1998)	M24	1	10	57	26	4	-	2	100 (1,341)
IX (1993)	K+M	1	12	58	23	3	-	2	99 (3,738)
	K37	1	11	57	23	4	-	3	99 (1,833)
	M22	2	12	58	23	2	-	2	99 (1,905)
VIII (1988)	K+M	1	12	52	27	5	0	2	99 (3,682)
	K32	2	12	52	27	5	0	2	100 (1,858)
	M23	1	13	51	27	5	0	3	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	2	12	53	26	5	0	2	100 (4,429)
	K33	2	13	53	24	5	0	2	99 (2,256)
	M30	1	11	52	28	5	0	3	100 (2,173)
VI (1978)	×								
V (1973)	×								
IV (1968)	×								
III (1963)	×								
II (1958)	×								
I (1953)	×								

#1.11b インターネット使用頻度

[リスト] あなたは、ふだん、ホームページ（ウェブ）の閲覧や電子メールでのやりとりなどのために、インターネットを利用していますか。仕事上の利用と私的な利用のどちらでもかまいませんか？

1	ほぼ毎日利用している
2	たまに利用している
3	ほとんど利用していない
4	全く利用していない
5	その他 [記入]
6	D. K.

	問	1 ほぼ毎日 利用して いる	2 たまに 利用して いる	3 ほとん ど利用 してい ない	4 全 く利 用し てい ない	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	K+M	43	15	6	36	0	0	100 (3,170)
	K49	43	16	6	35	0	0	100 (1,591)
	M49	43	14	5	37	0	0	99 (1,579)
XII (2008)	×							
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

[参考]

#1.11 インターネット使うか

あなたは現在、ご自宅でパソコンを使ってインターネットを利用されていますか？

1 利用している	4 D. K.
2 利用していない	
3 その他 [記入]	

	問	1 利用 している	2 利用 してい ない	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	×					
	K+M	45	55	0	0	100 (3,302)
XII (2008)	KF3	45	55	0	0	100 (1,729)
	MF3	44	55	0	0	99 (1,573)
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#1.21b 住居の種類

[リスト] では、お宅様の住居の種類はつぎのどれに当たりますか？

1	持ち家	
2	都道府県・市区町村営の賃貸住宅	
3	都市再生機構・公社等の賃貸住宅	
4	民営の賃貸住宅	
5	給与住宅（社宅・公務員住宅など）	
6	住宅に間借り	
7	会社等の独身寮・寄宿舍	
8	その他 [記入]	9 D.K.

	問	1 持ち家	2 公営の借家	3 都市機構・ 公社の借家	4 民営の借家	5 給与住宅	6 間借り	7 独身寮・ 寄宿舍	8 その他	9 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	80	3	1	13	1	0	0	0	0	98 (3,170)
	K43	81	4	1	12	1	1	0	0	0	100 (1,591)
	M43	80	3	1	14	1	0	0	0	0	99 (1,579)
XII (2008)	K+M	80	4	1	11	2	1	0	0	0	99 (3,302)
	KF7	81	4	1	12	1	1	0	0	0	100 (1,729)
	MF7	80	4	2	11	2	1	0	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	×										
X (1998)	×										
IX (1993)	×										
VIII (1988)	×										
VII (1983)	×										
VI (1978)	×										
V (1973)	×										
IV (1968)	×										
III (1963)	×										
II (1958)	×										
I (1953)	×										

注) この質問文は国勢調査（総務省統計局）における調査項目を変更したものである。

#1.22 世帯人員数

あなたの世帯には、全部で何人の方が住んでいらっしゃいますか？

[当該世帯にすでに3ヶ月以上住んでいるか、まだ3ヶ月にならないが3ヶ月以上にわたって住むことになっている人の数。単身の住み込みの雇い人も含む。間借りや下宿している単身者は、一人世帯とする。]

本人を含め、全部で _____ 人

	問	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	D.K.	計
XIII (2013)	K+M	9	29	22	21	11	5	2	1	0	-	100 (3,170)
	K45 前半	9	29	23	21	11	5	2	1	1	-	102 (1,591)
	M45 前半	9	29	22	21	11	5	2	1	0	-	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	8	26	24	22	12	5	3	1	0	0	101 (3,302)
	KF8	8	25	23	22	11	6	3	1	0	-	99 (1,729)
	MF8	7	26	24	21	13	4	3	1	0	0	99 (1,573)
XI (2003)	K+M	8	24	21	23	12	8	3	1	0	0	100 (2,350)
	K40	8	23	20	24	12	8	3	1	0	0	99 (1,192)
	M35	7	25	23	22	12	8	3	1	0	0	101 (1,158)
X (1998)	×											
IX (1993)	×											
VIII (1988)	×											
VII (1983)	×											
VI (1978)	×											
V (1973)	×											
IV (1968)	×											
III (1963)	×											
II (1958)	×											
I (1953)	×											

#1.22b* 20歳以上85歳未満世帯人員数

そのうちあなたをふくめて20歳以上85歳未満の方は、何人いらっしゃいますか？

[当該世帯にすでに3ヶ月以上住んでいるか、まだ3ヶ月にならないが3ヶ月以上にわたって住むことになっている人の数。単身の住み込みの雇い人も含む。間借りや下宿している単身者は、一人世帯とする。]

20歳以上85歳未満は _____ 人

	問	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	D.K.	計
	K+M	11	47	21	14	5	2	0	0	-	-	100 (3,170)
XIII (2013)	K45 後半	11	47	21	13	5	2	0	-	-	-	99 (1,591)
	K45 後半	11	46	21	16	4	1	0	0	-	-	99 (1,579)
XII (2008)	×											
XI (2003)	×											
X (1998)	×											
IX (1993)	×											
VIII (1988)	×											
VII (1983)	×											
VI (1978)	×											
V (1973)	×											
IV (1968)	×											
III (1963)	×											
II (1958)	×											
I (1953)	×											

#1.22c* 年齢順

お宅の世帯の 85 歳未満の方の中で、あなたは年齢が上から何番目に当たりますか？

1	1 番目	
2	2 番目	
3	3 番目	
4	4 番目	
5	5 番目	
6	6 番目以降	
7	D. K.	

	問	1 1 番 目	2 2 番 目	3 3 番 目	4 4 番 目	5 5 番 目	6 6 番 目 以 降	7 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	47	37	11	5	1	0	-	101 (3,170)
	K46	46	37	11	4	1	0	-	99 (1,591)
	M46	47	37	10	5	1	0	-	100 (1,579)
XII (2008)	×								
XI (2003)	×								
X (1998)	×								
IX (1993)	×								
VIII (1988)	×								
VII (1983)	×								
VI (1978)	×								
V (1973)	×								
IV (1968)	×								
III (1963)	×								
II (1958)	×								
I (1953)	×								

#1.23 世帯主との続柄

[リスト] 世帯主の方からみて、あなたはどなたに当たりますか？

1	世帯主本人	
2	世帯主の配偶者	
3	世帯主の子	
4	世帯主の子の配偶者	
5	世帯主の父母	
6	世帯主の孫	
7	その他 [記入]	8 D.K.

	問	1 世帯主本人	2 世帯主の 配偶者	3 世帯主の 子	4 世帯主の 子の 配偶者	5 世帯主の 父母	6 世帯主の 孫	7 その他	8 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	47	35	13	2	3	1	1	-	102 (3,170)
	K47	46	35	13	2	3	1	1	-	101 (1,591)
	M47	47	35	13	2	3	0	1	-	101 (1,579)
XII (2008)	K+M	47	35	13	2	2	0	0	0	99 (3,302)
	KF10	48	34	13	2	2	0	0	0	99 (1,729)
	MF10	47	36	12	2	2	1	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	×									
X (1998)	×									
IX (1993)	×									
VIII (1988)	×									
VII (1983)	×									
VI (1978)	×									
V (1973)	×									
IV (1968)	×									
III (1963)	×									
II (1958)	×									
I (1953)	×									

#1.24 世帯類型

[リスト] お宅様の世帯は、このように分類した場合、この中のどれにあたりますか？

1	1人世帯	
2	1世代世帯（夫婦だけ）	
3	2世代世帯（親と子）	
4	3世代世帯（親と子と孫）	
5	その他の世帯 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 1 人世帯	2 1 世代世帯	3 2 世代世帯	4 3 世代世帯	5 そ 他の 世帯	6 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	9	23	49	16	2	0	99 (3,170)
	K48	9	24	49	15	2	0	99 (1,591)
	M48	9	23	49	16	2	-	99 (1,579)
XII (2008)	×							
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#1.80 休日は在宅か

[リスト] 休日は、あなたのご在宅のことが多いですか、それともお出かけのことが多いですか？

1	ほとんど在宅している	
2	どちらかといえば在宅している方が多い	
3	どちらかといえば出かけている方が多い	
4	ほとんど家にはいない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 ほとん ど在宅	2 在宅 方が多 い	3 出 かけ 方が多 い	4 家ほと んどの はいな い	5 その 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	22	27	40	9	1	1	100 (3,170)
	K51	21	29	39	9	1	0	99 (1,591)
	M51	22	25	42	9	1	1	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	23	27	39	9	1	1	100 (3,302)
	KF12	22	29	37	10	2	2	102 (1,729)
	MF12	25	25	41	8	1	1	101 (1,573)
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#1.90* 調査協力理由

[リスト] 最後に、今回調査にご協力いただいた理由はどういったことでしょうか。あなたの気持ちに一番近いものを一つお選び下さい？

1	役に立ちたいと思ったから	
2	内容が面白そうだったから	
3	公的な研究機関が行う調査だから	
4	今までに、こういう調査に協力したことがほとんどなかったから	
5	特に断る理由もなかったから	
6	その他 [記入]	7 D. K.

	問	1 役に 立ち たい	2 内 容 が 面 白 そ う	3 公 的 な 研 究 機 関	4 今 ま で に 協 力 し た こ と が な い	5 断 る 理 由 も な い	6 そ の 他	7 D. K.	計
XIII (2013)	K+M	17	3	24	10	42	3	1	100 (3,170)
	K52	17	3	24	10	42	3	1	100 (1,591)
	M52	17	3	24	10	43	3	1	101 (1,579)
XII (2008)	K+M	16	3	24	10	43	3	1	100 (3,302)
	KF13	17	3	23	10	43	3	1	100 (1,729)
	MF13	16	3	24	10	44	2	2	101 (1,573)
XI (2003)	×								
X (1998)	×								
IX (1993)	×								
VIII (1988)	×								
VII (1983)	×								
VI (1978)	×								
V (1973)	×								
IV (1968)	×								
III (1963)	×								
II (1958)	×								
I (1953)	×								

#1.91 再協力の意向

[リスト] 仮にこういった調査がもう一度あるとしたら、あなたはどうしますか？

1	必ず答えるようにしたい	
2	なるべく答えるようにしたい	
3	あまり答えたくない	
4	答えたくない	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 必ず 答える	2 なるべく 答える ように	3 あまり 答え たく ない	4 答え たく ない	5 そ の 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	K+M	19	51	18	10	1	2	101 (3,170)
	K50	18	51	18	10	1	2	100 (1,591)
	M50	20	50	17	11	1	2	101 (1,579)
XII (2008)	K+M	20	48	21	8	1	2	100 (3,302)
	KF11	19	48	22	9	1	2	101 (1,729)
	MF11	20	49	21	7	1	2	100 (1,573)
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

§2 個人的態度

#2.1 しきたりに従うか

あなたは、自分が正しいと思えば世のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間のしきたりに、従った方がまちがいないと思いますか？

1 おし通せ	
2 従え	
3 場合による	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 おし 通せ	2 従え	3 場 合 に よ る	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	K 8	20	37	40	0	2	99 (1,591)
XII (2008)	K 7	21	37	40	0	2	100 (1,729)
XI (2003)	K 7	21	27	48	1	3	100 (1,192)
X (1998)	K 7	27	32	39	0	2	100 (1,339)
IX (1993)	K 6	26	30	42	0	2	100 (1,833)
VIII (1988)	K 7	27	36	35	1	2	101 (1,858)
VII (1983)	K+M	29	39	29	1	2	100 (4,429)
	K 6	30	37	30	1	2	100 (2,256)
	M 5	29	40	28	1	2	100 (2,173)
VI (1978)	K 6	30	42	24	2	2	100 (2,032)
V (1973)	K11	36	32	29	0	3	100 (3,055)
IV (1968)	8	42	34	20	2	2	100 (3,033)
III (1963)	7	40	32	25	1	2	100 (2,698)
II (1958)	7 107	41	35	19	1	4	100 (2,369)
I (1953)	4	41	35	19	1	4	100 (2,254)

#2.2b スジかまるるか

[リスト] 物事の「スジを通すこと」に重点をおく人と、物事を「まるくおさめること」に重点をおく人では、どちらがあなたの好きな“ひとがら”ですか？

1 「スジを通すこと」に重点をおく人	
2 「まるくおさめること」に重点をおく人	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 スジを通す	2 まるく おさめる	3 その他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K32	43	53	2	3	101 (1,591)
XII (2008)	K29	43	54	1	2	100 (1,729)
XI (2003)	K30	42	52	2	4	100 (1,192)
X (1998)	K29	43	54	1	2	100 (1,339)
IX (1993)	K28	38	56	2	4	100 (1,833)
VIII (1988)	K25	42	54	2	2	100 (1,858)
VII (1983)	K27	45	51	2	2	100 (2,256)
VI (1978)	K13	44	50	4	2	100 (2,032)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.3 幸福か

ひとくちでいうと、あなたは幸福だと思いますか？

1 幸福 (まあまあ、ふつうをふくむ)	
2 不幸 (幸福でない)	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 幸福	2 不幸	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K14	94	3	1	2	100 (1,591)
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	20	81	13	1	4	99 (920)
I (1953)	×					

#2.3* 幸福か (11 段階)

[リスト] 現在、あなた自身はどの程度幸せですか。「とても幸せ」を5点、「とても不幸」を-5点、「ふつう」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。数字を一つだけ選んで下さい？

5点 [とても幸せ]	
4点	
3点	
2点	
1点	
0点 [ふつう]	
-1点	
-2点	
-3点	
-4点	
-5点 [とても不幸]	99 D. K.

	問	-5 点	-4 点	-3 点	-2 点	-1 点	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	D. K.	計
XIII (2013)	M38	1	0	1	2	2	24	6	14	25	15	10	-	100 (1,579)
XII (2008)	×													
XI (2003)	×													
X (1998)	×													
IX (1993)	×													
VIII (1988)	×													
VII (1983)	×													
VI (1978)	×													
V (1973)	×													
IV (1968)	×													
III (1963)	×													
II (1958)	×													
I (1953)	×													

#2.3d 社会に満足か

[リスト] あなたは、「社会」に対して満足していますか、それとも、不満がありますか？

1 満足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不満	
5 その他 [記入]	
	6 D.K.

	問	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M21a	4	39	45	11	—	2	101 (1,579)
XII (2008)	M19a	2	28	51	18	—	2	101 (1,573)
XI (2003)	M20a	3	27	51	17	0	2	100 (1,158)
X (1998)	M21a	4	24	50	21	0	2	101 (1,341)
IX (1993)	M20a	6	44	38	10	0	2	100 (1,905)
VIII (1988)	K+M	6	29	43	18	1	3	100 (3,682)
	K31b	7	28	44	19	1	2	101 (1,858)
	M20b	6	30	42	18	1	3	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	9	31	39	18	1	2	100 (4,429)
	K32b	9	29	39	20	1	2	100 (2,256)
	M19	9	34	39	16	1	2	101 (2,173)
VI (1978)	M 5b	9	28	38	19	1	5	100 (1,913)
V (1973)	M 9b	6	20	37	30	1	6	100 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

注) 第5次(1973)～第7次(1983) K型、第8次(1988)調査の質問文では前問(#2.3c)に続けて「では、社会に対してはどうですか？」

#2.3i 仕事や職場に満足か

[リスト] では、「仕事や職場」についてはどうですか？

1	満 足	
2	やや満足	
3	やや不満	
4	不 満	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 満 足	2 や や 満 足	3 や や 不 満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M21b	11	42	25	5	4	13	100 (1,579)
XII (2008)	M19b	12	40	26	5	0	17	100 (1,573)
XI (2003)	M20b	13	36	27	6	3	16	101 (1,158)
X (1998)	M21b	13	38	27	6	0	16	100 (1,341)
IX (1993)	M20b	16	42	21	3	1	16	99 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.3c 家庭に満足か

[リスト] では、「家庭」についてはどうですか？

1 満足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M21c	39	49	10	1	0	1	100 (1,579)
XII (2008)	M19c	42	46	10	1	—	1	100 (1,573)
XI (2003)	M20c	35	52	10	2	0	1	100 (1,158)
X (1998)	M21c	44	44	10	1	0	1	100 (1,341)
IX (1993)	M20c	51	40	7	1	0	0	99 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	K32a	53	33	10	3	0	1	100 (2,256)
VI (1978)	M 5a	54	32	8	4	0	1	99 (1,913)
V (1973)	M 9a	47	33	13	5	1	1	100 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

注) 第5次(1973)～第7次(1983)調査の質問文は以下のとおり。

あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか？

#2.3j 余暇に満足か

[リスト] では、「余暇（レジャー）の過ごし方」についてはどうですか？

1	満 足	
2	やや満足	
3	やや不満	
4	不 満	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 満 足	2 や や 満 足	3 や や 不 満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M21d	25	52	19	3	0	1	100 (1,579)
XII (2008)	M19d	22	52	20	4	0	1	99 (1,573)
XI (2003)	M20d	22	49	22	5	0	1	99 (1,158)
X (1998)	M21d	22	48	22	5	0	2	99 (1,341)
IX (1993)	M20d	20	48	25	6	0	2	101 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.3k 健康状態に満足か

[リスト] では、「自分の健康状態」についてはどうですか？

1	満 足	
2	やや満足	
3	やや不満	
4	不 満	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 満 足	2 や や 満 足	3 や や 不 満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M21e	21	45	28	6	–	0	100 (1,579)
XII (2008)	M19e	23	44	27	6	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	M20e	23	44	25	8	–	0	100 (1,158)
X (1998)	M21e	27	41	24	7	–	0	99 (1,341)
IX (1993)	M20e	34	41	21	4	0	0	100 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.31 生活全体に満足か

[リスト] では、「自分の生活全体」についてはどうですか？

1	満 足	
2	やや満足	
3	やや不満	
4	不 満	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 満 足	2 や や 満 足	3 や や 不 満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M21f	19	59	18	4	0	0	100 (1,579)
XII (2008)	M19f	19	59	18	4	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	M20f	18	58	20	3	0	1	100 (1,158)
X (1998)	M21f	21	55	20	3	0	0	99 (1,341)
IX (1993)	M20f	23	58	17	3	0	0	101 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.3h くらしむぎ満足か

[リスト] あなたは、自分の暮し向きに満足していますか、それとも、不満がありますか？

1 満足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不満	
5 その他 [記入]	
	6 D.K.

	問	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M16	32	50	14	3	0	0	99 (1,579)
XII (2008)	M14	31	51	13	4	0	0	99 (1,573)
XI (2003)	M13	30	48	17	5	0	0	100 (1,158)
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	K+M	30	45	19	5	0	0	99 (3,682)
	K31a	32	44	17	6	0	0	99 (1,858)
	M20a	29	45	20	5	1	1	101 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.4 くらし方

[リスト] 人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあげるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか？

1	一生けんめい働き、金持ちになること
2	まじめに勉強して、名をあげること
3	金や名誉を考えずに、自分の趣味にあつたくらし方をする
4	その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと
5	世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと
6	自分の <small>いっしん</small> 一身のことを考えずに、社会のためにすべてを <small>きさ</small> 捧げてくらすこと
7	その他 [記入]
8	D. K.

	問	1 金持ち	2 名をあげる	3 趣味	4 のんきに	5 清く正しく	6 社会に つくす	7 その他	8 D. K.	計
XIII (2013)	K25	18	4	36	26	5	4	1	4	98 (1,591)
XII (2008)	K22	15	3	39	27	5	5	1	5	100 (1,729)
XI (2003)	K24	17	4	39	23	7	4	4	4	102 (1,192)
X (1998)	K22	15	3	41	23	8	4	2	4	100 (1,339)
IX (1993)	K+M	17	3	40	26	6	4	2	3	101 (3,738)
	K22	17	2	38	25	6	5	3	3	99 (1,833)
	M10	16	3	41	26	6	4	1	3	100 (1,905)
VIII (1988)	K+M	15	3	41	23	9	4	2	3	100 (3,682)
	K18	17	3	38	23	9	4	2	3	99 (1,858)
	M 9	13	2	44	23	9	4	2	3	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	18	2	38	23	9	5	2	4	101 (4,429)
	K20	20	2	38	20	10	6	2	4	102 (2,256)
	M20	15	2	38	26	9	4	2	3	99 (2,173)
VI (1978)	K19	14	2	39	22	11	7	2	4	101 (2,032)
V (1973)	K34	14	3	39	23	11	4	2	3	99 (3,055)
IV (1968)	31	17	3	32	20	17	6	2	3	100 (3,033)
III (1963)	26	17	4	30	19	18	6	3	3	100 (2,698)
II (1958)	22	17	3	26	19	22	6	3	3	99 (920)
I (1953)	39	15	6	21	11	29	10	4	4	100 (2,254)

#2.5 自然と人間との関係

[リスト] 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、ひとつだけえらんで下さい？

1	人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない	
2	人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない	
3	人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかなければならない	
4	その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 自然 に従え	2 自然を 利用	3 自然を 征服	4 その 他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K22	48	41	6	1	4	100 (1,591)
XII (2008)	K19	51	38	5	1	5	100 (1,729)
XI (2003)	K21	45	43	5	2	6	101 (1,192)
X (1998)	K19	49	39	6	1	5	100 (1,339)
IX (1993)	K19	48	38	7	0	7	100 (1,833)
VIII (1988)	K15	42	44	9	1	4	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	36	47	11	1	4	99 (4,429)
	K17	41	41	12	1	4	99 (2,256)
	M17	31	53	11	1	4	100 (2,173)
VI (1978)	K16	33	44	16	1	6	100 (2,032)
V (1973)	K+M	31	45	17	1	7	101 (4,594)
	K23	30	45	16	1	7	99 (3,055)
	M20	32	44	18	1	6	101 (1,539)
IV (1968)	17	19	40	34	1	7	101 (3,033)
III (1963)	15	19	40	30	1	10	100 (2,698)
II (1958)	15	20	37	28	1	13	99 (920)
I (1953)	34	26	41	23	1	8	99 (2,254)

#2.7 一番大切なもの

あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。一つだけあげてください？（なんでもかまいません）

[品物、愛情、子供などなんでもよいが、こちらからは絶対に例をあげるな]

[自由回答]

	問	1 生命・ 健康・ 自分	2 子供	3 家族	4 家・ 先祖	5 金・ 財産	6 愛情・ 精神	7 仕事・ 信用	8 国家・ 社会	9 その他	10 D.K. 特になし	計
XIII (2013)	K10	18	7	44	1	4	18	2	2	2	2	100 (1,591)
XII (2008)	K 9	19	6	46	1	3	17	2	1	2	3	100 (1,729)
XI (2003)	K10a	21	7	45	1	5	13	2	2	1	3	100 (1,192)
X (1998)	K10a	22	9	40	1	3	17	3	2	1	3	101 (1,339)
IX (1993)	K10	17	10	42	1	4	16	3	1	2	4	100 (1,833)
VIII (1988)	K11	22	10	33	2	6	18	3	1	2	4	101 (1,858)
VII (1983)	K13	22	9	31	2	8	19	5	1	1	3	101 (2,256)
VI (1978)	K32	23	7	23	1	6	27	6	4	1	3	101 (2,032)
V (1973)	K41	21	8	18	2	9	22	5	5	1	10	101 (3,055)
IV (1968)	34	29	9	13	3	9	22	5	4	1	6	101 (3,033)
III (1963)	29	28	10	13	3	11	19	5	3	1	7	100 (2,698)
II (1958)	²⁹ 129	22	11	12	3	15	16	7	6	1	6	99 (2,369)
I (1953) ^{注1)}	47	12	12	19	*	16	11	*	*	25	5	100 (2,254)

注1) 第1次(1953)調査の質問文は、「あなたの家で一番大切と思う……」。*にあたる回答は「その他」に入れてある。

注) 第10次(1998)調査では、本項目をアフターコーディングする際の分類基準の見直しを行ない、第2次(1958)～第9次(1993)調査についても再集計を行なった。このため、第2次～第9次の数値は、従来発表されているものと若干異なる。

#2.8 一生働くか

もし、一生楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか？

1 ずっと働く	
2 働くのをやめる	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 ずっと 働く	2 働くの やめを る	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M 4	62	32	2	3	99 (1,579)
XII (2008)	M 4	63	32	2	3	100 (1,573)
XI (2003)	M 3	59	35	3	3	100 (1,158)
X (1998)	M 4	64	31	1	4	100 (1,341)
IX (1993)	M 1	60	33	2	5	100 (1,905)
VIII (1988)	K+M	65	28	5	3	101 (3,682)
	K 3	68	25	5	2	100 (1,858)
	M 1	62	30	5	3	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	70	24	3	3	100 (4,429)
	K 2	73	23	2	2	100 (2,256)
	M 1	67	25	4	3	99 (2,173)
VI (1978)	K 1	69	25	3	3	100 (2,032)
V (1973)	M 2	70	25	3	2	100 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.10 幸福かためになることか

[リスト] 2人の人が、つぎのような意見をのべました。あなたは、どちらの意見に賛成ですか？

1	人間として生きてきたからには、自分がしあわせにくらすことが第一だ
2	人間として生きてきたからには、なにか小さなことでも、世の中のためになることをしたい
3	その他 [記入]
4	D. K.

	問	1 し あ わ せ に く ら す に	2 た 世 め の 中 に な る	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K28	37	61	0	2	100 (1,591)
XII (2008)	K25	34	63	1	2	100 (1,729)
XI (2003)	K26	36	59	1	4	100 (1,192)
X (1998)	K25	35	62	1	2	100 (1,339)
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	M11	27	66	2	4	99 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.11 好きなくらし方か人のためか

[リスト] あなたは、つぎの2つの暮^{くら}し方のうち、どちらに賛成ですか？

- 1 人のためにはならなくても、自分の好きなことをしたい
 2 自分の好きなことかどうかはともかく、人のためになることをしたい
 3 その他 [記入] 4 D. K.

	問	1 好自 き分 な こ と	2 人 の た め に な る こ と	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M11	41	53	2	4	100 (1,579)
XII (2008)	M10	40	54	3	4	101 (1,573)
XI (2003)	M 9	40	52	4	5	101 (1,158)
X (1998)	M10	38	53	3	6	100 (1,341)
IX (1993)	M11	44	48	2	6	100 (1,905)
	K+M	42	49	4	4	99 (3,682)
VIII (1988)	K19	40	52	5	4	101 (1,858)
	M10	44	47	4	5	100 (1,824)
VII (1983)	K21a	37	55	4	5	101 (2,256)
VI (1978)	M 6	35	55	5	5	100 (1,913)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.11b 可能性をためすか

[リスト] では、つぎの2つのうち、どちらがあなたの気持ちに近いですか？

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 仕事や遊びなどで自分の可能性をためすために、できるだけ多くの経験をしたい |
| 2 | わずらわしいことはなるべく避けて、平穏無事に暮らしたい |
| 3 | その他 [記入] |
| 4 | D. K. |

	問	1 多くの 経験	2 平穏 無事	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M12	60	39	0	1	100 (1,579)
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	K21b	63	35	1	1	100 (2,256)
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.12 他人のためか自分のためか

たいていの方は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも、自分のことだけに気をくばっていると思いますか？

1 他人の役にたとうとしている	
2 自分のことだけに気をくばっている	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 他人の 役に	2 自分 のこ とだ け	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K16	45	42	5	8	100 (1,591)
XII (2008)	K13	36	51	4	8	99 (1,729)
XI (2003)	K14	34	51	6	9	100 (1,192)
X (1998)	K14	30	60	3	6	99 (1,339)
IX (1993)	K14	29	58	5	7	99 (1,833)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	K 7	24	62	9	5	100 (2,256)
VI (1978)	K27	19	74	3	4	100 (2,032)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.12b スキがあれば利用されるか

他人は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それとも、そんなことはないと思いますか？

1	利用しようとしていると思う			
2	そんなことはないと思う			
3	その他 [記入]		4	D. K.

	問	1 と利用 している	2 そんなこ はない	3 その他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K17	24	67	3	7	101 (1,591)
XII (2008)	K14	28	62	3	7	100 (1,729)
XI (2003)	K15	25	62	3	9	99 (1,192)
X (1998)	K15	28	61	2	9	100 (1,339)
IX (1993)	K15	25	65	2	8	100 (1,833)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	K 8	29	59	7	5	100 (2,256)
VI (1978)	K28	39	53	3	5	100 (2,032)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

注) 『第4日本人の国民性』では#7.20c に分類

#2.12c 人は信頼できるか

たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、用心するにこしたことはないと思いますか？

1 信頼できると思う	
2 用心するにこしたことはないと思う	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 信頼 できる	2 用 心 が し た 方	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K18	36	59	2	4	101 (1,591)
XII (2008)	K15	30	64	2	4	100 (1,729)
XI (2003)	K16	33	59	3	5	100 (1,192)
X (1998)	K16	33	62	2	4	101 (1,339)
IX (1993)	K16	38	55	3	4	100 (1,833)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	K 9	31	61	5	2	99 (2,256)
VI (1978)	K29	26	68	3	3	100 (2,032)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

注) 『第4日本人の国民性』では#7.20bに分類

#2.13 将来に備えるか楽しむか

[リスト] 若いときは、将来に備えるための時期であり、また、楽しむための時期でもあると思います。あなたはそのどちらの方に重点をおくべきだと思いますか？

1 将来に備える方に重点をおくべきだ	
2 楽しむ方に重点をおくべきだ	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 将来に 備える 方	2 楽し む方	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M14	65	31	2	2	100 (1,579)
XII (2008)	M12	64	31	2	2	99 (1,573)
XI (2003)	M11	66	30	2	2	100 (1,158)
X (1998)	M12	65	30	2	3	100 (1,341)
IX (1993)	M13	67	29	2	2	100 (1,905)
VIII (1988)	K20	69	27	3	2	101 (1,858)
VII (1983)	×					
VI (1978)	M 7	72	23	2	2	99 (1,913)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.30 不安感 重い病気

[リスト] ときどき、自分自身のことや家族のことで、不安になることがあると思います。あなたは、つぎのような危険について、不安を感じることがありますか。

まず、「重い病気」の不安は、どの程度でしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	
	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まった く感じ ない	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M17a	22	23	41	14	—	0	100 (1,579)
XII (2008)	M15a	24	24	40	13	—	0	101 (1,573)
XI (2003)	M14a	23	21	40	16	0	0	100 (1,158)
X (1998)	M15a	27	23	35	15	—	0	100 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M25a	29	27	35	8	0	1	100 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30c 不安感 街での暴力

[リスト] では、「街での暴力」については、どの程度でしょうか？

1	非常に感じる	
2	かなり感じる	
3	少しは感じる	
4	まったく感じない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まっ たっ た く 感 じ な い く	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17b	13	19	40	28	—	1	101 (1,579)
XII (2008)	M15b	16	22	40	21	—	1	100 (1,573)
XI (2003)	M14b	16	25	37	21	—	1	100 (1,158)
X (1998)	M15b	16	22	39	23	—	1	101 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M25c	23	20	37	17	1	2	100 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30d 不安感 交通事故

[リスト] では、「交通事故」については、どうでしょうか？

1	非常に感じる	
2	かなり感じる	
3	少しは感じる	
4	まったく感じない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 ま っ た く 感 じ な い く	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17c	23	33	37	7	—	1	101 (1,579)
XII (2008)	M15c	26	35	33	5	—	0	99 (1,573)
XI (2003)	M14c	25	36	34	5	—	0	100 (1,158)
X (1998)	M15c	30	38	27	6	0	0	101 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M25d	43	34	19	3	0	1	100 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30e 不安感 失業

[リスト] では、「失業」については、どうでしょうか？

1	非常に感じる	
2	かなり感じる	
3	少しは感じる	
4	まったく感じない	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に 感 じ る	2 か な り 感 じ る	3 少 し は 感 じ る	4 ま っ た く 感 じ な い く	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17d	14	23	35	25	0	2	99 (1,579)
XII (2008)	M15d	21	25	32	20	0	2	100 (1,573)
XI (2003)	M14d	20	24	33	21	0	2	100 (1,158)
X (1998)	M15d	20	25	31	21	0	3	100 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M25e	23	19	31	23	1	2	99 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30f 不安感 戦争

[リスト] では、「戦争」については、どうでしょうか？

1	非常に感じる	
2	かなり感じる	
3	少しは感じる	
4	まったく感じない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まっ た く 感 じ な い	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17e	23	17	36	23	—	1	100 (1,579)
XII (2008)	M15e	25	18	36	20	—	1	100 (1,573)
XI (2003)	M14e	28	23	33	15	—	1	100 (1,158)
X (1998)	M15e	26	16	34	23	—	1	100 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M25f	34	19	31	13	1	2	100 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30g 不安感 原子力施設の事故

[リスト] では、「原子力施設の事故」については、どうでしょうか？

1	非常に感じる	
2	かなり感じる	
3	少しは感じる	
4	まったく感じない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非 常 に 感 じ る	2 か な り 感 じ る	3 少 し は 感 じ る	4 ま っ た く 感 じ な い く	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17f	37	28	25	9	—	1	100 (1,579)
XII (2008)	M15f	23	22	38	15	—	2	100 (1,573)
XI (2003)	M14f	26	23	33	15	0	2	99 (1,158)
X (1998)	M15f	26	26	32	14	—	2	100 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M25g	26	20	36	13	1	4	100 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30h 不安感 経済面の不安

[リスト] では、「最近の生活の中での経済面の不安」については、どうでしょうか？

1	非常に感じる	
2	かなり感じる	
3	少しは感じる	
4	まったく感じない	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常 感じる る	2 かな り感 じる る	3 少 しは 感じ る	4 ま っ た く 感 じ な い く	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17g	12	25	49	14	0	0	100 (1,579)
XII (2008)	M15g	19	32	39	9	-	1	100 (1,573)
XI (2003)	M14g	15	28	44	12	0	0	99 (1,158)
X (1998)	M15g	18	31	38	13	-	1	101 (1,341)
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.30i 不安感 自然災害

[リスト] では、「地震や津波などの自然災害」については、どうでしょうか？

1	非常に感じる
2	かなり感じる
3	少しは感じる
4	まったく感じない
5	その他 [記入]
6	D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まったく 感じない	5 その他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M17h	31	33	32	4	0	0	100 (1,579)
XII (2008)	×							
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.35 ボランティア活動

[リスト] ボランティア活動とあなたの関わりは次のどれでしょうか？

1	現在している	
2	過去にしたことがある	
3	まだしたことはないが、そのうちすると思う	
4	これまでにしたことはないし、今後もしないと思う	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 現在 している	2 過去 にした	3 その うち する	4 今後 もし ない	5 その 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M30	14	31	24	30	0	1	100 (1,579)
XII (2008)	M28	16	29	26	28	0	1	100 (1,573)
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#2.80a 病気 頭痛

[リスト] ここ1ヶ月の間につきにあげるものに悩みましたか(かかりましたか)?
 まず、「頭痛、^{へんずつう}偏頭痛」についてはどうですか?

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こか とか あつ りた	2 こか とか なつ した	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M29a	32	68	0	0	100 (1,579)
XII (2008)	M27a	29	71	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	M27a	28	71	-	0	99 (1,158)
X (1998)	M28a	28	72	-	-	100 (1,341)
IX (1993)	M25a	25	75	0	0	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.80b* 病気 腰の痛み

[リスト] では、「腰の痛み」についてはどうですか？

1 かかったことあり	
2 かかったことなし	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こ か あ つ た	2 こ か な し た	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M29b	52	48	0	-	100 (1,579)
XII (2008)	M27b	50	50	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

[参考]

#2.80b 病気 背中の痛み

[リスト] では、「背中の痛み」についてはどうですか？

1 かかったことあり	
2 かかったことなし	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こ か あ り た	2 こ か な し た	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	×					
XII (2008)	×					
XI (2003)	M27b	26	74	0	0	100 (1,158)
X (1998)	M28b	27	73	—	—	100 (1,341)
IX (1993)	M25b	25	74	0	0	99 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.80c 病気 いらいら

[リスト] では、「いらいら」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こ か あ つ た	2 こ か な つ た	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	M29c	50	49	0	0	99 (1,579)
XII (2008)	M27c	48	51	0	1	100 (1,573)
XI (2003)	M27c	45	55	0	0	100 (1,158)
X (1998)	M28c	46	54	–	–	100 (1,341)
IX (1993)	M25c	38	62	0	0	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.80d* 病気 ゆううつ

[リスト] では、「ゆううつになる、気がふさぐ」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こ か あ つ た り た	2 こ か あ つ た し た	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	M29d	36	64	—	0	100 (1,579)
XII (2008)	M27d	36	63	0	0	99 (1,573)
XI (2003)	M27d	35	65	0	0	100 (1,158)
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

[参考]

#2.80d 病気 うつ状態

[リスト] では、「うつ状態」についてはどうですか？

1 かかったことあり	
2 かかったことなし	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こ か あ り た	2 こ か な し た	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	×					
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	M28d	10	90	—	0	100 (1,341)
IX (1993)	M25d	8	92	0	0	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#2.80e 病気 不眠症

[リスト] では、「不眠症」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 こ か あ つ た	2 こ か な つ た	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	M29e	20	79	0	0	99 (1,579)
XII (2008)	M27e	20	80	0	0	100 (1,573)
XI (2003)	M27e	22	78	–	0	100 (1,158)
X (1998)	M28e	18	82	–	–	100 (1,341)
IX (1993)	M25e	15	85	0	0	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

§3 宗 教

#3.1 宗教を信じるか

宗教についておききたいのですが、
たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか？

- 1 もっている、信じている
2 もっていない、信じていない、関心がない

	問	1 信 じ て い る	2 信 じ て い な い	計
XIII (2013)	K12a	28	72	100 (1,591)
XII (2008)	K11a	27	73	100 (1,729)
XI (2003)	K12a	30	70	100 (1,192)
X (1998)	K12a	29	71	100 (1,339)
IX (1993)	K12a	33	67	100 (1,833)
VIII (1988)	K13a	31	69	100 (1,858)
VII (1983)	K15a	32	68	100 (2,256)
VI (1978)	K11a	34	66	100 (2,032)
V (1973)	K19a	25	75	100 (3,055)
IV (1968)	33a	30	70	100 (3,033)
III (1963)	28a	31	69	100 (2,698)
II (1958)	16a	35	65	100 (920)
I (1953)	×			

#3.2b 「宗教心」は大切か

それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか？

1 大切	
2 大切でない	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 大切	2 大 な 切 い で	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K12b	66	21	3	10	100 (1,591)
XII (2008)	K11b	69	19	2	11	101 (1,729)
XI (2003)	K12b	70	15	3	12	100 (1,192)
X (1998)	K12b	68	20	2	10	100 (1,339)
IX (1993)	K12b	72	14	3	11	100 (1,833)
VIII (1988)	K13b	72	15	8	5	100 (1,858)
VII (1983)	K15b	80	11	5	4	100 (2,256)
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

[参考]

#3.2 「宗教心」は大切か

[これは前問#3.1の答が1の人には質問しない] それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか？

1 大切	4 D. K.
2 大切でない	
3 その他 [記入]	

	問	1 大切	2 大切 ないで	3 その他	4 D.K.	計
XIII (2013)	×					
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	K11b	74	13	4	8	99 (1,335)
V (1973)	K19b	69	15	6	10	100 (2,303)
IV (1968)	33b	76	14	5	5	100 (2,113)
III (1963)	28b	77	13	4	6	100 (1,870)
II (1958)	16c	70	17	2	11	100 (600)
I (1953)	×					

注) 第1次(1958)～第6次(1978)調査では前問#3.1の答えが2の人のみに質問、
第7次(1983)調査以降は#3.2bとして全員に質問した。

#3.5 「あの世」を信じるか

あなたは「あの世」というものを、信じていますか？

1 信じる	
2 どちらともきめかねる	
3 信じてはいない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 信じる	2 どちらとも きめかねる	3 信じて いない	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K13	40	19	33	1	6	99 (1,591)
XII (2008)	K17	38	23	33	0	6	100 (1,729)
XI (2003)	×						
X (1998)	×						
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	×						
V (1973)	×						
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	19	20	12	59	0	9	100 (920)
I (1953)	×						

#3.6 宗教か科学か

[リスト] あなたは宗教というものについて、どう思いますか。つぎの4つの意見のうち、あなたの意見に1番近いと思うものを1つだけえらんで下さい？

- | | | |
|---|--|---------|
| 1 | 宗教というものは、人間を救うことはできない。人間を救うことのできるのは科学の進歩以外にはない | |
| 2 | 人間の救いには科学の進歩と宗教の力とが、たすけあってゆくことが必要である | |
| 3 | 科学の進歩と人間の救いとは関係がない。人間を救うことができるのはただ宗教の力だけである | |
| 4 | 科学が進歩しても、宗教の力でも、人間は救われるものではない | |
| 5 | その他 [記入] | 6 D. K. |

	問	1 宗教 否定	2 宗教 科学 協力	3 宗教 のみ	4 両方 否定	5 その 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M33	12	45	3	32	1	8	101 (1,579)
XII (2008)	M34	9	49	2	32	1	8	101 (1,573)
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	K29	7	54	4	27	1	7	100 (2,256)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	37	10	63	9	8	0	9	99 (2,254)

§4 子供・家

§4.1 子供

#4.4 先生が悪いことをした

「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれがほんとうであることを知っている場合、子供には

「そんなことはない」

といった方がよいと思いますか、それとも

「それはほんとうだ」

といった方がよいと思いますか？

1	そんなことはないという	
2	ほんとうだという	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 そんな ことはない というは	2 ほん とうだ いうと	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K 5	21	60	7	13	101 (1,591)
XII (2008)	K 5	21	63	6	10	100 (1,729)
XI (2003)	K 5	15	64	8	12	99 (1,192)
X (1998)	K 5	20	64	5	10	99 (1,339)
IX (1993)	K 4	24	59	6	11	100 (1,833)
VIII (1988)	K 5	23	62	9	6	100 (1,858)
VII (1983)	K 4	26	59	9	6	100 (2,256)
VI (1978)	K 4	27	57	8	8	100 (2,032)
V (1973)	K 5	31	54	6	8	99 (3,055)
IV (1968)	4	29	52	11	7	99 (3,033)
III (1963)	4	33	50	10	8	101 (2,698)
II (1958)	6	38	40	11	11	100 (920)
I (1953)	9	38	42	12	7	99 (2,254)

#4.5 子供に「金は大切」と教える

小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。
「小さいときから、お金は人にとって、いちばん大切なものだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成	
2 反対	
3 いちがいにはいえない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 賛成	2 反対	3 はい いち えが ない に	4 そ の 他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K 6	31	48	20	0	1	100 (1,591)
XII (2008)	K 6	30	49	19	0	1	99 (1,729)
XI (2003)	K 6	30	48	20	0	1	99 (1,192)
X (1998)	K 6	31	51	17	0	1	100 (1,339)
IX (1993)	K 5	35	45	18	0	1	99 (1,833)
VIII (1988)	K 6	35	47	16	1	1	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	43	42	13	1	1	100 (4,429)
	K 5	43	42	13	1	1	100 (2,256)
	M 4	43	41	14	1	1	100 (2,173)
VI (1978)	K 5	44	40	13	1	2	100 (2,032)
V (1973)	K 6	44	38	17	0	1	100 (3,055)
IV (1968)	5	57	28	12	1	2	100 (3,033)
III (1963)	5	59	23	15	1	1	99 (2,698)
II (1958)	×						
I (1953)	24-1	65	24	9	0	2	100 (2,254)

#4.7 子供に自由と規律

それでは、やはり小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、小さいときから、自由の尊さを教えるのと、規律の尊さを教えるのとでは、どちらが大切だと思いますか？

1 自由の尊さを教える	
2 規律の尊さを教える	
3 その他 [記入]	4 D.K.

	問	1 自由の 尊さ	2 規律の 尊さ	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K 7	19	69	7	5	100 (1,591)
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	K 7	22	65	7	6	100 (3,055)
IV (1968)	6	20	68	7	5	100 (3,033)
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	24-4	16	63	15 ^{注)}	6	100 (2,254)

注) 第1次(1953)調査は「場合による」を含む

#4.13 就職のとき

[リスト] 学校を卒業して、仕事のため、家から離れて行く自分の子供に、2人の親がつぎのように言いました。親としては、どちらの言い方がよいと思いますか？

1	こまったことがあったら、まず親に相談しなさい	
2	今後はこまったことがあっても、親を頼りにしてはいけない	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 し相 な談 さい	2 頼 る な	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M15	78	20	1	1	100 (1,579)
XII (2008)	M13	78	19	1	1	99 (1,573)
XI (2003)	M12a	73	21	3	3	100 (1,158)
X (1998)	M14	76	22	1	2	101 (1,341)
IX (1993)	×					
VIII (1988)	M13a	61	36	2	2	101 (1,824)
VII (1983)	×					
VI (1978)	M12a	67	30	2	2	101 (1,913)
V (1973)	M15a	58	37	2	3	100 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#4.16 子供の将来の性質

[リスト] 子供がいるとしたら、あなたは、将来、どのような性質を持つ大人になってほしいと思いますか。つぎの中から、特に重要と思うものを 3つ 選んでください？

[上の質問では、3つの項目をあげてもらうこと]

1	礼儀正しさ	
2	規則を守り、人に迷惑をかけない公共心	
3	公正さや正義感	
4	他人のことを思いやる心	
5	落ち着きや情緒の安定	
6	責任感	
7	人前で自分の意見をはっきり言う力	
8	自分で物事を計画し実行する力	
9	特にない	
10	その他 [記入]	
11	D. K.	

	問	1 礼儀 正しさ	2 公 共心	3 正 義感	4 思 い や る 心	5 情 緒 の 安 定	6 責 任 感	7 人 前 で 意 見 を 言 う	8 実 行 す る 力	9 特 に な い	10 そ の 他	11 D. K.	計 (複数回答)
XIII (2013)	K26	50	57	17	73	8	45	24	26	-	0	0	— (1,591)
XII (2008)	K23	47	57	14	73	7	46	25	24	0	2	0	— (1,729)
XI (2003)	K25	40	59	16	68	10	46	27	24	0	3	0	— (1,192)
X (1998)	K+M	38	62	18	66	9	47	30	23	0	2	0	— (2,680)
	K23	39	61	18	67	9	47	31	22	0	2	0	— (1,339)
	M13	38	63	17	65	9	47	29	23	0	2	1	— (1,341)
IX (1993)	×												
VIII (1988)	×												
VII (1983)	×												
VI (1978)	×												
V (1973)	×												
IV (1968)	×												
III (1963)	×												
II (1958)	×												
I (1953)	×												

注) この質問文は「子どもと家族に関する国際比較調査報告書」(総務庁青少年対策本部、平成7年12月)の質問(問17)を変更したものである。

#4.18 国際理解のための教育

[リスト] 国際理解をすすめるために、これからの子供達にはどのようなことが必要だと思いますか。次の中で最も重要なことを一つ選ぶとしたらどれでしょうか？

1	外国語の学習を盛んにする	
2	外国人との交流を盛んにする	
3	海外の生活習慣や生活様式を取り入れた生活をする	
4	日本の文化や伝統を教える	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 外国語 学習	2 外国 人交 流	3 海 外 の 習 慣	4 日 本 の 文 化	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M32	23	39	4	31	0	2	99 (1,579)
XII (2008)	M30	16	39	4	39	0	2	100 (1,573)
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

§4.2 家

#4.10 他人の子供を養子にするか

子供がないときは、たとえ血のつながりがない他人の子供でも、養子にもらって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか？

1 つがせた方がよい	
2 つがせないでもよい、意味がない	
3 場合による	
4 その他 [記入]	5 D.K.

	問	1 つがせる	2 つがせない	3 場合による	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K 2	20	57	17	1	5	100 (1,591)
XII (2008)	K 2	21	57	17	0	5	100 (1,729)
XI (2003)	K 2	18	57	19	1	5	100 (1,192)
X (1998)	K 2	22	58	16	0	4	100 (1,339)
IX (1993)	K 2	22	56	16	1	5	100 (1,833)
VIII (1988)	K 2	28	52	15	2	3	100 (1,858)
VII (1983)	M 3	27	51	15	2	5	100 (2,173)
VI (1978)	K 3	32	48	12	1	7	100 (2,032)
V (1973)	K 3	36	41	17	1	5	100 (3,055)
IV (1968)	2	43	41	9	2	5	100 (3,033)
III (1963)	2	51	32	12	1	4	100 (2,698)
II (1958)	106	63	21	8	1	7	100 (1,449)
I (1953)	28-1	74	16	7	1	3	101 (2,254)

#4.11 先祖を尊ぶか

あなたはどちらかといえば、先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか？

1 尊ぶ方	
2 普通	
3 尊ばない方	
4 その他 [記入]	5 D.K.

	問	1 尊 ぶ 方	2 普 通	3 尊 ば な い 方	4 そ の 他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K11	65	22	11	0	1	99 (1,591)
XII (2008)	K10	64	25	10	-	1	100 (1,729)
XI (2003)	K11	59	31	9	0	0	99 (1,192)
X (1998)	K11	60	27	12	0	1	100 (1,339)
IX (1993)	K11	65	27	7	0	1	100 (1,833)
VIII (1988)	K12	66	21	12	1	1	101 (1,858)
VII (1983)	K14	71	15	13	1	1	101 (2,256)
VI (1978)	K10	72	16	10	1	1	100 (2,032)
V (1973)	K20	67	21	10	1	1	100 (3,055)
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	3	77	15	5	1	2	100 (2,254)

#4.32 離婚すべきでないか

[リスト] つぎの3つの意見の中で、どれが1番あなたの意見に近いですか？

1	離婚はすべきでない	
2	ひどい場合には、離婚してもよい	
3	二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい	
4	その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 離婚 すべ ぎ	2 ひ ど い 場 合 に は 離 婚 合 意 あ れ ば	3 合 意 あ れ ば 離 婚	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	M23	25	46	26	1	2	100 (1,579)
XII (2008)	M21	26	50	23	0	1	100 (1,573)
XI (2003)	M21	27	44	27	1	2	101 (1,158)
X (1998)	×						
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	M11	35	39	22	2	2	100 (2,173)
VI (1978)	×						
V (1973)	×						
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

§5 身近な社会

#5.1 恩人がキトクするとき

〔絵を見せながら〕南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受けとったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。

〔ここでリストを見せる〕あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を一つだけえらんで下さい？

1 何をおいても、すぐ故郷へ帰る	4 D. K.
2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する	
3 その他〔記入〕	

	問	1 故郷へ 帰る	2 会 議 に 出 る	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K21a	39	53	2	6	100 (1,591)
XII (2008)	K18a	43	50	2	5	100 (1,729)
XI (2003)	K20a	41	48	2	9	100 (1,192)
X (1998)	K18a	46	45	1	8	100 (1,339)
IX (1993)	K18a	49	42	1	8	100 (1,833)
VIII (1988)	K14a	52	41	3	4	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	52	41	2	5	100 (4,429)
	K16a	52	41	3	4	100 (2,256)
	M16a	52	41	2	5	100 (2,173)
VI (1978)	K15a	51	42	1	5	99 (2,032)
V (1973)	K21a	51	40	2	8	101 (3,055)
IV (1968)	15a	46	47	2	5	100 (3,033)
III (1963)	13a	46	46	2	5	99 (2,698)
II (1958)	111a	50	39	2	9	100 (1,449)
I (1953)	41	54	41	1	4	100 (2,254)

#5.1b 親がキトクするとき

[絵、リスト] いまの質問では、恩人が死にそうなときを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい？

1 何をおいても、すぐ故郷へ帰る	
2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 故郷へ 帰る	2 会 議 に 出 る	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K21b	44	49	1	6	100 (1,591)
XII (2008)	K18b	46	48	1	5	100 (1,729)
XI (2003)	K20b	40	51	1	8	100 (1,192)
X (1998)	K18b	44	47	1	8	100 (1,339)
IX (1993)	K18b	48	44	1	7	100 (1,833)
VIII (1988)	K14b	53	41	2	4	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	49	45	2	4	100 (4,429)
	K16b	49	45	2	3	99 (2,256)
	M16b	49	45	2	4	100 (2,173)
VI (1978)	K15b	49	44	1	5	99 (2,032)
V (1973)	K21b	51	41	2	7	101 (3,055)
IV (1968)	15b	44	49	3	4	100 (3,033)
III (1963)	13b	45	47	2	6	100 (2,698)
II (1958)	111b	50	41	2	7	100 (1,449)
I (1953)	42	49	47	1	3	100 (2,254)

#5.1 恩人がキトクするとき × #5.1b 親がキトクするとき

	恩人	1 故郷	2 故郷	3 会議	4 会議	5 その他の 組合せ	計
	親	会議	故郷	故郷	会議		
XIII (2013)	K21a K21b	7	31	11	41	10	100 (1,591)
XII (2008)	K18a K18b	8	34	10	39	9	100 (1,729)
XI (2003)	K20a K20b	9	31	6	41	12	99 (1,192)
X (1998)	K18a K18b	9	36	6	38	11	100 (1,339)
IX (1993)	K18a K18b	9	40	6	35	10	100 (1,833)
VIII (1988)	K14a K14b	9	41	10	30	9	99 (1,858)
VII (1983)	K+M	13	38	9	31	9	100 (4,429)
	K16a K16b	12	38	9	31	9	99 (2,256)
	M16a M16b	13	37	10	31	9	100 (2,173)
VI (1978)	K15a K15b	12	38	9	31	9	99 (2,032)
V (1973)	K21a K21b	9	40	8	30	12	99 (3,055)
IV (1968)	15a 15b	12	32	11	35	9	99 (3,033)
III (1963)	13a 13b	10	34	9	35	11	99 (2,698)
II (1958)	111a 111b	11	37	10	27	14	99 (1,449)
I (1953)	41 42	15	38	9	31	6	99 (2,254)

#5.1c1 入社試験（親戚）

〔リスト〕あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新らしく職員を一人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、

「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」

と社長のあなたに報告しました。

あなたはどちらをとれ（採用しろ）といえますか？

1	1番の人を採用するよういいう	
2	親戚を採用するよういいう	
3	その他〔記入〕	4 D.K.

	問	1 1 番 の 人	2 親 戚 の 人	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K29a	78	18	1	3	100 (1,591)
XII (2008)	K26a	79	16	1	4	100 (1,729)
XI (2003)	K27a	73	18	1	8	100 (1,192)
X (1998)	K26a	70	22	1	7	100 (1,339)
IX (1993)	K25a	67	24	1	8	100 (1,833)
VIII (1988)	K21a	70	24	3	3	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	70	23	3	4	100 (4,429)
	K22a	71	23	2	4	100 (2,256)
	M21a	70	23	3	4	100 (2,173)
VI (1978)	K21a	72	22	2	4	100 (2,032)
V (1973)	K+M	73	19	1	7	100 (4,594)
	K28a	73	19	1	7	100 (3,055)
	M16a	72	19	1	8	100 (1,539)
IV (1968)	22a	78	17	2	4	101 (3,033)
III (1963)	20a	75	19	2	4	100 (2,698)
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.1c2 入社試験（恩人の子）

[リスト] それでは、このばあい、2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか？（どちらをとれといいますか？）

1	1番の人を採用するよういいう	
2	恩人の子供を採用するよういいう	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 1番の人	2 恩人の子	3 その他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K29b	56	38	1	5	100 (1,591)
XII (2008)	K26b	58	36	1	5	100 (1,729)
XI (2003)	K27b	54	35	2	10	101 (1,192)
X (1998)	K26b	49	42	1	8	100 (1,339)
IX (1993)	K25b	45	44	2	9	100 (1,833)
VIII (1988)	K21b	45	49	3	4	101 (1,858)
VII (1983)	K+M	46	47	2	5	100 (4,429)
	K22b	46	47	2	5	100 (2,256)
	M21b	47	46	3	5	101 (2,173)
VI (1978)	K21b	47	46	2	5	100 (2,032)
V (1973)	K+M	52	38	2	8	100 (4,594)
	K28b	52	39	2	8	101 (3,055)
	M16b	52	38	1	9	100 (1,539)
IV (1968)	22b	54	39	2	5	100 (3,033)
III (1963)	20b	48	44	2	6	100 (2,698)
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.1c1 入社試験（親戚） × #5.1c2 入社試験（恩人の子）

	親 戚	1 1 番	2 親 戚	3 親 戚	4 1 番	5 そ の 他 の 組 合 せ	計
	の恩 子人	恩 人	恩 人	1 番	1 番		
XIII (2013)	K29a K29b	22	15	2	54	7	100 (1,591)
XII (2008)	K26a K26b	22	13	3	55	7	100 (1,729)
XI (2003)	K27a K27b	18	16	2	52	13	101 (1,192)
X (1998)	K26a K26b	21	20	2	47	11	101 (1,339)
IX (1993)	K25a K25b	21	22	2	43	12	100 (1,833)
VIII (1988)	K21a K21b	26	21	2	42	9	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	24	21	2	44	9	100 (4,429)
	K22a K22b	24	21	2	44	9	100 (2,256)
	M21a M21b	23	20	2	44	10	99 (2,173)
VI (1978)	K21a K21b	25	20	2	45	8	100 (2,032)
V (1973)	K+M	20	16	2	49	12	99 (4,594)
	K28a K28b	20	17	2	50	12	101 (3,055)
	M16a M16b	21	16	2	49	13	101 (1,539)
IV (1968)	22a 22b	23	14	2	52	10	101 (3,033)
III (1963)	20a 20b	25	17	2	46	10	100 (2,698)
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#5.1d 大切な道徳

[リスト] つぎのうち、大切なことを 2つあげてくれといわれたら、どれにしますか？

[上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと]

1	親孝行をすること	
2	恩返しをすること	
3	個人の権利を尊重すること	
4	自由を尊重すること	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 親孝行	2 恩返し	3 権利尊重	4 自由尊重	5 その他	6 D.K.	計 (複数回答)
XIII (2013)	K24	75	58	32	33	0	1	— (1,591)
XII (2008)	K21	76	57	27	36	0	1	— (1,729)
XI (2003)	K23	73	47	37	37	0	1	— (1,192)
X (1998)	K21	70	43	40	43	0	1	— (1,339)
IX (1993)	K21	69	43	38	42	3	2	— (1,833)
VIII (1988)	K17	71	47	36	42	0	1	— (1,858)
VII (1983)	K19	73	50	36	37	0	1	— (2,256)
VI (1978)	K18	70	47	38	39	0	2	— (2,032)
V (1973)	K26	63	42	45	43	1	2	— (3,055)
IV (1968)	20	61	44	43	46	0	2	— (3,033)
III (1963)	17	60	43	49	40	1	2	— (2,698)
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#5.1d 大切な道徳の組合せ

	問	1 孝行 × 恩返	2 孝行 × 権利	3 孝行 × 自由	4 恩返 × 権利	5 恩返 × 自由	6 権利 × 自由	7 は孝行 恩返の のみ又	8 は権利 自由の のみ又	9 その他 の組合 せ	計
XIII (2013)	K24	43	16	17	7	7	9	0	0	1	100 (1,591)
XII (2008)	K21	43	14	19	5	9	8	1	1	1	101 (1,729)
XI (2003)	K23	33	19	19	6	7	11	2	1	1	99 (1,192)
X (1998)	K21	31	19	19	5	8	15	1	1	1	100 (1,339)
IX (1993)	K21	31	17	20	6	6	15	–	–	4	99 (1,833)
VIII (1988)	K17	34	16	21	6	7	14	1	1	1	101 (1,858)
VII (1983)	K19	36	18	18	6	7	12	1	0	1	99 (2,256)
VI (1978)	K18	34	17	19	7	7	14	1	0	2	101 (2,032)
V (1973)	K26	28	17	16	8	6	20	1	1	3	100 (3,055)
IV (1968)	20	28	15	18	8	8	19	1	1	2	100 (3,033)
III (1963)	17	28	19	12	8	7	21	1	1	3	100 (2,698)
II (1958)	×										
I (1953)	×										

#5.6 めんどうをみる課長

[リスト] ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長につかわれる方がよいと思いますか、どちらか一つあげて下さい？

1	規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことで人のめんどうを見ません	4	D. K.
2	時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ます		
3	その他 [記入]		

	問	1 めん み な う を	2 めん み な う を	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K30	17	81	0	2	100 (1,591)
XII (2008)	K27	15	81	0	4	100 (1,729)
XI (2003)	K28	18	77	0	5	100 (1,192)
X (1998)	K27	16	80	0	4	100 (1,339)
IX (1993)	K26	12	82	0	5	99 (1,833)
VIII (1988)	K+M	10	87	1	2	100 (3,682)
	K22	10	88	1	2	101 (1,858)
	M18	10	87	1	3	101 (1,824)
VII (1983)	K+M	9	89	1	2	101 (4,429)
	K23	8	89	0	2	99 (2,256)
	M22	9	88	1	2	100 (2,173)
VI (1978)	K22	10	87	0	3	100 (2,032)
V (1973)	K29	13	81	1	5	100 (3,055)
IV (1968)	23	12	84	1	4	101 (3,033)
III (1963)	21	12	82	1	5	100 (2,698)
II (1958)	117	14	78	2	7	101 (1,449)
I (1953)	35	12	85	1	2	100 (2,254)

#5.6* 上役とのつき合い

あなたが会社で働いているとします。その場合、上役と仕事以外のつき合いはなくてもよいと思えますか、それともあった方がよいと思えますか？

1	なくてもよい				
2	あった方がよい				
3	その他 [記入]			4	D. K.

	問	1 なく ても よい	2 あ っ た 方 が よ い	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K19	30	65	1	4	100 (1,591)
XII (2008)	M 9	37	58	2	3	100 (1,573)
XI (2003)	M 8	38	55	3	4	100 (1,158)
X (1998)	M 9	39	55	2	4	100 (1,341)
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	M 5	22	72	2	5	101 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.6b つとめたい会社

[リスト] つぎのような2つの会社があるとします。もしあなたがつとめるとしたら、どちらの会社の方がよいですか？

1	給料は多いが、レクリエーションのための運動会や旅行などほしくない会社
2	給料はいくらか少ないが、運動会や旅行などをして、家族的な雰囲気のある会社
3	その他 [記入]
4	D. K.

	問	1 多給 料が 会社	2 家 族 的 な 気 な	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M20	39	57	1	3	100 (1,579)
XII (2008)	M18	44	53	1	2	100 (1,573)
XI (2003)	M19	44	53	1	3	101 (1,158)
X (1998)	M20	34	62	1	3	100 (1,341)
IX (1993)	M19	30	65	1	4	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	K23	18	78	1	3	100 (2,032)
V (1973)	M18	21	74	1	4	100 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.6h 他人との仲か仕事か

[リスト] つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか？

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 1 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事の上ではパツとしない人 | |
| 2 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人 | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 他 人 が よ い	2 仕 事 よ く で き る	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K31	79	12	1	7	99 (1,591)
XII (2008)	K28	77	12	2	8	99 (1,729)
XI (2003)	K29	72	13	3	12	100 (1,192)
X (1998)	K28	77	11	2	10	100 (1,339)
IX (1993)	K27	77	12	3	9	101 (1,833)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	K26	75	11	6	8	100 (2,256)
VI (1978)	K14	72	11	7	10	100 (2,032)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.17 社会生活で注意しあう

[リスト] 社会生活をするうえで、あなたはつぎのどちらがよいと思いますか？

1	自分では気がつかないことがあるから、お互いに注意しあう	
2	自分自身はきちんとし、他人への注意はさしひかえる	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 注意し あう	2 注意 はさし ひか えるし	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M22	70	28	1	2	101 (1,579)
XII (2008)	M20	74	24	0	1	99 (1,573)
XI (2003)	×					
X (1998)	M22	70	28	0	2	100 (1,341)
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	M 9	73	25	1	2	101 (1,913)
V (1973) ^{注)}	M12	75	22	1	3	101 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

注) 第5次(1973)調査の質問文は以下のとおり。

社会での生活をなめらかにしてゆくには、どちらがよいと思いますか？

#5.22 金か人間のつながりか

[リスト] あなたは、人が生きていくうえで、「お金」と「人間どうしのつながり」とでは、どちらが頼りになると思いますか？

1 人間どうしのつながりよりも、お金の方が頼りになる	
2 お金よりも、人間どうしのつながりの方が頼りになる	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 お 金	2 の 人 間 ど う し の つ な が り し	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K27	21	74	1	3	99 (1,591)
XII (2008)	K24	20	76	1	2	99 (1,729)
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	M 8	23	72	4	2	101 (1,913)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.23 能力か功労か

会社で給料や賃金を決めるときに、その人の現在の能力を重視して決めるべきだと思いますか、それとも、その人のこれまでの会社に対する功労を重視して決めるべきだと思いますか？

1	その人の現在の能力を重視して決めるべきだ	
2	その人のこれまでの会社に対する功労を重視して決めるべきだ	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 能力 重視	2 功労 重視	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M 8	57	32	5	6	100 (1,579)
XII (2008)	M 8	57	30	6	8	101 (1,573)
XI (2003)	M 7	59	28	5	7	99 (1,158)
X (1998)	M 8	61	29	3	7	100 (1,341)
IX (1993)	M 8	59	30	4	8	101 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#5.24 勤め先を変えるか

[リスト] 勤め先を変えることについて、つぎのような2つの意見があります。あなたはどちらに賛成ですか？

- | | | |
|---|-------------------------------------|---------|
| 1 | いまよりよい条件の勤め先があれば、かわった方がよい | |
| 2 | いまよりよい条件の勤め先があっても、一つの勤め先にながく勤めるのがよい | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 か わ つ が よ た い 方	2 な の が く よ 勤 い め	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M19	45	50	1	4	100 (1,579)
XII (2008)	M17	47	50	1	2	100 (1,573)
XI (2003)	M17	47	49	1	3	100 (1,158)
X (1998)	M18	42	53	1	4	100 (1,341)
IX (1993)	M17	41	52	1	6	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

§6 男女の差異

#6.2 男・女の生まれかわり

もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生れてきたいと思いますか？

1 男に	
2 女に	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 男に	2 女に	3 その他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K+M	52	41	2	4	99 (3,170)
	K 1	53	41	2	4	100 (1,591)
	M 1	52	41	3	4	100 (1,579)
XII (2008)	K+M	53	40	2	5	100 (3,302)
	K 1	53	40	2	5	100 (1,729)
	M 1	54	40	2	4	100 (1,573)
XI (2003)	K+M	54	39	2	5	100 (2,350)
	K 1	54	39	1	5	99 (1,192)
	M 1	53	40	3	4	100 (1,158)
X (1998)	K+M	55	39	1	5	100 (2,680)
	K 1	56	38	2	4	100 (1,339)
	M 1	53	40	1	6	100 (1,341)
IX (1993)	K 1	56	37	2	5	100 (1,833)
VIII (1988)	K 1	59	35	4	2	100 (1,858)
VII (1983)	K 1	61	34	3	2	100 (2,256)
VI (1978)	M 1a	62	31	3	3	99 (1,913)
V (1973)	K+M	63	30	3	4	100 (4,594)
	K 1a	63	30	3	4	100 (3,055)
	M 1a	63	30	3	4	100 (1,539)
IV (1968)	1a	65	28	4	4	101 (3,033)
III (1963)	1a	70	23	4	3	100 (2,698)
II (1958)	103	76	17	5	2	100 (1,449)
I (1953)	×					

#6.2 男・女の生まれかわり (男女別)

	問	1 男に	2 女に	3 その他	4 D.K.	計	
男 の み	XIII (2013)	K+M	87	6	3	5	101 (1,451)
		K 1	87	6	3	4	100 (737)
		M 1	86	5	3	5	99 (714)
	XII (2008)	K+M	87	6	2	5	100 (1,562)
		K 1	87	5	2	6	100 (815)
		M 1	88	6	2	4	100 (747)
	XI (2003)	K+M	87	5	2	5	99 (1,091)
		K 1	87	5	2	6	100 (551)
		M 1	88	4	3	5	100 (540)
	X (1998)	K+M	88	5	2	5	100 (1,216)
		K 1	89	5	2	4	100 (615)
		M 1	87	6	1	6	100 (601)
	IX (1993)	K 1	88	3	3	6	100 (836)
	VIII (1988)	K 1	90	4	4	2	100 (837)
	VII (1983)	K 1	90	5	3	2	100 (988)
	VI (1978)	M 1a	90	4	3	3	100 (832)
	V (1973)	K+M	89	5	2	3	99 (2,063)
		K 1a	88	6	2	4	100 (1,395)
		M 1a	90	5	3	3	101 (668)
	IV (1968)	1a	89	5	4	3	101 (1,427)
III (1963)	1a	88	7	3	2	100 (1,252)	
II (1958)	103	90	5	4	1	100 (684)	
I (1953)	×						
女 の み	XIII (2013)	K+M	23	71	2	4	100 (1,719)
		K 1	23	71	2	4	100 (854)
		M 1	23	71	2	4	100 (865)
	XII (2008)	K+M	23	71	2	4	100 (1,740)
		K 1	22	72	1	5	100 (914)
		M 1	24	70	2	4	100 (826)
	XI (2003)	K+M	25	69	2	4	100 (1,259)
		K 1	26	68	1	5	100 (641)
		M 1	23	71	3	3	100 (618)
	X (1998)	K+M	28	67	1	4	100 (1,464)
		K 1	29	66	1	3	99 (724)
		M 1	26	67	1	5	99 (740)
	IX (1993)	K 1	29	65	1	4	99 (997)
	VIII (1988)	K 1	34	59	5	2	100 (1,021)
	VII (1983)	K 1	39	56	3	2	100 (1,268)
	VI (1978)	M 1a	41	52	3	4	100 (1,081)
	V (1973)	K+M	42	51	3	4	100 (2,531)
		K 1a	42	51	3	4	100 (1,660)
		M 1a	43	50	3	5	101 (871)
	IV (1968)	1a	43	48	4	5	100 (1,606)
III (1963)	1a	55	36	5	4	100 (1,446)	
II (1958)	103	64	27	5	3	99 (765)	
I (1953)	×						

#6.2c 苦勞どちらが多いか

今の日本では、ひとくちでいうと、男と女ではどちらの方が苦勞が多いと思いますか？

1 男が多い	4 D. K.
2 女が多い	
3 その他 [記入]	

	問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	M 3a	38	39	14	9	100 (1,579)
XII (2008)	M 3a	42	33	15	10	100 (1,573)
XI (2003)	M 2a	47	34	11	8	100 (1,158)
X (1998)	M 2a	44	36	12	8	100 (1,341)
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	M 1b	54	26	14	5	99 (1,913)
	K+M	55	26	12	7	100 (4,594)
V (1973)	K 1b	55	26	12	6	99 (3,055)
	M 1b	54	27	11	8	100 (1,539)
IV (1968)	1b	53	27	15	6	101 (3,033)
III (1963)	1b	47	34	12	7	100 (2,698)
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#6.2c 苦勞どちらが多いか (男女別)

		問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D.K.	計
男 の み	XIII (2013)	M 3a	37	35	18	11	101 (714)
	XII (2008)	M 3a	41	30	18	11	100 (747)
	XI (2003)	M 2a	50	27	14	9	100 (540)
	X (1998)	M 2a	47	29	15	9	100 (601)
	IX (1993)	×					
	VIII (1988)	×					
	VII (1983)	×					
	VI (1978)	M 1b	58	20	16	6	100 (832)
	V (1973)	K+M	64	18	11	7	100 (2,063)
		K 1b	65	17	12	6	100 (1,395)
		M 1b	64	18	9	9	100 (668)
	IV (1968)	1b	60	19	15	5	99 (1,427)
	III (1963)	1b	57	25	12	6	100 (1,252)
	II (1958)	×					
I (1953)	×						
女 の み	XIII (2013)	M 3a	39	42	11	8	100 (865)
	XII (2008)	M 3a	42	37	13	9	101 (826)
	XI (2003)	M 2a	45	39	9	7	100 (618)
	X (1998)	M 2a	42	41	9	8	100 (740)
	IX (1993)	×					
	VIII (1988)	×					
	VII (1983)	×					
	VI (1978)	M 1b	51	32	12	5	100 (1,081)
	V (1973)	K+M	47	33	13	7	100 (2,531)
		K 1b	48	33	13	6	100 (1,660)
		M 1b	47	34	13	7	101 (871)
	IV (1968)	1b	47	33	14	6	100 (1,606)
	III (1963)	1b	39	42	12	7	100 (1,446)
	II (1958)	×					
I (1953)	×						

#6.2d 楽しみどちらが多いか

それでは、どちらの方が楽しみが多いと思いますか？

1 男が多い	
2 女が多い	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	M 3b	33	46	11	10	100 (1,579)
XII (2008)	M 3b	36	40	13	11	100 (1,573)
XI (2003)	M 2b	38	42	10	10	100 (1,158)
X (1998)	M 2b	43	34	10	13	100 (1,341)
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	M 1c	66	14	12	8	100 (1,913)
	K+M	67	13	11	8	99 (4,594)
V (1973)	K 1c	67	13	12	9	101 (3,055)
	M 1c	67	14	11	8	100 (1,539)
IV (1968)	1c	63	13	16	8	100 (3,033)
III (1963)	1c	69	12	11	9	101 (2,698)
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#6.2d 楽しみどちらが多いか (男女別)

		問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D.K.	計
男 の み	XIII (2013)	M 3b	47	27	14	12	100 (714)
	XII (2008)	M 3b	50	22	15	12	99 (747)
	XI (2003)	M 2b	50	25	13	12	100 (540)
	X (1998)	M 2b	54	20	13	14	101 (601)
	IX (1993)	×					
	VIII (1988)	×					
	VII (1983)	×					
	VI (1978)	M 1c	71	8	12	8	99 (832)
	V (1973)	K+M	71	11	10	8	100 (2,063)
		K 1c	70	11	11	8	100 (1,395)
		M 1c	74	10	10	7	101 (668)
	IV (1968)	1c	66	10	17	7	100 (1,427)
	III (1963)	1c	71	10	10	8	99 (1,252)
	II (1958)	×					
I (1953)	×						
女 の み	XIII (2013)	M 3b	22	62	8	8	100 (865)
	XII (2008)	M 3b	23	56	11	10	100 (826)
	XI (2003)	M 2b	28	56	8	8	100 (618)
	X (1998)	M 2b	34	46	8	13	101 (740)
	IX (1993)	×					
	VIII (1988)	×					
	VII (1983)	×					
	VI (1978)	M 1c	62	19	11	8	100 (1,081)
	V (1973)	K+M	63	16	12	9	100 (2,531)
		K 1c	64	15	12	9	100 (1,660)
		M 1c	62	17	12	9	100 (871)
	IV (1968)	1c	60	16	15	9	100 (1,606)
	III (1963)	1c	67	13	11	10	101 (1,446)
	II (1958)	×					
I (1953)	×						

#6.2e 男の子と女の子

子供を一人だけもつとしたら、男の子の方がよいですか、女の子の方がよいですか、それとも、どちらでもよいですか？

1 男の子	
2 女の子	
3 どちらでもよい	
4 その他 [子供はいらない、など記入]	5 D. K.

	問	1 男 の 子	2 女 の 子	3 ど ち ら も よ い	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	M 5	26	46	25	0	2	99 (1,579)
XII (2008)	M 5	30	45	24	0	1	100 (1,573)
XI (2003)	M 4	27	47	24	0	1	99 (1,158)
X (1998)	M 5	28	47	23	0	1	99 (1,341)
IX (1993)	M 2	33	36	30	0	1	100 (1,905)
VIII (1988)	M 2	32	29	37	1	1	100 (1,824)
VII (1983)	×						
VI (1978)	×						
V (1973)	×						
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#6.2e 男の子と女の子（男女別）

		問	1 男 の 子	2 女 の 子	3 ど ち ら も よ い	4 そ の 他	5 D.K.	計
男 の み	XIII (2013)	M 5	38	29	31	0	2	100 (714)
	XII (2008)	M 5	43	29	26	1	2	101 (747)
	XI (2003)	M 4	41	28	30	–	1	100 (540)
	X (1998)	M 5	40	28	30	1	1	100 (601)
	IX (1993)	M 2	45	19	34	1	1	100 (888)
	VIII (1988)	M 2	45	15	36	2	1	99 (805)
	VII (1983)	×						
	VI (1978)	×						
	V (1973)	×						
	IV (1968)	×						
	III (1963)	×						
	II (1958)	×						
	I (1953)	×						
女 の み	XIII (2013)	M 5	17	61	20	0	2	100 (865)
	XII (2008)	M 5	18	59	22	–	1	100 (826)
	XI (2003)	M 4	16	64	19	0	1	100 (618)
	X (1998)	M 5	19	62	18	0	1	100 (740)
	IX (1993)	M 2	22	50	26	0	1	99 (1,017)
	VIII (1988)	M 2	22	40	37	1	1	101 (1,019)
	VII (1983)	×						
	VI (1978)	×						
	V (1973)	×						
	IV (1968)	×						
	III (1963)	×						
	II (1958)	×						
	I (1953)	×						

#6.5 男女の能力差

生まれつき、物事を考えたり、まとめたりする能力は、男と女で差があると思いますか？

1 差がある	
2 差はない	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 差 あり	2 差 なし	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	K 3	48	47	2	3	100 (1,591)
XII (2008)	K 3	48	48	1	3	100 (1,729)
XI (2003)	K 3	45	49	2	4	100 (1,192)
X (1998)	K 3	44	50	1	4	99 (1,339)
IX (1993)	M 5	49	44	2	5	100 (1,905)
VIII (1988)	M 5	54	41	2	3	100 (1,824)
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	120	63	29	2	6	100 (1,449)
I (1953)	×					

#6.5 男女の能力差 (男女別)

		問	1 差 あり	2 差 なし	3 そ の 他	4 D.K.	計
男 の み	XIII (2013)	K 3	42	52	2	4	100 (737)
	XII (2008)	K 3	44	52	1	4	101 (815)
	XI (2003)	K 3	42	52	2	5	101 (551)
	X (1998)	K 3	43	51	2	5	101 (615)
	IX (1993)	M 5	51	43	2	5	101 (888)
	VIII (1988)	M 5	55	41	2	2	100 (805)
	VII (1983)	×					
	VI (1978)	×					
	V (1973)	×					
	IV (1968)	×					
	III (1963)	×					
	II (1958)	120	63	31	2	5	101 (684)
	I (1953)	×					
女 の み	XIII (2013)	K 3	54	42	2	3	101 (854)
	XII (2008)	K 3	52	44	1	3	100 (914)
	XI (2003)	K 3	48	47	1	3	99 (641)
	X (1998)	K 3	46	49	1	4	100 (724)
	IX (1993)	M 5	48	45	2	4	99 (1,017)
	VIII (1988)	M 5	53	41	3	4	101 (1,019)
	VII (1983)	×					
	VI (1978)	×					
	V (1973)	×					
	IV (1968)	×					
	III (1963)	×					
	II (1958)	120	63	28	2	7	100 (765)
	I (1953)	×					

§7 一般の社会的問題

#7.1 人間らしさはへるか

こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成 [人間らしさはへる]	
2 いちがいにいえない	
3 反対 [人間らしさ不変、ふえる]	
4 その他 [記入]	5 D.K.

	問	1 賛成	2 いちがいに いえない	3 反対	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K 4	52	28	17	0	3	100 (1,591)
XII (2008)	K 4	56	24	17	0	3	100 (1,729)
XI (2003)	K 4	54	29	13	0	3	99 (1,192)
X (1998)	K 4	54	25	17	0	3	99 (1,339)
IX (1993)	K 3	51	26	19	0	3	99 (1,833)
VIII (1988)	K 4	47	24	26	1	3	101 (1,858)
	K+M	48	20	28	1	4	101 (4,429)
VII (1983)	K 3	46	19	30	1	3	99 (2,256)
	M 2	49	20	26	1	4	100 (2,173)
VI (1978)	K 2	43	21	30	1	5	100 (2,032)
V (1973)	K10	50	21	22	1	6	100 (3,055)
IV (1968)	7	40	16	35	1	8	100 (3,033)
III (1963)	6	38	22	28	1	12	101 (2,698)
II (1958)	3	33	17	34	0	16	100 (920)
I (1953)	5 ^{注)}	30	17	35	1	17	100 (2,254)

注) 第1次(1953)調査の質問文は以下のとおり。

「世の中はだんだん機械が発達して便利になって来たが、それにつれて人間らしさがなくなってくる」という意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

#7.2 心の豊かさはへらないか

こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 反対 [へる]	
2 いちがいにいえない	
3 賛成 [へらない]	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 (へる) 反対	2 いちがいに いえない	3 (へらない) 賛成	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K15	24	22	51	0	3	100 (1,591)
XII (2008)	K12	31	25	42	0	2	100 (1,729)
XI (2003)	K13	27	27	42	0	3	99 (1,192)
X (1998)	K13	30	22	44	0	3	99 (1,339)
IX (1993)	K13	25	24	47	0	4	100 (1,833)
VIII (1988)	K27	33	22	42	1	3	101 (1,858)
VII (1983)	M 8	31	17	46	1	5	100 (2,173)
VI (1978)	K12	25	15	53	1	6	100 (2,032)
V (1973)	K18	31	20	42	1	7	101 (3,055)
IV (1968)	13	22	13	56	1	9	101 (3,033)
III (1963)	12	18	19	49	0	13	99 (2,698)
II (1958)	24	21	10	53	1	16	101 (920)
I (1953)	29 ^{注)}	17	8	58	1	16	100 (2,254)

注) 第1次(1953)調査の質問文は以下のとおり。

「どんなに文明が進歩しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」という意見がありますが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

#7.4 日本と個人の幸福

[リスト] あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。一つだけあげてください？

1	個人が幸福になって、はじめて日本全体がよくなる	
2	日本がよくなって、はじめて個人が幸福になる	
3	日本がよくなることも、個人が幸福になることも同じである	
4	その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 個人 ↓ 日本	2 日本 ↓ 個人	3 日本 個人	4 その 他	5 D.K.	計
XIII (2013)	K23	30	25	42	0	3	100 (1,591)
XII (2008)	K20	27	28	40	0	4	99 (1,729)
XI (2003)	K22	29	24	42	1	5	101 (1,192)
X (1998)	K20	28	28	40	0	3	99 (1,339)
IX (1993)	K20	30	26	40	0	4	100 (1,833)
VIII (1988)	K16	29	25	42	0	4	100 (1,858)
VII (1983)	K18	25	30	40	1	4	100 (2,256)
VI (1978)	K17	27	27	41	0	4	99 (2,032)
V (1973)	K25	30	26	37	0	6	99 (3,055)
IV (1968)	19	27	32	36	1	5	101 (3,033)
III (1963)	16	30	30	34	0	7	101 (2,698)
II (1958)	×						
I (1953)	45	25	37	31	1	6	100 (2,254)

#7.4b 国の繁栄と国民の生活

[リスト] 国の繁栄ということについて、つぎの2つの意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか？

- | | |
|---|----------------|
| 1 国が繁栄しても、一部の人がもうけるばかりで、国民ひとりひとりの生活はよくなる | |
| 2 国が繁栄すれば、国民ひとりひとりの生活もよくなる | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 よ く な ら な い	2 よ く な る	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K34	31	67	1	2	101 (1,591)
XII (2008)	K31	29	68	0	3	100 (1,729)
XI (2003)	K32	28	67	1	4	100 (1,192)
X (1998)	K32	36	60	0	4	100 (1,339)
IX (1993)	K30	40	55	1	4	100 (1,833)
VIII (1988)	K29	47	48	1	3	99 (1,858)
VII (1983)	K30	33	63	1	3	100 (2,256)
VI (1978)	M20	37	57	1	5	100 (1,913)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#7.5b* 公益と個人の権利

[リスト] つぎのような意見があります。あなたはどちらに賛成ですか。もちろん、場合により、また程度によって違うでしょうが、ひとくちでいうと、どちらを重視すべきでしょうか？

- 1 個人の権利をみとめるためには、公共の利益が多少犠牲になることがあっても、しかたがない
 2 公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になることがあっても、しかたがない
 3 その他 [記入] 4 D. K.

	問	1 個人の 権利	2 公共の 利益	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M24	38	53	1	8	100 (1,579)
XII (2008)	M22	38	55	1	7	101 (1,573)
XI (2003)	M22	39	51	1	9	100 (1,158)
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	M17	32	55	2	11	100 (1,913)
V (1973)	M21	32	55	1	11	99 (1,539)
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#7.18 人間の健康の面はよくなるか

これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思いますか、わるくなると思いますか？

1	よくなる
2	わるくなる
3	変わらない
4	その他 [記入]
5	D. K.

	問	1 よくなる	2 わるくなる	3 変わらない	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	M39a	39	39	18	0	3	99 (1,579)
XII (2008)	M35a	24	56	16	0	4	100 (1,573)
XI (2003)	M31a	19	60	16	0	4	99 (1,158)
X (1998)	M32a	16	67	13	0	4	100 (1,341)
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	M25a	49	35	10	1	4	99 (1,913)
V (1973)	M27a	25	55	13	1	6	100 (1,539)
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#7.18b 心のやすらかさはますか

では、心のやすらかさは、ますと思いますか、へると思いますか？

1	ま	す
2	へ	る
3	変わらない	
4	その他 [記入]	
5	D. K.	

	問	1 ま す	2 へ る	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	M39b	14	56	25	1	4	100 (1,579)
XII (2008)	M35b	10	68	18	0	4	100 (1,573)
XI (2003)	M31b	8	69	18	1	4	100 (1,158)
X (1998)	M32b	9	70	16	0	4	99 (1,341)
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	M25b	24	51	15	2	8	100 (1,913)
V (1973)	M27b	13	64	13	1	9	100 (1,539)
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#7.18c 人間の自由はふえるか

人間の自由は、ふえると思いますか、へると思いますか？

1	ふえる
2	へる
3	変わらない
4	その他 [記入]
5	D.K.

	問	1 ふえる	2 へる	3 変わらない	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	M39c	29	36	29	0	5	99 (1,579)
XII (2008)	M35c	27	40	29	0	5	101 (1,573)
XI (2003)	M31c	27	35	30	1	7	100 (1,158)
X (1998)	M32c	31	35	28	0	6	100 (1,341)
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	M25c	51	24	16	1	8	100 (1,913)
V (1973)	M27c	43	27	17	1	11	99 (1,539)
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#7.18d 生活は豊かになるか

ひとびとの生活は、豊かになると思いますか、^{まず}貧しくなると思いますか？

1 豊かに	
2 貧しく	
3 変わらない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 豊 か に	2 貧 し く	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	M39d	23	40	32	1	5	101 (1,579)
XII (2008)	M35d	11	57	25	1	6	100 (1,573)
XI (2003)	M31d	14	47	31	1	6	99 (1,158)
X (1998)	M32d	15	50	27	0	7	99 (1,341)
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	M25d	44	25	21	2	8	100 (1,913)
V (1973)	M27d	38	30	19	3	10	100 (1,539)
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#7.18e 幸福になるか

ひとびとは幸福になると思いますか、不幸になると思いますか？

1 幸福に	
2 不幸に	
3 変わらない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 幸福 に	2 不幸 に	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	M39e	27	21	39	1	12	100 (1,579)
XII (2008)	M35e	21	25	36	2	16	100 (1,573)
XI (2003)	M31e	17	25	41	2	15	100 (1,158)
X (1998)	M32e	19	28	36	1	16	100 (1,341)
IX (1993)	×						
VIII (1988)	×						
VII (1983)	×						
VI (1978)	M25e	37	19	24	5	16	101 (1,913)
V (1973)	M27e	27	26	24	4	19	100 (1,539)
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#7.19 才能か運か

いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのどちらが大きな役割をはたしていると思いますか？

1 個人の才能や努力	
2 運やチャンス	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 才能 や 努力	2 運 や チャン ス	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M 7	58	31	6	5	100 (1,579)
XII (2008)	M 7	58	30	7	5	100 (1,573)
XI (2003)	M 6	50	36	8	6	100 (1,158)
X (1998)	M 7	48	42	6	5	101 (1,341)
IX (1993)	M 6	52	35	8	5	100 (1,905)
VIII (1988)	M 6	49	35	12	5	101 (1,824)
VII (1983)	×					
VI (1978)	M 2	44	38	9	8	99 (1,913)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#7.24 就職の第1の条件

[リスト] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。あなたは、どれに1番関心がありますか？

1	かなりよい給料がもらえること	
2	倒産や失業の恐れがない仕事	
3	気の合った人たちと働くこと	
4	やりとげたという感じがもてる仕事	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 よい 給料	2 失 業 の 恐 れ が な い	3 気 の 合 っ た 人 た ち	4 や り と げ た 感 じ	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	K33a	9	19	27	44	0	1	100 (1,591)
XII (2008)	K30a	7	19	29	43	0	1	99 (1,729)
XI (2003)	K31a	8	19	26	45	0	2	100 (1,192)
X (1998)	K+M	7	23	29	36	0	4	99 (2,680)
	K30a	7	18	31	41	0	2	99 (1,339)
	M17	7	29	26	32	0	5	99 (1,341)
IX (1993)	M16a	12	20	31	33	0	3	99 (1,905)
VIII (1988)	K+M	10	15	36	36	1	2	100 (3,682)
	K24	9	14	35	39	1	1	99 (1,858)
	M17	10	17	36	34	1	2	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	7	17	33	39	1	2	99 (4,429)
	K25	7	16	33	42	1	2	101 (2,256)
	M23	8	19	33	37	1	2	100 (2,173)
VI (1978)	K24a	7	23	30	38	0	2	100 (2,032)
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#7.24b 就職の第2の条件

[リスト] では、2番目はどれですか？

1	かなりよい給料がもらえること	
2	倒産や失業の恐れがない仕事	
3	気の合った人たちと働くこと	
4	やりとげたという感じがもてる仕事	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 よい 給料	2 失 業 の 恐 れ が な い	3 気 の 合 っ た 人 た ち	4 や り と げ た と い う 感 じ	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	K33a	18	23	34	23	0	2	100 (1,591)
XII (2008)	K30b	19	23	32	24	-	3	101 (1,729)
XI (2003)	K31b	19	22	34	21	0	3	99 (1,192)
X (1998)	K30b	17	20	34	24	-	5	100 (1,339)
IX (1993)	M16b	22	20	29	22	0	6	99 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	K24b	20	24	30	22	0	3	99 (2,032)
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#7.25 お金と仕事

[リスト] 仕事について、つぎの2つの意見があります。どちらがあなたの気持ちに近いですか？

- | | | |
|---|-------------------------------|---------|
| 1 | いくらお金があっても、仕事があれば、人生はつまらない | |
| 2 | お金があれば、仕事がなくても、人生がつまらないとは思わない | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 ば仕事 つま らな けれ いれ	2 仕事 がな くも よ くて	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M13	72	26	1	2	101 (1,579)
XII (2008)	M11	76	22	0	2	100 (1,573)
XI (2003)	M10	71	26	2	2	101 (1,158)
X (1998)	M11	76	21	1	2	100 (1,341)
IX (1993)	M12	75	22	0	3	100 (1,905)
	K+M	77	19	1	2	99 (3,682)
VIII (1988)	K23	80	17	1	2	100 (1,858)
	M11	75	21	2	2	100 (1,824)
VII (1983)	K24	83	14	1	2	100 (2,256)
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#7.29 くらしむぎ

[リスト] 現在のお宅のくらしむぎは、次の5つに分けるとすれば、どれに当たるでしょうか？

1	非常に豊か	
2	やや豊か	
3	ふつう	
4	やや貧しい	
5	非常に貧しい	
6	その他 [記入]	7 D.K.

	問	1 非常に 豊か	2 やや 豊か	3 ふつ う	4 やや 貧し い	5 非常 に貧 しい	6 その 他	7 D.K.	計
XIII (2013)	M18	2	13	69	13	2	-	0	99 (1,579)
XII (2008)	M16	2	10	71	13	3	-	0	99 (1,573)
XI (2003)	M15	1	11	73	12	3	-	1	101 (1,158)
X (1998)	M16	1	9	73	14	3	-	0	100 (1,341)
IX (1993)	M15	1	12	73	11	2	-	0	99 (1,905)
VIII (1988)	M12	1	10	72	14	2	0	0	99 (1,824)
VII (1983)	×								
VI (1978)	×								
V (1973)	×								
IV (1968)	×								
III (1963)	×								
II (1958)	×								
I (1953)	×								

#7.30a 生活水準 10 年の変化

[リスト] あなたの生活水準は、この 10 年間 でどう変わりましたか？

1	よくなった	
2	ややよくなった	
3	変わらない	
4	ややわるくなった	
5	わるくなった	
6	その他 [記入]	7 D.K.

	問	1 よ く な っ た	2 よ や よ く な っ た	3 変 ら な い	4 よ や わ る な っ た く	5 わ る な っ た	6 そ の 他	7 D.K.	計
XIII (2013)	M28	4	16	53	20	6	-	1	100 (1,579)
XII (2008)	M26	4	17	44	25	10	-	0	100 (1,573)
XI (2003)	M26	4	16	40	28	11	0	1	100 (1,158)
X (1998)	M26	4	24	42	22	7	-	1	100 (1,341)
IX (1993)	M24	9	31	46	10	3	-	1	100 (1,905)
VIII (1988)	M25	10	31	43	10	4	0	1	99 (1,824)
VII (1983)	M14a	17	32	35	10	4	0	1	99 (2,173)
VI (1978)	×								
V (1973)	×								
IV (1968)	×								
III (1963)	×								
II (1958)	×								
I (1953)	×								

#7.35 環境の保護は重要か

[リスト] 環境の保護は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか？

1	非常に重要である	
2	重要である	
3	あまり重要ではない	
4	重要ではない	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 重要である	2 重要である	3 あまり重要 ではない	4 重要 ではない	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	K37	39	54	6	0	0	1	100 (1,591)
XII (2008)	K34	44	49	6	0	0	2	101 (1,729)
XI (2003)	K35	45	47	5	1	0	2	100 (1,192)
X (1998)	K35	49	43	6	0	–	2	100 (1,339)
IX (1993)	K36	50	43	5	0	–	2	100 (1,833)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	M27b	37	50	9	1	1	3	101 (2,173)
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#7.36 科学上の発見・利用は生活に役立つか

[リスト] 科学上の発見とその利用は、どの程度あなたの日常生活の改善に役立っていると思いますか？

1 役立っている	
2 少しは役立っている	
3 役立っていない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 役立 っている	2 少 しは 役立 つは っている	3 役立 つて いな い	4 そ の 他	5 D. K.	計
XIII (2013)	K36	39	46	10	0	5	100 (1,591)
XII (2008)	K33	39	47	8	–	5	99 (1,729)
XI (2003)	K34	38	44	9	0	8	99 (1,192)
X (1998)	K34	40	44	8	–	7	99 (1,339)
IX (1993)	K35	47	41	6	0	6	100 (1,833)
VIII (1988)	×						
VII (1983)	M28	39	48	7	1	4	99 (2,173)
VI (1978)	×						
V (1973)	×						
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#7.37 自分だけとり残されているか

あなたは、これまでに、「自分が世の中の動きからとり残されている」と感じたことがありますか？

1 ある	
2 ない	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 ある	2 ない	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M 9	30	67	0	3	100 (1,579)
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	M 8	33	63	1	2	99 (1,824)
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#7.38 努力は報われるか

[リスト] 自分の目標に向かって努力することについてつぎの2つの意見があります。あなたの意見はどちらに近いですか？

1	まじめに努力していれば、いつかは必ず報われると思う	
2	いくら努力しても、全く報われないことが多いと思う	
3	その他 [記入]	4 D.K.

	問	1 報 わ れ る	2 報 わ れ な い	3 そ の 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M36	72	26	1	2	101 (1,579)
XII (2008)	×					
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	M14	79	17	2	2	100 (1,824)
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#7.40 社会は公平か

[リスト] 一般的に言って、今の日本の社会は公平だと思いますか。あなたの気持は、つぎのうちのどれに近いですか？

1	公平だ	
2	だいたい公平だ	
3	あまり公平でない	
4	公平でない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 公平だ	2 だ いた い 公 平 だ	3 あ ま り 公 平 で な い	4 公 平 で な い	5 そ の 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M27	2	37	46	14	0	1	100 (1,579)
XII (2008)	M25	3	27	49	21	—	1	101 (1,573)
XI (2003)	M25	1	29	48	20	0	2	100 (1,158)
X (1998)	M25	2	24	50	23	0	1	100 (1,341)
IX (1993)	M23	3	33	47	15	0	2	100 (1,905)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#7.45b 社会のあり方

[リスト] 日本の社会のこれからのありかたについて、つぎのような意見があるとします。あなたはどちらに賛成ですか。もちろん、場合により、また程度によって違うでしょうが、あえて言えば、どちらの意見に近いでしょうか？

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 自由に競争できる社会にすることが、もっと必要だと思う | |
| 2 弱い立場の人々を保護することが、もっと必要だと思う | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 自由に 競争	2 弱者を 保護	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M37	31	63	1	4	99 (1,579)
XII (2008)	M33	22	73	1	3	99 (1,573)
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

§8 政治的態度

#8.1b 政治家にまかせるか

こういう意見があります。

「日本の国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成 [まかせる]	
2 反対 [まかせっきりはいけない]	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 賛 成	2 反 対	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	K 9	23	67	2	8	100 (1,591)
XII (2008)	K 8	24	69	2	5	100 (1,729)
XI (2003)	K 8	21	69	2	9	101 (1,192)
X (1998)	K 8	26	67	1	6	100 (1,339)
IX (1993)	K 7	24	68	1	7	100 (1,833)
VIII (1988)	K 8	30	61	4	5	100 (1,858)
VII (1983)	K+M	33	60	3	5	101 (4,429)
	K10	33	60	2	5	100 (2,256)
	M 7	32	59	3	5	99 (2,173)
VI (1978)	K 8	32	58	2	7	99 (2,032)
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

[参考]

#8.1 政治家にまかせるか

こういう意見があります。

「日本の国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成 [まかせる]	
2 時、人による	
3 反対 [まかせっきりはいけない]	
4 そんなにすぐれた人が出るとは考えられない	
5 その他 [記入]	6 D.K.

	問	1 賛成	2 時、 人 よるに	3 反 対	4 は そ ん な 人	5 そ の 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	×							
XII (2008)	×							
XI (2003)	×							
X (1998)	×							
IX (1993)	×							
VIII (1988)	×							
VII (1983)	×							
VI (1978)	×							
V (1973)	K15	23	15	51	5	1	6	101 (3,055)
IV (1968)	12	30	10	51	3	1	5	100 (3,033)
III (1963)	11	29	13	47	4	1	7	101 (2,698)
II (1958)	¹² 112	35	10	44	2	0	9	100 (2,369)
I (1953)	30 ^{注)}	43	9	38	3	0	7	100 (2,254)

注) 第1次(1953)調査の質問文は以下のとおり。

「日本の復興の為には、すぐれた政治家が出てきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせた方がよい」という意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

#8.5 社会問題への関心

あなたは、一般の社会的な問題について、なにか意見をもつほうですか、それともあまり意見をもたないほうですか？

1 意見をもたないほう
2 意見をもつほう

	問	1 も た な い ほ う	2 も つ ほ う	計
XIII (2013)	M10	48	52	100 (1,579)
XII (2008)	×			
XI (2003)	×			
X (1998)	×			
IX (1993)	×			
VIII (1988)	×			
VII (1983)	×			
VI (1978)	×			
V (1973)	×			
IV (1968)	×			
III (1963)	×			
II (1958)	^{30ab} _{130ab}	62	38	100 (2,369)
I (1953)	×			

#8.6 選挙への関心

[リスト] あなたは衆議院の総選挙があるとき、ふつうはどうしますか？

1	なにをおいても投票する
2	なるべく投票するようにつとめる
3	あまり投票する気にならない
4	ほとんど投票しない
5	その他 [記入]
6	D. K.

	問	1 なにをおいても 投票	2 なるべく投票	3 あまり投票する 気にならない	4 ほとんど 投票しない	5 その他	6 D. K.	計	
XIII (2013)	K35	37	50	8	5	0	0	100 (1,591)	
XII (2008)	K32	40	48	6	5	—	1	100 (1,729)	
XI (2003)	K33	35	50	8	6	0	0	99 (1,192)	
X (1998)	K33	37	47	9	6	0	0	99 (1,339)	
VIII (1988)	IX (1993)	K31	40	50	7	3	0	0	100 (1,833)
	K+M	34	50	10	5	0	0	99 (3,682)	
	K28	32	52	10	6	0	0	100 (1,858)	
	M21	36	49	10	5	0	0	100 (1,824)	
VII (1983)	M31	39	48	9	3	0	0	99 (2,173)	
VI (1978)	M18	45	47	5	3	0	0	100 (1,913)	
V (1973)	K39	41	50	6	2	0	0	99 (3,055)	
IV (1968)	38	51	44	4	1	0	0	100 (3,033)	
III (1963)	33	53	41	4	1	0	1	100 (2,698)	
II (1958)	34	62	32	3	2	1	1	101 (2,369)	
	134								
I (1953)	×								

#8.7k 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1	自民党	
2	民主党	
3	公明党	
4	共産党	
5	社民党	
6	日本維新の会	
7	みんなの党	
8	生活の党	
9	新党改革	
10	その他の政党 [記入]	
11	支持政党なし	12 D. K.

	問	1 自民党	2 民主党	3 公明党	4 共産党	5 社民党	6 日本維新の会	7 みんなの党	8 生活の党	9 新党改革	10 その他の政党	11 支持政党なし	12 D.K.	計
	K+M	30	4	4	2	0	1	1	0	-	1	55	3	101 (3,170)
XIII (2013)	K40	31	5	4	2	0	1	1	0	-	1	52	3	100 (1,591)
	M40	28	4	4	1	0	1	1	-	-	0	58	3	100 (1,579)
XII (2008)	×													
XI (2003)	×													
X (1998)	×													
IX (1993)	×													
VIII (1988)	×													
VII (1983)	×													
VI (1978)	×													
V (1973)	×													
IV (1968)	×													
III (1963)	×													
II (1958)	×													
I (1953)	×													

[参考]

#8.7 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1	自民党	
2	民社党	
3	社会党	
4	共産党	
5	公明党	
6	新自由クラブ	
7	社会民主連合	
8	その他の政党 [記入]	
9	支持政党なし	
10	D. K.	

	問	1 自民党	2 民社党	3 社会党	4 共産党	5 公明党	6 新自由クラブ	7 社会民主連合	8 その他の政党	9 支持政党なし	10 D.K.	計
XIII (2013)	×											
XII (2008)	×											
XI (2003)	×											
X (1998)	×											
IX (1993)	×											
VIII (1988)	K+M	36	2	14	2	3	*	0	1	38	4	100 (3,682)
	K支持	36	2	14	2	3	*	0	1	39	3	100 (1,858)
	M支持	36	2	15	2	4	*	0	1	36	4	100 (1,824)
VII (1983)	K+M	39	4	13	3	4	1	0	1	32	4	101 (4,429)
	K支持	39	4	12	3	5	0	0	1	33	3	100 (2,256)
	M支持	39	4	13	3	4	1	0	1	31	4	100 (2,173)
VI (1978)	K+M	34	3	14	3	4	1	0	2	34	5	100 (3,945)
	K31	35	3	14	2	4	1	0	2	34	5	100 (2,032)
	M26	34	2	14	3	5	1	0	2	33	5	99 (1,913)
V (1973)	K+M	33	3	17	3	4	*	*	2	33	6	101 (4,594)
	K40	35	3	17	3	4	*	*	2	31	5	100 (3,055)
	M28	30	2	17	3	3	*	*	1	37	7	100 (1,539)
IV (1968)	39	41	4	22	2	4	*	*	3	21	4	101 (3,033)
III (1963)	35	43	3	22	0	2	*	*	1	22	7	100 (2,698)
II (1958)	35 135	38	*	30	0	*	*	*	1	20	10	99 (2,369)
I (1953)	注1) 58	40	*	23	0	*	*	*	5	20	12	100 (2,254)

注1) 第1次(1953)調査では、1 自由党と改進黨、3 左右社会党

[参考]

#8.7g 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1 自民党	
2 社会党	
3 新生党	
4 公明党	
5 日本新党	
6 民社党	
7 共産党	
8 新党さきがけ	
9 社会民主連合	
10 その他の政党 [記入]	
11 支持政党なし	12 D. K.

	問	1 自民党	2 社会党	3 新生党	4 公明党	5 日本新党	6 民社党	7 共産党	8 新党さきがけ	9 社会民主連合	10 その他の政党	11 支持政党なし	12 D.K.	計
XIII (2013)	×													
XII (2008)	×													
XI (2003)	×													
X (1998)	×													
IX (1993)	K+M	27	9	5	3	6	1	1	1	0	0	41	4	98 (3,738)
	K39	29	8	5	4	6	1	1	1	0	0	41	4	100 (1,833)
	M33	25	10	6	3	6	2	2	1	0	0	42	3	100 (1,905)
VIII (1988)	×													
VII (1983)	×													
VI (1978)	×													
V (1973)	×													
IV (1968)	×													
III (1963)	×													
II (1958)	×													
I (1953)	×													

[参考]

#8.7h 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1 自民党	
2 民主党	
3 新党平和・公明	
4 自由党	
5 共産党	
6 社民党	
7 改革クラブ	
8 新党さきがけ	
9 その他の政党 [記入]	
10 支持政党なし	11 D. K.

	問	1 自民党	2 民主党	3 新党平和・公明	4 自由党	5 共産党	6 社民党	7 改革クラブ	8 新党さきがけ	9 その他の政党	10 支持政党なし	11 D.K.	計
XIII (2013)	×												
XII (2008)	×												
XI (2003)	×												
X (1998)	K+M	21	8	3	2	3	3	0	0	0	57	3	100 (2,680)
	K37	22	7	3	2	3	3	0	0	0	57	3	100 (1,339)
	M33	20	8	3	1	3	3	-	0	0	57	3	98 (1,341)
IX (1993)	×												
VIII (1988)	×												
VII (1983)	×												
VI (1978)	×												
V (1973)	×												
IV (1968)	×												
III (1963)	×												
II (1958)	×												
I (1953)	×												

[参考]

#8.7i 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1	自民党	
2	民主党	
3	公明党	
4	自由党	
5	共産党	
6	社民党	
7	保守新党	
8	その他の政党 [記入]	
9	支持政党なし	
10	D. K.	

	問	1 自民党	2 民主党	3 公明党	4 自由党	5 共産党	6 社民党	7 保守新党	8 その他の政党	9 支持政党なし	10 D.K.	計
XIII (2013)	×											
XII (2008)	×											
XI (2003)	K+M	25	5	4	1	2	1	0	0	60	3	101 (2,350)
	K37	26	4	4	1	1	1	-	0	60	3	100 (1,192)
	M32	24	5	4	1	2	1	0	0	60	3	100 (1,158)
X (1998)	×											
IX (1993)	×											
VIII (1988)	×											
VII (1983)	×											
VI (1978)	×											
V (1973)	×											
IV (1968)	×											
III (1963)	×											
II (1958)	×											
I (1953)	×											

[参考]

#8.7j 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1	自民党	
2	民主党	
3	公明党	
4	共産党	
5	社民党	
6	国民新党	
7	その他の政党 [記入]	
8	支持政党なし	9 D. K.

	問	1 自民党	2 民主党	3 公明党	4 共産党	5 社民党	6 国民新党	7 その他の政党	8 支持政党なし	9 D.K.	計
XIII (2013)	×										
	K+M	22	12	3	2	1	0	0	55	4	99 (3,302)
XII (2008)	K36	22	13	3	2	1	0	0	54	5	100 (1,729)
	M36	22	12	3	2	1	0	0	57	4	101 (1,573)
XI (2003)	×										
X (1998)	×										
IX (1993)	×										
VIII (1988)	×										
VII (1983)	×										
VI (1978)	×										
V (1973)	×										
IV (1968)	×										
III (1963)	×										
II (1958)	×										
I (1953)	×										

#8.9 社会不満の表し方

[リスト] 仮りに、あなたが社会に対して不満があるとします。その場合、あなたはどのような態度をとりますか？

1	選挙で投票するときに、考慮する	
2	合法的な陳情、署名あつめ、デモ、ストライキなどをする	
3	場合によっては、非合法の手段をとることもありうる	
4	たとえ不満があっても、別になにもしない	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 選挙で 考慮	2 合法的 に	3 場合 により 非合法 の手段	4 な にも しない	5 その他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M25	54	8	4	31	1	2	100 (1,579)
XII (2008)	M23	55	10	4	28	0	2	99 (1,573)
XI (2003)	M23	46	12	6	30	1	5	100 (1,158)
X (1998)	M23	51	10	5	31	0	4	101 (1,341)
IX (1993)	M21	49	7	5	34	0	5	100 (1,905)
VIII (1988)	M22	42	6	3	46	1	3	101 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	M24	37	15	4	38	1	4	99 (1,913)
V (1973)	×							
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

§9 日本人・人種

#9.1 日本人の性格 (長所)

[リスト] つぎのうち、日本人の性質をあらわしていると思うコトバがあったら、いくつでもあげてください？

1	合理的	
2	勤勉	
3	自由を尊ぶ	
4	淡泊	
5	ねばり強い	
6	親切	
7	独創性にとむ	
8	礼儀正しい	
9	明朗	
10	理想を求める	
11	その他 [記入]	
12	D. K.	

	問	1 合理的	2 勤勉	3 自由を尊ぶ	4 淡泊	5 ねばり強い	6 親切	7 独創性にとむ	8 礼儀正しい	9 明朗	10 理想を求める	11 その他	12 D.K.	計 (複数回答)
XIII (2013)	K38	12	77	12	9	57	71	8	77	11	16	0	1	— (1,591)
XII (2008)	K35	17	67	15	11	49	52	9	60	10	20	0	2	— (1,729)
XI (2003)	K36	17	66	14	14	46	41	9	48	8	20	1	4	— (1,192)
X (1998)	K36	18	71	13	14	51	42	7	50	8	23	0	4	— (1,339)
IX (1993)	×													
VIII (1988)	K30	22	72	14	13	50	38	10	50	9	27	1	3	— (1,858)
VII (1983)	K31	22	69	17	12	60	42	11	47	12	30	1	2	— (2,256)
VI (1978)	×													
V (1973)	K38a	13	66	9	14	52	31	7	37	9	21	1	6	— (3,055)
IV (1968)	37a	10	61	12	13	58	45	8	47	13	23	1	5	— (3,033)
III (1963)	32a	8	60	10	15	55	42	7	43	14	23	1	9	— (2,698)
II (1958)	$\frac{28}{128}$	11	55	15	19	48	50	8	47	23	32	12		— (2,369)
I (1953)	×													

#9.6 日本人・西洋人の優劣

日本人は西洋人とくらべて、ひとくちでいえばすぐれていると思いますか、それとも劣っていると思いますか？

1	すぐれている	
2	劣っている	
3	同じだ	
4	ひとくちではいけない	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 すぐれている	2 劣っている	3 同じだ	4 ひとくちでは いけない	5 その他	6 D. K.	計
XIII (2013)	K20	44	7	29	15	0	5	100 (1,591)
XII (2008)	K16	37	9	28	22	0	4	100 (1,729)
XI (2003)	K19	31	7	31	24	1	6	100 (1,192)
X (1998)	K17	33	11	32	19	0	6	101 (1,339)
IX (1993)	K17	41	6	27	20	0	5	99 (1,833)
VIII (1988)	×							
VII (1983)	K11	53	8	12	21	2	5	101 (2,256)
VI (1978)	×							
V (1973)	K16	39	9	18	26	0	7	99 (3,055)
IV (1968)	35	47	11	12	21	1	7	99 (3,033)
III (1963)	30	33	14	16	27	1	9	100 (2,698)
II (1958)	×							
I (1953)	25	20	28	14	21	1	15	99 (2,254)

#9.12 日本の「科学技術の水準」

〔リスト〕現在の日本は「科学技術の水準」という点では、つぎの4つのどれに当たると思いますか？

1	非常によい	
2	ややよい	
3	ややわるい	
4	非常にわるい	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に よ い	2 や や よ い	3 わ や る や い	4 わ る 非 常 に よ い	5 そ の 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M31a	35	52	6	1	0	6	100 (1,579)
XII (2008)	M29a	35	51	6	1	0	6	99 (1,573)
XI (2003)	M28a	28	54	7	0	0	10	99 (1,158)
X (1998)	M29a	24	57	10	1	—	8	100 (1,341)
IX (1993)	M28a	46	43	3	0	0	7	99 (1,905)
VIII (1988)	M27a	43	45	4	1	0	7	100 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	M22a	37	48	5	1	1	9	101 (1,913)
V (1973)	M25a	33	49	6	2	0	10	100 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#9.12b 日本の「芸術」

[リスト] では、「芸術」という点では、日本はどれでしょうか？

1	非常によい	
2	ややよい	
3	ややわるい	
4	非常にわるい	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に よい	2 やや よい	3 やや わるい	4 非常に わるい	5 その 他	6 D.K.	計
XIII (2013)	M31b	16	61	14	1	—	7	99 (1,579)
XII (2008)	M29b	13	59	18	2	0	9	101 (1,573)
XI (2003)	M28b	8	59	18	2	0	13	100 (1,158)
X (1998)	M29b	7	54	23	3	0	12	99 (1,341)
IX (1993)	M28b	14	54	19	2	0	11	100 (1,905)
VIII (1988)	M27b	12	47	24	4	1	12	100 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	M22b	18	53	12	2	1	14	100 (1,913)
V (1973)	M25b	14	48	16	2	0	19	99 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#9.12c 日本の「経済力」

[リスト] では、「経済力」という点では、日本はどれでしょうか？

1	非常によい	
2	ややよい	
3	ややわるい	
4	非常にわるい	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に よい	2 やや よい	3 やや わるい	4 非常に わるい	5 その 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M31c	5	44	41	6	0	3	99 (1,579)
XII (2008)	M29c	5	32	46	14	0	2	99 (1,573)
XI (2003)	M28c	3	29	51	14	–	3	100 (1,158)
X (1998)	M29c	4	28	42	23	–	3	100 (1,341)
IX (1993)	M28c	33	46	14	3	0	4	100 (1,905)
VIII (1988)	M27c	42	40	10	2	0	6	100 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	M22c	23	43	19	5	0	8	98 (1,913)
V (1973)	M25c	25	42	19	5	1	9	101 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#9.12d 日本の「生活水準」

[リスト] では、「生活水準」という点では、日本はどれでしょうか？

1	非常によい	
2	ややよい	
3	ややわるい	
4	非常にわるい	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に よい	2 やや よい	3 やや わるい	4 非常に わるい	5 その 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M31d	7	54	33	3	0	3	100 (1,579)
XII (2008)	M29d	5	44	41	7	0	2	99 (1,573)
XI (2003)	M28d	5	45	41	6	0	3	100 (1,158)
X (1998)	M29d	5	48	38	6	—	2	99 (1,341)
IX (1993)	M28d	16	58	20	2	0	3	99 (1,905)
VIII (1988)	M27d	17	56	19	3	1	4	100 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	M22d	11	52	25	7	1	4	100 (1,913)
V (1973)	M25d	9	42	32	10	1	5	99 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#9.12e 日本の「心の豊かさ」

[リスト] では、「心の豊かさ」という点では、日本はどれでしょうか？

1	非常によい	
2	ややよい	
3	ややわるい	
4	非常にわるい	
5	その他 [記入]	
6	D. K.	

	問	1 非常に よい	2 やや よい	3 やや わるい	4 非常に わるい	5 その 他	6 D. K.	計
XIII (2013)	M31e	5	43	42	8	0	3	101 (1,579)
XII (2008)	M29e	2	26	50	19	0	2	99 (1,573)
XI (2003)	M28e	2	23	52	19	0	4	100 (1,158)
X (1998)	M29e	2	24	50	21	0	3	100 (1,341)
IX (1993)	M28e	4	37	43	11	0	5	100 (1,905)
VIII (1988)	M27e	4	34	41	14	0	5	98 (1,824)
VII (1983)	×							
VI (1978)	M22e	6	39	37	11	1	5	99 (1,913)
V (1973)	M25e	6	33	40	14	1	6	100 (1,539)
IV (1968)	×							
III (1963)	×							
II (1958)	×							
I (1953)	×							

#9.14 外国人との結婚

もし自分の子供が、「外国人と結婚したい」と言ったとしたら、あなたは、賛成しますか、それとも、反対しますか？

1 賛成する	
2 反対する	
3 場合による	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 賛成する	2 反対する	3 場合による	4 その他	5 D.K.	計
XIII (2013)	M 6	56	20	21	1	2	100 (1,579)
XII (2008)	M 6	51	20	26	1	2	100 (1,573)
XI (2003)	M 5	41	27	29	1	2	100 (1,158)
X (1998)	M 6	40	29	28	1	3	101 (1,341)
IX (1993)	M 3	30	34	31	2	3	100 (1,905)
VIII (1988)	M 3	29	36	28	4	2	99 (1,824)
VII (1983)	×						
VI (1978)	×						
V (1973)	×						
IV (1968)	×						
III (1963)	×						
II (1958)	×						
I (1953)	×						

#9.16 国際貢献

[リスト] これからの日本について、つぎの二つの意見があります。あなたの気持はどちらに近いですか？

1	自分たちの生活水準が多少落ちても、外国を助けるべきだ	
2	まだまだ自分たちの生活水準を上げることを考えるべきだ	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 外国 助ける	2 生活 水準 上げる	3 その 他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M35	36	58	1	6	101 (1,579)
XII (2008)	M32	39	56	1	4	100 (1,573)
XI (2003)	M30	33	59	1	6	99 (1,158)
X (1998)	M31	39	53	1	7	100 (1,341)
IX (1993)	M29	35	57	1	6	99 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#9.17 地球環境

[リスト] 地球環境と自分たちの生活との関係について、つぎの二つの意見があります。あなたの気持はどちらに近いですか？

- | | | |
|---|---|---------|
| 1 | 自分たちの生活が今より多少不便になっても、地球環境を守るために、ひとりひとりが努力すべきだ | |
| 2 | まだまだ自分たちの生活を、より便利にすることを考えるべきだ | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 ひとり ひとり 努力	2 自分 たちの 生活 便利 にの	3 そ の 他	4 D. K.	計
XIII (2013)	M34	85	13	0	2	100 (1,579)
XII (2008)	M31	88	10	0	2	100 (1,573)
XI (2003)	M29	82	14	0	3	99 (1,158)
X (1998)	M30	85	13	0	2	100 (1,341)
IX (1993)	M30	79	17	0	4	100 (1,905)
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

#9.22c 生まれかわりたい国

それでは、生まれかわるときにどこか好きな国を選べるとしたら、あなたはもう一度日本に生まれたいと思いますか、それとも、どこかよその国に生まれたいと思いますか？

1 日本に生まれたい	
2 よその国に生まれたい	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 日本に	2 よその 国に	3 その他	4 D.K.	計
XIII (2013)	M 2	83	13	1	2	99 (1,579)
XII (2008)	M 2	77	19	1	4	101 (1,573)
XI (2003)	×					
X (1998)	×					
IX (1993)	×					
VIII (1988)	×					
VII (1983)	×					
VI (1978)	×					
V (1973)	×					
IV (1968)	×					
III (1963)	×					
II (1958)	×					
I (1953)	×					

III 文献と資料

文献と資料

1953年

1. 林知己夫 他：「わが国国民性の統計数理的研究」日本統計学会会報, 1953年度, 52-66, 1953年.

1954年

2. 林知己夫：「統計的立場から見た国民性の研究」教育統計 (文部省調査局), 第30号, 16-53, 1954年.

1959年

3. 「国民性の研究 第II次調査 (その1)」数研研究リポート, No. 5, 1959年.
4. 「国民性の研究 第II次調査 (改訂増補版)」数研研究リポート, No. 6, 1959年.
5. 西平重喜：「日本人のものの考え方」経済評論, 8月臨時増刊号, 135-157, 1959年.

1960年

6. 「国民性の研究 岐阜吟味調査」数研研究リポート, No. 7, 1960年.
7. 林知己夫：「日本人の国民性」自由, 1月号, 58-72, 1960年.
8. Hayashi, C. *et al.* : A study of Japanese national character, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. I, 1-30, 1960.
9. Hayashi, C. *et al.* : A study of Japanese national character —Part II—, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. II, 1-30, 1960.

1961年

10. 統計数理研究所国民性調査委員会：日本人の国民性, 至誠堂, 1961年.
11. 西平重喜：「国民性第II次調査—その1—」日本統計学会会報, 1959年度, 52-53, 1961年.
12. 鈴木達三：「国民性第II次調査—その2—」日本統計学会会報, 1959年度, 53-55, 1961年.

1963年

13. 「国民性の研究 岐阜調査 (1963)」数研研究リポート, No. 8, 1963年.
14. 西平重喜：日本人の意見, 誠信書房, 1963年.

1964年

15. 「国民性の研究 第III次調査 1963年調査」数研研究リポート, No. 11, 1964年.

16. 「成年の常識 (壮丁検査との比較) および職業の社会的評価 (職業ランキング)」 数研研究レポート, No. 12, 1964 年.
17. 鈴木達三: 「国民性の研究 — 第 III 次全国調査について」 統計数理研究所彙報, 11 巻 2 号, 105-176, 1964 年.
18. 鈴木達三: 「戦後日本人は変わったか」 自由, 10 月号, 140-147, 1964 年.

1965 年

19. 林知己夫・西平重喜・鈴木達三: 図説・日本人の国民性 (至誠堂新書 5), 至誠堂, 1965 年.

1966 年

20. 「国民性の研究 1965 年調査」 数研研究レポート, No. 14, 1966 年.
21. Suzuki, T.: A study of the Japanese national character—Part III, the third survey, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. IV, 15-64, 1966.

1967 年

22. 林知己夫・鈴木達三: 「日本人の自画像 — 日本人は日本人をどう考えているか —」 自由, 1 月号, 170-178, 1967 年.

1968 年

23. 鈴木達三: 「日本人の国民性・ものの考え方」 統計 (日本統計協会), 19 巻 2 号 (2 月号), 22-27, 1968 年.

1969 年

24. 「宗教調査 — 1968 年, 国際比較 —」 数研研究レポート, No. 21, 1969 年.
25. 「国民性の研究 第 4 次全国調査 — 1968 年全国調査 —」 数研研究レポート, No. 23, 1969 年.
26. 「国民性の研究 — I. 1969 年岐阜パネル調査 — II. 面接調査と自記式調査の比較 (1969 年岐阜自記式調査)」 数研研究レポート, No. 24, 1969 年.
27. 林知己夫: 「日本人の国民像 — 15 年の変化」 自由, 7 月号, 49-57, 1969 年.
28. 西平重喜: 「日本人の宗教的態度と国際比較」 布教, 6 月号, 344-356, 1969 年.
29. 西平重喜: 「日本人の宗教的態度と国際比較」 布教, 7 月号, 403-417, 1969 年.
30. 西平重喜: 「15 年間の意見の変化 — 国民性第 IV 次調査より」 国民生活研究, Vol. 8, No. 7 (7 月号), 44-50, 1969 年.
31. 西平重喜: 「国民性の変化」 新聞広告ゼミナール講演集第 20 回, 全日本新聞広告会, 75-111, 1969 年.

1970年

32. 統計数理研究所国民性調査委員会：第2日本人の国民性，至誠堂，1970年。
33. 林知己夫：「断絶する政党と国民の政治意識」自由，2月号，90-95，1970年。
34. 西平重喜：「国民性調査からみた現代日本人の考え方感じ方」TVVレポート，No. 67，81-85，1970年。
35. Nisihira, S. : Les attitudes des Japonais envers la religion, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 81-94, 1970.
36. Suzuki, T. : A study of the Japanese national character — Part IV —, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 1-80, 1970. (255. に収録)

1971年

37. 青山博次郎：「日本人—統計から見た特性」毎日夫人，No. 136 (5月号)，4-18，1971年。
38. 鈴木達三：「海外における日系人のパースナリティ調査企画」AD.R (KYOWA AD-REVIEW)，No. 54，9-13，1971年。

1972年

39. 林知己夫：「比較研究のむずかしさ」共同通信，1972年7月5日。
40. 林知己夫：「日本人の国民性について—第20回国際心理学会に出席して」産経新聞，1972年8月25日。
41. Hayashi, C. : The Japanese national character, *Abstract Guide of XXth International Congress of Psychology, 1972 Tokyo*, 46-47, 1972.
42. 西平重喜：「西洋人は宗教についてどう考えているか」宗務時報，No. 29，2-21，1972年。
43. 鈴木達三：「ハワイ（ホノルル）における日系人—日本人の国民性調査との関連—」学術月報，Vol. 24, No. 11 (308号，2月)，37-44，1972年。
44. 鈴木達三：「変わりゆく日本人の国民性」PRニュース (電通PRセンター)，77号 (9月1日号)，3，1972年。
45. Suzuki, T., Hayashi, C., Nisihira, S., Aoyama, H., Nomoto, K., Kuroda, Y. and Kuroda, A. K. : A study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 7, 1-60, 1972. (255. に収録)

1973年

46. 「ハワイにおける日系人—日本人の国民性調査との関連，—ハワイ日系人の言語調査」数研研究レポート，No. 33，1973年。

47. 林知己夫：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試みⅡ—態度数量化の方法Ⅳ—」統計数理研究所彙報, 21 卷 2 号, 173-181, 1973 年.
48. 林知己夫(編著)・西平重喜・野元菊雄・鈴木達三：比較日本人論(中公新書 333), 中央公論社, 1973 年.
49. 西平重喜：「日本人の国民性について」心と社会, Vol. 4, No. 1, 47-53, 1973 年.
50. 坂元慶行：「公共意識と個人の権利意識」AD.R (KYOWA AD-REVIEW), No. 63, 19-23, 1973 年.
51. 鈴木達三：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試みⅠ—日本人の国民性とハワイ日系人—」統計数理研究所彙報, 21 卷 2 号, 125-171, 1973 年.

1974 年

52. 「国民性の研究 第 5 回全国調査—1973 年全国調査—」数研研究リポート, No. 38, 1974 年.
53. 林知己夫：社会と統計(放送大学実験放送テキスト), 旺文社, 1974 年.
54. 林知己夫：「日本人の心は変わったか—調査からみた日本人の国民性」日本人研究 1/日本人の心は変わったか(日本人研究会 編), 至誠堂, 1-80, 1974 年.
55. 林知己夫：「日本人の科学文明観」内外教育(時事通信社), 1974 年 5 月 24 日.
56. 林知己夫：「日本人はどのように変わったか—国民性の調査から—」町村週報, 1165 号(6 月), 3-7, 1974 年.
57. 林知己夫：「日本人の心のヒダ—根深い義理人情構造—」朝日新聞, 1974 年 6 月 17 日夕刊.
58. 林知己夫：「現代の若者も人情課長を好む—現代若者の職場意識—」あすへの力(神奈川県青少年育成課), No. 62(7 月), 1-4, 1974 年.
59. 林知己夫：「日本人の国民性をめぐって」教育と医学, 10 月号, 11-19, 1974 年.
60. 林知己夫：「相互理解の構造—年齢の断絶はくるか—」青淵, 10 月号, 23-25, 1974 年.
61. 林知己夫：「義理と人情」にげん百科, 5 卷 7 号(通巻 59 号), 1414-1415, 1974 年.
62. 林知己夫：「日本人は健全である—国民性調査 20 年で明らかにされた真実」正論, 12 月号, 52-60, 1974 年.
63. 林知己夫：「日本人の偉人観」歴史と旅, 1 卷 12 号(12 月号), 141-142, 1974 年.
64. 林知己夫：「日本人の価値観」自治研修, 12 月号, 11-20, 1974 年.
65. Hayashi, C. : Time, age and ways of thinking—from the Kokuminsei surveys, *J. of Asian and African Studies*, Vol. X, No. 1 & 2, 75-85, 1974. (77. に収録)
66. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative approach to a cross-societal research; a comparative study of Japanese character, Part I, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 26, No. 3, 455-516, 1974. (255. に収録)

67. 西平重喜：「政治についての世論の変化—20年史」日本人研究 1/日本人の心は変わったか(日本人研究会 編), 至誠堂, 81-113, 1974年.
68. 西平重喜：「変った国民性 変らない国民性」自由, 8月号, 174-182, 1974年.
69. Nisihira, S. : Changed and unchanged characteristics of the Japanese, *Japan Echo*, Vol. I, No. 2, 22-32, 1974. (68. の英訳)
70. Sakamoto, Y. : A study of the Japanese national character—Part V, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 8, 1-57, 1974.
71. 鈴木達三：「国民性国際比較の方法—日本人とハワイ日系人の比較から」日本人研究 1/日本人の心は変わったか(日本人研究会 編), 至誠堂, 258-318, 1974年.
72. 鈴木達三：日本人の国民性 20年の変遷(電通モチベーションリサーチ研究委員会定例研究会レポート No. 12), 1974年6月.

1975年

73. 統計数理研究所国民性調査委員会：第3日本人の国民性, 至誠堂, 1975年.
74. 林知己夫：「日本人の意識は支持政党によりどうちがうか」日本人研究 2/支持政党別日本人集団(日本人研究会 編), 至誠堂, 1-54, 1975年.
75. 林知己夫：「統計で日本人の心を描く」日立, 37巻2号(2月号), 8-9, 1975年.
76. 林知己夫：「日本人の生きがいについて」貯蓄時報(日銀), No. 106(12月号), 12-22, 1975年.
77. Hayashi, C. : Time, age and ways of thinking— from the Kokuminsei surveys, IN *Adult Episode in Japan* (ed. Plath, D. W.), E. J. Brill, Leiden, 75-85, 1975. (65. を収録)
78. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative approach to a cross-societal research; a comparative study of Japanese character, Part II, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 27, No. 1, 1-32, 1975. (255. に収録)
79. 西平重喜：「日本人の宗教的態度の変化」布教, 29巻3号, 174-180, 1975年.
80. 坂元慶行：「戦後日本の経済と人間の意識構造」週刊東洋経済, No. 3868(4月24日臨時増刊号), 117-125, 1975年.
81. 鈴木達三：「比較文化研究の問題」数理科学, 13巻3号(No. 141), 39-44, 1975年.

1976年

82. 林知己夫：「変わる思想・変わらぬ思想」信濃毎日, 1976年1月1日.
83. 林知己夫：「調査は何を物語るか」スチールデザイン(新日本製鉄(株)), 154号, 3-5, 1976年.
84. 林知己夫：「日本人の考え方はどう変ったか」日本文化会議月例懇談会収録集, No. 85, 1976年.

85. 林知己夫：「世論をどうつかまえるか」日本人研究 4/世論とは何か(日本人研究会 編), 至誠堂, 1-48, 1976 年.
86. 林知己夫：「比較研究ということ」統計(日本統計協会), 27 卷 10 号(10 月号), 55-56, 1976 年.
87. 鈴木達三：「地域開発、地域社会に関する世論」昭和 50 年代の地域開発を考えるための地域開発関連文献に関する調査・報告書(日本地域開発センター), 95-98, 1976 年 3 月.
88. 鈴木達三：「思想と年齢」数理科学, 14 卷 1 号(No. 151), 9-14, 1976 年.

1977 年

89. The Research Committee on the Study of the Japanese National Character : *Changing Japanese Value — Statistical Surveys and Analyses —*, Inst. Statist. Math., 1977.
90. 林知己夫：「世論調査の発展と現状」世論調査の現状と課題(輿論科学協会 編), 至誠堂, 51-88, 1977 年.
91. 林知己夫：「日本人の対外国態度と対外国人態度」日本人研究 5/日本人の対外国態度(日本人研究会 編), 至誠堂, 191-214, 1977 年.
92. 林知己夫：「価値観、につぼん 1895-1977」週刊東洋経済, No. 4001 (4 月 16 日号), (中綴じ 4 頁), 1977 年.
93. 林知己夫：「計量的日本人論」文化庁月報, No. 105 (6 月号), 4-7, 1977 年.
94. Hayashi, C. : Changes in Japanese thought during the past twenty years, *Text of Seminar in the U. S. (March 1977) "Nihonjin Kenkyukai: Changing Values in Modern Japan"*, 3-57, 1977. (255. に収録)
95. Suzuki, T. and Jitodai, T. T. : Migration and prefectural identification in four Japanese prefectures, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 29, No. 3, B, 511-525, 1977. (255. に収録)
96. Suzuki, T. and Kuroda, Y. : A note on immigrants to Hawaii, IN *A Comparative Sociological Study on the Adaptation and Attitude Change of Asian Emigrants (Migration Research Series No. 1)*, Dept. of Sociology, The University of Tsukuba, 30-39, 1977.

1978 年

97. 林知己夫：「日本人の対外国態度」正論, 4 月号, 31-32, 1978 年.
98. 林知己夫：「革新政党的の伸びる条件」Voice, 4 月号, 38-39, 1978 年.
99. 林知己夫：「日本人のグループダイナミックス」グループダイナミックス(三隅二不二 編), 旺文社, 128-137, 1978 年.

100. 林知己夫：「国民性」実験心理学研究, 17巻2号, 153, 1978年.
101. 林知己夫：「政治意識の生態—時と場合で使い分け—」朝日新聞, 1978年12月16日夕刊.
102. Hayashi, C. : Japanese attitude and party preference, *Japan Echo*, Vol. 5, Special Issue, 58-81, 1978. (74. の翻訳)
103. Hayashi, C. : Nationality, IN *Social Psychology in Japan* (ed. Misumi, J.), Osaka University, 674-675, 1978.
104. Kuroda, Y., Suzuki, T. and Hayashi, C. : A cross-national analysis of the Japanese character among Japanese-Americans in Honolulu, *Ethnicity*, Vol. 5, 42-59, 1978.
105. 西平重喜：世論反映の方法 (第II部第1章 日本人の国民性), 誠信書房, 1978年.

1979年

106. 「国民性の研究 第6回全国調査—1978年全国調査—」統計数理研究所 研究リポート, No. 46, 1979年.
107. 林知己夫：「戦後日本人の意識はどう変ったか—『伝統保守』へのUターンと“新型日本人”の出現」朝日ジャーナル, Vol. 21, No. 32 (8月17, 24日合併号), 96-100, 1979年.
108. 林知己夫：「都会人の自然観をめぐって—自然のあり方を考えるに際して—」グリーンエイジ ((財) 日本緑化センター), 9月号, 7-14, 1979年.
109. 林知己夫：「若い者は何をどう考えているか—国民性調査から—」教育委員会月報, No. 350 (10月号), 4-15, 1979年.
110. 林知己夫：「現代日本人の意識」自警, 12月号, 24-28, 1979年.
111. 林知己夫 他：「政治意識の感情構造の研究」統計数理研究所 研究リポート, No. 45, 1979年.
112. 林知己夫 他：「比較文化における統計的手法の確立—ハワイにおける日系人・非日系人調査—」統計数理研究所 研究リポート, No. 47, 1979年.
113. 鈴木達三：「いつ日本人は勤勉ではなくなるか」文化会議, 第121号 (7月号), 29-30, 1979年.

1980年

114. 林知己夫：「日本人の自然観—心を探る統計的方法—(講演概要)」新大広報 (新潟大学), 55号, 17-19, 1980年.
115. 林知己夫：「比較研究における方法論」日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性—(トヨタ財団第7回助成研究報告会資料), 74-92, 1980年2月.

116. 林知己夫：政治意識の感情構造と無党派層 ((社) 民主主義研究会報告書), 1980年3月.
117. 林知己夫：「心にとって加齢とは何か」日本老年医学会雑誌, 17巻3号, 270-273, 1980年.
118. 林知己夫：「日本人の意識の底を探る試み—お化けへの関心—」数理科学, 18巻6号 (No. 204), 23-32, 1980年.
119. 林知己夫：「若者の心の流れ」更正保護 (法務省保護局 編), 7月号, 32-35, 1980年.
120. 林知己夫：「多元化社会の青少年」教育委員会月報, No. 362 (10月号), 4-15, 1980年.
121. 林知己夫・鮑戸弘・佐藤誠三郎・岩男寿美子・児島和人・田崎篤郎：多元化社会の生活関心 (多元化社会の生活関心研究グループ—大平総理の政策研究会報告書9), 1980年7月.
122. Hayashi, C. : Data analysis in a comparative study, IN *Data Analysis and Informatics* (eds. Deday, E. *et al.*), North-Holland, 31-51, 1980.
123. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, sex and cohort: explicating social change in post-war Japan, *Proc. of Kyoto American Studies Summer Seminar*, Doshisha University, 95-124, 1980.
124. 水野欽司：「“暮らし方”意識の動き—日本人の国民性調査から—」統計 (日本統計協会), 31巻5号 (5月号), 1-6, 1980年.
125. 西平重喜：「世論調査にみる同時代史 (1) 日本人の考え方の変化」自由, 9月号, 18-27, 1980年.
126. 西平重喜：「日本人は宗教をどう考えているか」宗務時報, No. 55, 7-20, 1980年.
127. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents : Honolulu Residents and Their Attitudes in Multi-Ethnic Perspective: Toward a Theory of the American National Character, *The ISM Monograph*, 1, The University Press of Hawaii, 1980.
128. 鈴木達三：「アメリカ人の価値意識—国際比較の方法論的研究—」日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性—(トヨタ財団第7回助成研究報告資料), 40-73, 1980年2月.
129. 鈴木達三：「調査データの見方」確率と統計—基礎から応用まで (林知己夫 編著, テレビ大学講座), 旺文社, 101-114, 1980年.
130. Suzuki, T. : Pitfalls in cross-cultural survey research: comparative study of value systems in Japan and the United States, *Proc. of Symposium on Research Funded by the Toyota Foundation, "The Japanese and the Americans: Significance, Methodology and Possibilities of International Comparative Studies"*, Toyota Foundation, 97-101, 1980.

1981年

131. 林知己夫：「国民性の比較研究—国際比較研究の問題点—」日本文化の国際性と国際化の研究(放送開発センター, 昭和55年度), 33-54, 1981年3月.
132. 林知己夫：日本人研究三十年(至誠堂選書6), 至誠堂, 1981年.
133. 林知己夫 他：「社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究」統計数理研究所 研究レポート, No. 54, 1981年.
134. 水野欽司：「日本人の価値観を探る—第6回・国民性調査から」公務員の倫理と価値観(地方自治研究資料センター編, 自治研修叢書), 第一法規, 165-187, 1981年.
135. 中村隆・鈴木達三：「コウホート分析について」日本行動計量学会第9回大会発表論文抄録集, 136-137, 1981年.

1982年

136. 統計数理研究所国民性調査委員会：第4日本人の国民性, 出光書店, 1982年.
137. 林知己夫：「考えの筋道による国際比較」現代社会心理学の発展I(三隅二不二・木下富雄編), ナカニシヤ出版, 291-339, 1982年.
138. 林知己夫：「日本人論について」文化と人間(東洋他編, 講座現代の心理学), 小学館, 365-424, 1982年.
139. 林知己夫：「日本人の生きがいの変遷—国民性調査から—」教育と医学, 30巻4号(4月号), 12-22, 1982年.
140. 林知己夫：「計量的国民性研究の立場—日本人研究を中心として—」学術月報, Vol. 35, No. 3(6月号), 162-167, 1982年.
141. 林知己夫：「法意識の底にあるものを求めて」現代日本人の法意識(日本文化会議編), 第一法規, 45-83, 1982年.
142. 林知己夫：「敬う(特集—新・日本人像—)」月刊NIRA, 9月号, 13-15, 1982年.
143. 林知己夫編著：日本人の政治感覚(日本人研究6), 出光書店, 1982年.
144. 林知己夫・穂山貞登編：日本と東南アジアの文化摩擦, 出光書店, 1982年.
145. 林知己夫・米沢弘：日本人の深層意識(NHKブックス414), 日本放送出版協会, 1982年.
146. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル—標準コウホート表への適用—」統計数理研究所彙報, 29巻2号, 77-97, 1982年.
147. 中村隆：「新しいコウホート分析について(1)~(3)」中央調査報, No. 297~299, 6-7, 1982年.
148. 中村隆：「社会調査データのコウホート分析」第50回日本統計学会講演報告集, 181-183, 1982年.

149. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル」日本行動計量学会第10回大会発表論文抄録集, 42-43, 1982年.
150. 鈴木達三：「“ものの考え方”の変化と現代」サイコロジー, 3巻1号, 32-41, 1982年.
151. 鈴木達三：「国際比較の方法—日本人とアメリカ人—」数理科学, 20巻8号 (No. 230), 7-21, 1982年.
152. 鈴木達三・中村隆：「継続調査の二次分析」統計数理研究所 研究レポート, No. 56, 1982年.
153. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「マーケティングの新しい手法コウホート分析(上)」DIAMOND ハーバード・ビジネス, Vol. 7, No. 4, 39-48, 1982年.
154. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「注目されるコウホート分析(下) マーケティング戦略にどうかすか」DIAMOND ハーバード・ビジネス, Vol. 7, No. 5, 86-95, 1982年.

1983年

155. 林知己夫：「女の意見の特色」日本人研究7/日本の女性の生き方(杉山明子編), 出光書店, 163-179, 1983年.
156. 林知己夫：「日本人論と行動計量学」行動計量学, 10巻1号, 1-6, 1983年.
157. 林知己夫：「日本人の健康観」労働衛生, 27巻7号(7月号), 30-31, 1983年.
158. 林知己夫：「比較日本人論」第26回TASK講演会予稿, TASK たばこ総合研究センター, 1983年11月.
159. Hayashi, C. : International understanding through broadcasting and the basic structure of the social behavior of people, *HBF News Letter*, ISSUE No. 16, May, 35-49, 1983.
160. 中村隆：「女性の意見の世代差」日本人研究7/日本の女性の生き方(杉山明子編), 出光書店, 44-83, 1983年.
161. 中村隆：「一般コウホート表の分析—ベイズ型コウホート・モデル(III)—」日本行動計量学会第11回大会発表論文抄録集, 65-66, 1983年.
162. 坂元慶行：「日本人の国民性」文化のなかの人間(永野重史・依田明編, 発達心理学への招待7), 新曜社, 199-214, 1983年.
163. 坂元慶行：「日本における意識動向の新たな断面—人間関係観を中心として—」統計数理研究所彙報, 31巻2号, 133-149, 1983年.
164. 鈴木達三：「コウホート分析—継続調査データの組織的利用法—」マーケティング・リサーチャー, No. 30, 43-49, 1983年.
165. 鈴木達三・中村隆：「社会調査データの集積化と二次分析」統計数理研究所 研究レポート, No. 58, 1983年.

1984年

166. 「伝統志向の中にも新しい日本人—文部省国民性調査」朝日新聞, 1984年11月17日.
167. 「義理人情は健在—日本人の国民性調査」産経新聞, 1984年11月17日.
168. 「大切なのは国より家族—国民性調査『義理人情』も健在」東京新聞, 1984年11月17日.
169. 「『国家より家族大切』—国民性の研究まとまる、本音思考派が増加」日本経済新聞, 1984年11月17日.
170. 「『清く正しく』が激減—30年前に比べ義理人情変わらず、伝統回帰も」毎日新聞, 1984年11月17日.
171. 「国民性の研究 第7回全国調査—1983年全国調査—」統計数理研究所 研究リポート, No. 60, 1984年.
172. 林知己夫: 調査の科学 (ブルーバックス 571), 講談社, 1984年.
173. 林知己夫: 「科学のおとし穴はどこにあるか」あいまいさを科学する (林知己夫・坂本賢三 編, ブルーバックス 554), 講談社, 17-54, 1984年.
174. 林知己夫: 「国際比較からみた私の日本人論」集団力学研究所紀要, 1巻, 21-59, 1984年.
175. 林知己夫: 「現代日本人の心情風景」産経新聞, 1984年12月10日夕刊.
176. 林知己夫: 「日本人の国民性に関する十章—30年間の調査から—」教育委員会月報, No. 412 (12月号), 4-25, 1984年.
177. 林知己夫: 「新しい日本人が生まれつつある」内外教育 (時事通信社), 1984年12月7日.
178. 林知己夫 編著: 多次元尺度解析法の実際, サイエンス社, 1984年.
179. 林知己夫 他: 「社会調査による国際比較方法の研究」統計数理研究所 研究リポート, No. 59, 1984年.
180. 林知己夫 他: 「新しい価値意識の形成過程に関する計量的研究」統計数理研究所 研究リポート, No. 61, 1984年.
181. Hayashi, C., Suzuki, T. and Hayashi, F.: Comparative study of lifestyle and quality of life: Japan and France, *Behaviormetrika*, No. 15, 1-17, 1984. (255. に収録)
182. Hayashi, C. and Suzuki, T.: Changes in belief systems, quality of life issues and social conditions over 25 years in post-war Japan, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Part B, Vol. 36, No. 1, 135-161, 1984. (255. に収録)
183. 中村隆: 「コウホート分析の方法」ブレイン, Vol. 24, No. 9, 58-65, 1984年.

184. 中村隆：「支持政党のコウホート分析」第52回日本統計学会講演報告集, 321-322, 1984年.
185. The Research Committee on the Study of Japanese Americans in Honolulu, Hawaii : Honolulu's Japanese Americans in Comparative Perspective, *The ISM Monograph*, 2, The University Press of Hawaii, 1984.
186. 四手井綱英・林知己夫 編著：森林をみる心, 共立出版, 1984年.
187. 鈴木達三：「世代論の計量的展開—市場調査データとコウホート分析—」ブレーン, Vol. 24, No. 9, 45-56, 1984年.
188. 鈴木達三：「社会調査による国際比較研究における問題」日本心理学会シンポジウム予稿集, 1984年10月.
189. Suzuki, T. : Ways of life and social milieus in Japan and the United States: a comparative study, *Behaviormetrika*, No. 15, 77-108, 1984. (255. に収録)

1985年

190. 統計数理研究所国民性調査委員会：「国民性調査のコウホート分析—第3版—」統計数理研究所 研究レポート, No. 62, 1985年.
191. 林知己夫：「新しい日本の誕生」世界日報, 1985年1月13日.
192. 林知己夫：「私の世界—日本人研究(上・下)」信濃毎日, 1985年5月24, 25日夕刊.
193. 林知己夫：「国際理解と国際比較」統計数理, 33巻2号, 265-272, 1985年.
194. 林知己夫：「日本人のものの考え方・感じ方—国際交流における問題点—」国際を考えるシリーズ(国際商科大学国際交流研究所), 第3号, 3-27, 1985年.
195. 林知己夫：「国際文化比較の意味を考える」文化会議, 189号(3月号), 26-37, 1985年.
196. 林知己夫：データ解析法, 日本放送出版協会, 1985年.
197. 林知己夫：「翻訳とは何なのか」言語生活, 創立400号記念臨時増刊号, 58, 1985年.
198. 林知己夫：「日本人の国民性」教育展望, 5月号, 20-21, 1985年.
199. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究—『同じ所』『異なる所』を見極めよ」産経新聞, 1985年5月21日. (200. に収録)
200. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究—『同じ所』『異なる所』を見極めよ」正論, 1985年. (199. を収録)
201. 林知己夫：「調査極意」市場調査(輿論科学協会), 183号, 1-15, 1985年.
202. 林知己夫：「新しい日本人とはどんな人間？」NEXT, 8月号, 98-102, 1985年.
203. 林知己夫・赤池弘次・鈴木達三：統計学特論, 日本放送出版協会, 1985年.

204. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開—1983年ハワイ・ホノルル市民調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 63, 1985年.
205. Hayashi, C., Hayashi, F., Suzuki, T., Lebart, L. and Kuroda, Y. : Comparative study of quality of life and multidimensional data analysis: Japan, France and the U. S. (Hawaii), IN *Fourth International Symposium, Data Analysis and Informatics (Versailles, France, Oct., 1985)*, INRIA, 573-583, 1985. (255. に収録)
206. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, sex and cohort: explicating social change in post-war Japan, *Behaviormetrika*, No. 18, 1-16, 1985. (255. に収録)
207. 中村隆：「ベイズ型コウホートモデル」統計数理, 33巻1号, 47-48, 1985年.
208. 西平重喜：「日本人の国民性の研究」ケース・データにみる社会・世論調査(代表者岡本宏), 芦書房, 36-72, 1985年.
209. 坂元慶行：カテゴリカルデータのモデル分析, 共立出版, 1985年.
210. 鈴木達三：「消費者行動の新しいとらえ方—コウホート分析を中心に—」講演集・消費者行動を考える(流通問題研究協会 編, IDR 研究資料98), 59-77, 1985年11月.
211. 鈴木達三・中村隆：「継続調査データの二次分析」日本行動計量学会第13回大会発表論文抄録集, 72-73, 1985年.

1986年

212. 林知己夫：「日本の国際化—世界の孤児にならないために—」集団力学研究所紀要, 3巻, 110-119, 1986年.
213. 林知己夫：「日本人の休み方、遊び方」観光文化(交通公社), Vol. 59, No. 91, 1, 1986年.
214. 林知己夫：「日本人の国民性」新教育社会学辞典, 東洋館出版社, 697-698, 1986年.
215. 林知己夫：「国民性の統計的研究—来しかたを見て行くさきを思う」統計数理, 34巻1号, 1-27, 1986年.
216. 林知己夫・鈴木達三：社会調査と数量化—国際比較におけるデータ解析—, 岩波書店, 1986年.
217. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開—改定増補版—」統計数理研究所 研究レポート, No. 64, 1986年.
218. Kuroda, Y., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The role of language in cross-national surveys: American and Japanese respondents, *Applied Stochastic Models and Data Analysis*, Vol. 2, 43-59, 1986. (255. に収録)
219. 中村隆：「交互作用項のあるコウホート・モデル—ベイズ型コウホートモデル(VI)—」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 19-20, 1986年.

220. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents : The Third Attitudinal Survey of Honolulu Residents, *The ISM Monograph*, 3, The University of Hawaii Press, 1986.
221. 鈴木達三 : 「国際比較の現状とあり方—『意識の国際比較方法論の研究』に向けて—」文化会議, 第 209 号 (11 月号), 34-41, 1986 年.

1987 年

222. 林知己夫 : 「日本人の人間関係」人間関係論 (三隅二不二 編著), 日本放送出版協会, 166-182, 1987 年.
223. Hayashi, C. : Statistical study on Japanese national character, *J. of Japan Statistical Society*, Special Issue, 71-95, 1987.
224. Kuroda, Y., Kuroda, A. K., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The end of westernization and the beginning of new modernization in Japan: attitudinal dynamics of the Japanese, 1953-1983, *The Arab J. of the Social Sciences*, Vol. 2, No. 1, 18-36, 1987. (255. に収録)
225. 中村隆 : 「公開講演会要旨 : 年齢・時代・世代の違いを探る—コウホート分析の方法—」統計数理, 35 巻 1 号, 103-107, 1987 年.
226. 中村隆 : 「年齢・時代・世代の違いを捉える—ベイズ型コウホートモデル—」インフォメーション, Vol. 6, No. 9, 74-84, 1987 年.
227. 中村隆 : 「年齢・時代・世代効果の分離—ベイズ型コウホートモデル—」第 55 回日本統計学会講演報告集, 87-88, 1987 年.
228. 中村隆 : 「交互作用項のあるコウホート・モデル (2)—ベイズ型コウホートモデル (VII)—」日本行動計量学会第 15 回大会発表論文抄録集, C2.3.1-2, 1987 年.
229. 坂元慶行 : 「階層帰属意識の実像」統計数理, 35 巻 2 号, 233-255, 1987 年.
230. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in religious commitment in the United States, Holland, and Japan, *American J. of Sociology*, Vol. 92, No. 5, 1055-1076, 1987. (255. に収録)
231. Trommsdorff, G., Suzuki, T. und Sasaki, M. : Soziale ungleichheiten in Japan und der Bundesrepublik Deutschland, *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, Vol. 39, No. 3, 496-515, 1987. (255. に収録)

1988 年

232. 林知己夫 : 「日本人研究と国際比較」総研ジャーナル (関西学院大、総合研究室), No. 50, 1-22, 1988 年.
233. 林知己夫 : 生活価値観の変化とその測定 (マーケティング教育研究所レポート), 1988 年 3 月.

234. 林知己夫：日本人の心をはかる，朝日新聞社，1988年。
235. 林知己夫：「玉虫色好きは貴重な態度—日本人の国民性調査から—」産経新聞，1988年7月26日。(236. に収録)
236. 林知己夫：「日本人の国民性調査から」正論，10月号，(オピニオン正論欄 30-31)，1988年。(235. を収録)

1989年

237. 「国民性の研究 第8回全国調査—1988年全国調査—」統計数理研究所 研究リポート，No. 69，1989年。
238. 林知己夫：「心をはかる 数量からみた日本人の心」東京新聞，1989年2月2日。
239. 林知己夫：「心をはかる 変わらぬ心、変わる心」東京新聞，1989年2月9日。
240. 林知己夫：「心をはかる 変化する『心の構図』」東京新聞，1989年2月16日。
241. 林知己夫：「心をはかる 変化の節目は15年刻み」東京新聞，1989年2月23日。
242. 林知己夫：新型日本人と企業の対応 (マーケティング教育研究所レポート)，1989年3月。
243. 林知己夫：「人間の価値観の重要性」RANDOM (リサーチ・アンド・デベロップメント)，5号，1-2，1989年。
244. 林知己夫：「日本人の科学文明観と情操教育」悠(筑摩書房)，10月号，18-21，1989年。
245. 林知己夫：「国際化と日本人の意識」商工ジャーナル，11月号，9，1989年。
246. Hayashi, C. : Cultural link analysis for comparative research—a new approach to the exploration of structure in ways of thinking applied to cross-national analysis of general social attitude, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 21, 14-15, 1989.
247. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Language and attitude: a study in Arabic, English, and Japanese on the role of language in cross-cultural thinking, IN *Thinking Across Cultures: The Third International Conference on Thinking* (eds. Topping, D. M., Crowell, D. C. and Kobayashi, V. N.), Lawrence Erlbaum Associates, 147-161, 1989. (255. に収録)
248. Sasaki, M. and Suzuki, T. : New directions in the study of general social attitudes: trend and cross-national perspectives, *Behaviormetrika*, No. 26, 9-30, 1989. (255. に収録)
249. Suzuki, T. : Cultural link analysis: its application to social attitudes—a study among five nations, *Bulletin of the International Statistical Institute, Proc. of the 47th Session, Paris*, 343-379, 1989. (255. に収録)
250. 吉野諒三：「『Batchelder と Romney の正答のないテスト理論』の拡張とアンケート調査法への応用」統計数理，37巻2号，171-188，1989年。

1990年

251. 林知己夫：「世論調査による日本人の国民性」日本世論調査協会報, 64号, 3-9, 1990年.
252. 林知己夫：「日本人の価値観」道標(実務研究所), 3月号, 8-9, 1990年.
253. 林知己夫：「国民性」新教育学大事典, 第一法規, 239-240, 1990年.
254. Hayashi, C. : Statistical study of Japanese national character and its international comparison among five nations, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 23, 14-15, 1990.
255. Hayashi, C. and Suzuki, T. (eds.) : *Beyond Japanese Social Values — Trend and Cross-National Perspectives*, Inst. Statist. Math., 1990.

1991年

256. 林知己夫：「日本人の人間関係」人間関係論(三隅二不二 編著), 放送大学教育振興会, 177-192, 1991年. (222. の改訂版)
257. 林知己夫：「国民性をはかる」市場調査(輿論科学協会), 206-207 合併号, 2-32, 1991年.
258. 林知己夫：「国際社会とストレス」ストレスと人間科学, No. 6-1, 35-37, 1991年.
259. 林知己夫：「日本の若者」Phase(リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報), 91, 2-23, 1991年.
260. 林知己夫：生活価値観とグローバル・マーケティング, マーケティング教育研究所(R&D), 1991年.
261. 林知己夫：「豊さの中の日本—その歩みと国際社会の中で」進路ジャーナル, 11月号, 94-97, 1991年.
262. 林知己夫・鈴木達三・林文 他：「意識の国際比較方法論の研究：連鎖的比較方法の確立とその展開—1988年ハワイ・ホノルル市民調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 70, 1991年.
263. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—新しい統計的社会調査法の確立とその展開—」統計数理研究所 研究レポート, No. 71, 1991年.
264. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—5カ国調査共通ファイルコードブック—」統計数理研究所 研究レポート, No. 72, 1991年.
265. Hayashi, C., Suzuki, T. and Leghorn, R. Y. : *The Japanese and the Americans — Comparative and Time Series Surveys of the Institute of Statistical Mathematics*, Inst. Statist. Math., 1991.

266. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. (eds.) : *Japanese/American National Character Conference (Hoover Institution, Stanford University, March 17-18, 1990)*, Inst. Statist. Math., 1991.
267. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Arab students and English: the role of implicit culture, *Behaviormetrika*, No. 29, 23-44, 1991.
268. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : A comparative analysis of the Arab culture: Arabic, English, and Japanese languages and values, *Behaviormetrika*, No. 30, 35-53, 1991.
269. Nisihira, S. et Condominas, C. : *L'opinion des Japonais; Société-Travail-Famille à Travers les Sondages — Comparaison Internationale —*, Sudestasie, Paris, 1991.
270. 坂元慶行 : 「継続調査から何がわかるのだろうか—『中流意識』の分析をめぐる素朴な疑問—」 中央調査報, No. 400, 1-5, 1991 年.
271. Sakamoto, Y. : *Categorical Data Analysis by AIC*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, Holland, 1991.

1992 年

272. 統計数理研究所国民性調査委員会 : 第 5 日本人の国民性 戦後昭和期総集, 出光書店, 1992 年.
273. ブラジル日系人意識調査委員会 : ブラジル日系人の意識構造, サンパウロ人文科学研究所, 1992 年.
274. 林知己夫 : 「国際的にみた日本人の意識」 よろん (世論調査協会報), 70 号, 69-74, 1992 年.
275. 林知己夫 : 「日本人の考えの筋道を探る」 *Satya* (東洋大学), 7, 12-14, 1992 年.
276. 林知己夫 : 生活価値観の動向と市場創造の課題, マーケティング教育研究所 (R&D), 1992 年.
277. 林知己夫 : 「統計的方法による『日本人の国民性研究と意識の国際比較』方法論序説」 日本統計学会誌, 21 巻 3 号, 353-367, 1992 年.
278. 林知己夫 : 「公開講演会要旨: 日本人の国民性」 統計数理, 40 巻 2 号, 227-234, 1992 年.
279. Hayashi, C. : Belief systems and the Japanese way of thinking: interchronological and international perspectives, IN *Social, Educational and Clinical Psychology, Proc. of the 22nd International Congress of Applied Psychology, Vol. 3* (eds. Motoaki, H., Misumi, J. and Wilpert, B.), Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 3-34, 1992.

280. Hayashi, C. : Quantitative social research — belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations —, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 127-170, 1992.
281. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. : *Data Analysis for Comparative Social Research, International Perspectives*, Elsevier, North-Holland, 1992.
282. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Tahalil Mugarin Thagafa Al-Arabiye; Al-Lughat Wa Al-Queem Al Arabiye Wa Al-Ankelizidyeh Wa Al-Yabaniye (A comparative analysis of the Arab culture; Arabic, English and Japanese language and values), *Al Mustaqbal Al Arabi (The Arab Future)*, No. 16, 14-31, 1992.
283. 中村隆 : 「継続調査データによって社会の変化をとらえる — コウホート分析の方法 —」 *教育と情報*, No. 406, 46-47, 1992 年.
284. 中村隆 : 「コウホート分析におけるモデル選択 — ベイズ型コウホートモデル (XII)」 *日本行動計量学会第 20 回大会発表論文抄録集*, 20-21, 1992 年.
285. Nisihira, S. : Public opinion in Japan — changes and comparisons, *Japanstudien*, Band 4, 37-54, 1992.
286. 坂元慶行 : 「統計学の効用」 *教育と情報*, No. 416, 46-47, 1992 年.
287. 鈴木達三 : 「公開講演会要旨 : 国民性比較の方法論」 *統計数理*, 40 巻 2 号, 243-253, 1992 年.
288. 吉野諒三 : 「社会調査データの国際比較の枠組みのための “superculture”」 *統計数理*, 40 巻 1 号, 1-16, 1992 年.
289. Yoshino, R. : An extension of the test theory without answer key by Batchelder and Romney for social survey research, IN *Social, Educational and Clinical Psychology, Proc. of the 22nd International Congress of Applied Psychology, Vol. 3* (eds. Motoaki, H., Misumi, J. and Wilpert, B.), Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 108, 1992.
290. Yoshino, R. : Superculture as a frame of reference for cross-national comparisons of national characters, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 1, 23-41, 1992.
291. Yoshino, R. : The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 83-96, 1992.

1993 年

292. 林知己夫 : 行動計量学序説, 朝倉書店, 1993 年.
293. 林知己夫 : 「国民性, 県民性」 *現代学校教育大辞典*, ぎょうせい, 1993 年.
294. 林知己夫 : 「日本人の国民性」 *Phase (リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報)*, 93, 64-95, 1993 年.

295. 林知己夫：生活価値観と消費市場，マーケティング教育研究所 (R&D)，1993 年。
296. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究 — 5 カ国調査性別，年齢別集計 —」統計数理研究所 研究レポート，No. 73，1993 年。
297. 林知己夫・水野坦・鈴木達三・吉野諒三・林文・山本勝造・河合武夫・脇坂勝則・宮尾進・森幸一：「ブラジル日系人の意識調査 — 1991～1992 年調査 (改訂補遺版)」統計数理研究所 研究レポート，No. 74，1993 年。
298. 中村隆：「コホート分析におけるモデル選択の誤差 — ベイズ型コホートモデル (XIII) —」日本行動計量学会第 21 回大会発表論文抄録集，194-195，1993 年。
299. 鈴木達三：「“ものの考え方”を比較する — 国民性比較の方法論 —」教育と情報，No. 420，44-45，1993 年。
300. Suzuki, T. : Macro analysis by means of cohort analysis, *Behaviormetrika*, Vol. 20, No. 1, 77-90, 1993.

1994 年

301. 「国民性の研究 第 9 回全国調査 — 1993 年全国調査 —」統計数理研究所 研究レポート，No. 75，1994 年。
302. 「『家族が一番大切』42% — 文部省の国民性調査」朝日新聞，1994 年 7 月 17 日。
303. 「高まる家族志向、『金・名誉』より『のんき・趣味』 — 文部省国民性調査」産経新聞，1994 年 7 月 17 日。
304. 「衣食足りて強まる家族志向!? — 文部省の国民性調査」東京新聞，1994 年 7 月 17 日。
305. 「『社会に満足』初の 50% — 国民性調査」日本経済新聞，1994 年 7 月 17 日。
306. 「半数が『社会に満足』 — 国民性調査『緩やかな保守化』示す」毎日新聞，1994 年 7 月 17 日。
307. 「マイホーム派増え仕事志向には陰り — 国民性調査」読売新聞，1994 年 7 月 17 日。
308. 「性の制約薄れ『人生に挑戦』」日本経済新聞，1994 年 8 月 17 日。
309. 林知己夫：「消費者意識の流れを読む」観光文化 (交通公社)，Vol. 103, 2-7, 1994 年。
310. 林知己夫：「心の変化と不変が緩なす風景」産経新聞 (正論)，1994 年 3 月 15 日。
311. 林知己夫：「国民性と環太平洋構想」大平正芳記念財団レポート，11 号，11，1994 年。
312. 林知己夫：「国民性と環太平洋連帯構造」大平正芳政治的遺産，大平正芳記念財団，341-348，1994 年。
313. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点，変わる点，特殊な点，普遍な点」**ES-TRELA** (統計情報研究開発センター)，11 月号，28-32，1994 年。
314. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点，変わる点，特殊な点，普遍な点」**ES-TRELA** (統計情報研究開発センター)，12 月号，28-31，1994 年。

315. 林知己夫：「日本人の国民性」フォーリン・プレス・センター，1994年.
316. Hayashi, C. : The Japanese national character, *Foreign Press Center*, 1994.
317. 林文：「日本人の自然観—プリテスト調査から—」*森林野生動物研究会誌*, No. 20, 25-30, 1994年.
318. 林文：「日本人の自然観についての予備的考察」*NSS Journal*, No. 1, 159-174, 1994年.
319. Hayashi, F. : Comparative analysis of the Japanese and Germans: some topics on social values, *Behaviormetrika*, Vol. 21, No. 1, 61-78, 1994.
320. Murakami, M. : Estimate of the number of international children in Japan, based on trends in intermarriage, *Int. J. of Japanese Sociology*, No. 3, 29-43, 1994.
321. 中村隆：「国民性調査データのコウホート分析—ベイズ型コウホートモデル(XIV)」*日本行動計量学会第22回大会発表論文抄録集*, 144-145, 1994年.
322. 坂元慶行：「質的な事象の要因を探す」データを科学的に読む, *統計数理研究所創立50周年記念・日経NEEDS20周年記念講演*, 1-5, 1994年.
323. 坂元慶行：「価値や視線は私生活に集中—『日本人の国民性調査』から—」**FORUM** (日経産業消費研究所), No. 121, 2-3, 1994年.
324. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』の40年」*経済統計学会第38回全国総会報告要旨*, 33-34, 1994年.
325. 坂元慶行：「調査環境の変化と調査設計の一例」第62回日本統計学会講演報告集, 141-142, 1994年.
326. 鈴木達三：「国際比較調査の事例から『日本語の国際化』を考える」*日本語学*, 13巻13号, 43-59, 1994年.
327. 吉野諒三：「国民性意識の国際比較調査研究—統計数理研究所による社会調査研究の時間・空間的拡大—」*統計数理*, 42巻2号, 259-276, 1994年.

1995年

328. 林知己夫：「国民性からみた日本の将来」*日本教育*, No. 221 (1月号), 12-14, 1995年.
329. 林知己夫：「日本人の心の行方」*ライフスタイル展望* **21**, R&D, 1-39, 1995年.
330. 林知己夫：「日本人の柔かな思想」*市場調査 (輿論科学協会)*, 222号, 2-16, 1995年.
331. 林知己夫：*数字からみた日本人のこころ*, 徳間書店, 1995年.
332. 林知己夫：「日本の現象に浸透の中間的好み」*産経新聞 (正論)*, 1995年7月25日.
333. 林知己夫：「日本人の心を探る—日本人の『長』に対するイメージを通して—」*マーケティング教育研究所*, 6, 1, 1995年.
334. 林知己夫：「外交の基本は国民性の理解に」*産経新聞 (正論)*, 1995年10月21日.

335. 林知己夫：「調査に携わる者は」市場調査 (輿論科学協会), 225号, 1-19, 1995年.
336. 林知己夫・林文：「国民性の国際比較」統計数理, 43巻1号, 27-80, 1995年.
337. 林知己夫・鈴木達三 他 (データライブラリーに関する研究会)：データライブラリーのあり方に関する研究 (地域社会研究所 研究報告), 1995年.
338. Hayashi, C. : *Changing and Enduring Aspects of Japanese National Character*, Institute of Social Research, INSS (Institute of Nuclear Safety System), 1995.
339. Hayashi, F. and Suzuki, T. : Data analytic representation of characteristics of various breakdowns in cross-cultural survey, IN *Data Science and Its Application* (eds. Hayashi, C. et al.), Harcourt Brace Japan, 235-246, 1995.
340. 駒澤勉・土屋隆裕：「可視化による探索的数量化 III 類の分析法—『第9次日本人の国民性調査』データの順序構造に関する分析」統計数理, 43巻1号, 161-176, 1995年.
341. 前田忠彦：「日本人の満足感の構造とその規定因に関する因果モデル—共分散構造分析の『日本人の国民性調査』への適用—」統計数理, 43巻1号, 141-160, 1995年.
342. 前田忠彦：「満足感をめぐる日本人の意識構造」第63回日本統計学会講演報告集, 64-65, 1995年.
343. 前田忠彦：「満足感をめぐる意識の男女差について」日本行動計量学会第23回大会発表論文抄録集, 280-281, 1995年.
344. 中村隆：「交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いたコウホート分析—『日本人の国民性調査』データへの適用—」統計数理, 43巻1号, 99-119, 1995年.
345. 中村隆：「国民性調査データのコウホート分析—交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いて—」第63回日本統計学会講演報告集, 56-58, 1995年.
346. 中村隆：「戦後の日本人意識の変遷—国民性調査のコウホート分析—」日本人口学会第47回大会報告要旨集, 37-39, 1995年.
347. 西平重喜：「社会的価値観は変わるか」統計数理, 43巻1号, 81-97, 1995年.
348. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—40年間の意識動向—」統計数理, 43巻1号, 5-26, 1995年.
349. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その(1)」ESTRELA (統計情報研究開発センター), 10月号, 43-51, 1995年.
350. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その(2)」ESTRELA (統計情報研究開発センター), 11月号, 34-42, 1995年.
351. 坂元慶行：「日本人の国民性調査」データライブラリーのありかたに関する研究—その機能と特徴を中心として (データライブラリーに関する研究会), 地域社会研究所, 174-177, 1995年.

352. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』— 40年間の意識動向」第63回日本統計学会講演報告集, 47-49, 1995年.
353. Sakamoto, Y. : A study of Japanese national character: ninth nationwide survey, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 572, 1995.
354. 鈴木達三：「調査法に関する一考察— 質問の順や文脈, 前後関係による影響 (context effects) —」 **ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 16, 8-15, 1995年.
355. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— 総合報告書—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 76, 1995年.
356. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— 国民性の国際比較の為のマニュアル—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 77, 1995年.
357. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— イタリア調査の回答コードブック—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 78, 1995年.
358. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— イタリア調査の自由回答データ—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 79, 1995年.
359. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— オランダ調査の回答コードブック—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 80, 1995年.
360. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— オランダ調査の自由回答データ—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 81, 1995年.
361. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究— イタリア・オランダ調査の共通ファイルコードブック—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 82, 1995年.
362. 土屋隆裕：「項目分類のための数量化法」 行動計量学, 22巻2号, 95-109, 1995年.
363. 土屋隆裕：「複数データセット間の違いを探る等質性分析— 『日本人の国民性調査』 データへの適用—」 統計数理, 43巻1号, 121-140, 1995年.
364. 吉野諒三・林知己夫・鈴木達三：「国民性の国際比較調査の為の質問文の作成— 翻訳のプロセスを中心として—」 行動計量学, 22巻1号, 62-79, 1995年.
365. Yoshino, R. and Khor, D. : Complementary scaling for cross-national analyses of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 22, No. 2, 155-184, 1995.

1996年

366. 林知己夫：日本人の心とガン告知 (日本癌病態治療学会報告書), 1996年.
367. 林知己夫：日本らしさの構造 — ところと文化をはかる, 東洋経済新報社, 1996年.
368. 林知己夫：「日本特殊論は成り立つか」 コンセンサス, 2月号, 6-7, 1996年.
369. 林知己夫：「数字からみた日本人の心」 住友マネジメントレビュー, 2月号, 30-31, 1996年.
370. 林知己夫：「統計で探る日本人のころ」 郵政, 3月号, 6-9, 1996年.
371. 林知己夫：「日本人の心とガン告知」 産経新聞 (正論), 1996年2月29日.
372. 林知己夫：「日本人の国民性 — 変わるものと変わらないもの, 特殊なものや普通のもの —」 交詢雑誌, No. 387, 12-20, 1996年.
373. 林知己夫：「トップのリーダーシップについて思うこと」 運輸と経済, 9月号, 2-3, 1996年.
374. 林知己夫・加留部清・北田淳子・北條眞：「日本における『長』のイメージ」 **INSS Journal**, No. 3, 90-132, 1996年.
375. Hayashi, C. : Cultural link analysis (CLA) for qualitative comparative social research and its applications, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 202-229, 1996.
376. 中村隆：「コウホート分析における識別問題再考 — ベイズ型コウホートモデル (XV) —」 日本行動計量学会第24回大会発表論文抄録集, 208-209, 1996年.
377. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in religious commitment in the United States, Holland, and Japan, IN *Comparing Nations and Cultures* (eds. Inkeles, A. and Sasaki, M.), Prentice-Hall, 586-601, 1996.
378. 鈴木達三：「国際比較調査における標本計画と調査実施に関する一考察」 行動計量学, 23巻1号, 46-62, 1996年.
379. 鈴木達三：「サンプリング, 国際比較, 分析・報告 (の一部)」 世論調査事典 (NHK放送文化研究所編), 大空社, 1996年.
380. Suzuki, T. : Macro analysis by means of cohort analysis, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 53-70, 1996.
381. Suzuki, T. and Sasaki, M. : The use and role of the data library for improving survey methods, *Paper presented at the WAPOR Regional Conference in Tokyo*, 1996.
382. Yoshino, R. : Degree of conformity for the cross-national comparative study of national character, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 182-206, 1996.

1997年

383. 林知己夫：「長（リーダー）の命運と社会の命運」市場調査（輿論科学協会），229号，2-19，1997年。
384. 林知己夫：日本人の意識の特色と変化・不変化，第87回尾張講習会（名古屋東別院），1997年。
385. 林知己夫：「講演：社会調査と数量化—第7回社会と情報に関するシンポジウム」社会情報，Vol. 7, No. 1, 7-35, 1997年。
386. 林知己夫・鈴木達三：社会調査と数量化（増補版）—国際比較におけるデータの科学—，岩波書店，1997年。
387. Hayashi, C. and Kuroda, Y. : *Japanese Culture in Comparative Perspective*, Praeger, 1997.
388. 林文：「国民意識の動向」過渡期としての1950年代（中村隆英・宮崎正康編），東京大学出版会，215-238，1997年。
389. 前田忠彦：「生活満足感と階層帰属意識の関連要因」日本行動計量学会第25回大会発表論文抄録集，254-255，1997年。

1998年

390. Studies of the U.S. mainland Nikkei character underway, **North American Post**, 1998.08.07.
391. Study on Japanese behavior and attitude patterns in JAs, **Hokubei Mainichi**, 1998.10.14.
392. Studies of Nikkei character underway, **Nikkei West**, 1998.10.15.
393. 統計数理研究所国民性国際調査委員会：国民性七か国比較，出光書店，1998年。
394. 林知己夫：「社会調査と数量化（文献紹介）」社会学文献事典，弘文堂，1998年。
395. 林知己夫：「『日本的なるもの』の行方を探る（対談）」炸，No. 50（12月号），6-7，1998年。
396. Hayashi, C. : What is data science?—Fundamental concepts and a heuristic example, IN *Data Science, Classification and Related Methods* (eds. Hayashi, C. et al.), Springer-Verlag, 40-51, 1998.
397. Hayashi, C. : The quantitative study of national character, interchronological and international perspectives, *Int. J. of Comparative Sociology*, Vol. 39, No. 1, 91-114, 1998. (後に Sasaki, M. (ed.), *Values and Attitude Across Nations and Time*, Brill, pp.91-114 に再録)
398. 前田忠彦：「階層帰属意識と生活満足感」現代日本の階層意識（間々田孝夫編，1995年SSM調査シリーズ6），1995年SSM調査研究会，89-112，1998年。

399. 前田忠彦：「2種類の満足感の相互関係」共分散構造分析 [事例編] — 構造方程式モデリング — (豊田秀樹 編著), 北大路書房, 1998年.
400. 前田忠彦：「社会調査における満足感関連項目の因果分析」日本行動計量学会第26回大会発表論文抄録集, 13-16, 1998年.
401. 中村隆：「調査データの標本誤差評価とブートストラップ法 — 層別確率比例復元2段無作為抽出法の場合 —」 **ESTRELA** (統計情報研究開発センター), 3月号, 11-19, 1998年.
402. 中村隆：「1995年SSM調査の標本設計と標本精度 — 標本抽出法を考慮した分析に向けて —」社会階層・移動の基礎分析と国際比較 (石田浩 編, 1995年SSM調査シリーズ1), 1995年SSM調査研究会, 77-100, 1998年.
403. 鈴木達三：「イメージの中の日本」国際社会と日本語, 国立国語研究所, 23-24, 1998年.
404. 鈴木達三・高橋宏一：標本調査法, 朝倉書店, 1998年.
405. 柳井晴夫・前田忠彦：「偏多重対応分析の理論とその応用」第66回日本統計学会講演報告集, 378-379, 1998年.

1999年

406. 「日本人, 全体に『自信喪失』— 文部省が国民性調査」朝日新聞, 1999年4月28日.
407. 「日本の経済力『よい』5年で47ポイント減の32% — 国民性調査」産経新聞, 1999年4月28日.
408. 「不況の影 5年の落差 自信喪失 “症候群” — 国民性調査」東京新聞, 1999年4月28日.
409. 「現状『不満』将来『悲観』— 日本人の国民性」日本経済新聞, 1999年4月28日.
410. 「『社会に満足』半減 — 日本人の国民性調査」毎日新聞, 1999年4月28日.
411. 「日本広がる悲観論 — 文部省国民性調査」読売新聞, 1999年4月28日.
412. Survey: Nothing to cheer about, **Asahi Evening News**, 1999.4.28.
413. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較 — 計量的文明論構築へに向けて —」統計数理研究所ニュース, No. 66, 3, 1999年.
414. 林知己夫：「調査とデータの科学」国際社会と日本語, 国立国語研究所, 125-138, 1999年.
415. 林知己夫：「平成11年度会長訓話『現在の社会と学問を超えて』」市場調査 (輿論科学協会), 240号, 4-23, 1999年.
416. 林知己夫：「国際比較調査の実際 (談)」新情報, Vol. 78, 5-8, 1999年.
417. 林文：「意識調査からみた日本人の自然観 — 自然観の意識構造と若者の意識 —」東洋英和女学院大学人文・社会科学論集, 15号, 31-51, 1999年.

418. 前田忠彦：「満足感関連項目に関する因子構造の国際比較」日本行動計量学会第27回大会発表論文抄録集, 319-322, 1999年.
419. 中村隆：「年齢・時代・世代の違いを探る — コウホート分析の方法 —」こうしょう (高翔), No. 32, 15-18, 1999年.
420. 中村隆：「公開講演会要旨：国民性と変化 — 年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか —」統計数理研究所ニュース, No. 66, 2, 1999年.
421. 中村隆・土屋隆裕・前田忠彦・坂元慶行：「国民性の研究 第10次全国調査 — 1998年全国調査 —」統計数理研究所 研究リポート, No. 83, 1999年.
422. Riffault, H. : 「Letter to Japanese colleagues」よろん, 第83号, 51-52, 1999年.
423. 坂元慶行：「日本人の国民性調査 — 20世紀後半期の意識動向」文部時報, No. 1474, 52-55, 1999年.
424. 坂元慶行：「私見『日本人の国民性調査』」よろん, 84号, 5-14, 1999年.
425. 坂元慶行：「公開講演会要旨：統計的日本人研究 — 『日本人の国民性調査』の半世紀」統計数理研究所ニュース, No. 66, 2, 1999年.
426. Sakamoto, Y. : Statistical research of the Japanese national character: general trends in attitudes over the latter half of the twentieth century, *WAPOR 52nd Conference Papers (Paris, France)*, No. 12, 1999. (452. に再録)

2000年

427. 「『生まれ変わっても、また女』の時代 — 文部省研究所の国民性調査」朝日新聞, 2000年8月25日.
428. 林知己夫：「時系列からみた日本人の国民性 — 創立54周年記念特別講演『21世紀のキーワードと国民性』より」市場調査 (輿論科学協会), No. 242, 4-23, 2000年.
429. 林知己夫：「これからの国民性研究 — 人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ —」統計数理, 48巻1号, 33-66, 2000年.
430. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較 — 計量的文明論の構築へむけて —」統計数理, 48巻1号, 259, 2000年.
431. 林知己夫：「国民性の国際比較とデータマイニング — データの質の評価とデータ解析 —」日本分類学会研究報告予稿集, 37, 2000.
432. 林知己夫・山岡和枝：「日本人と日系人の比較」よろん, 85号, 7-11, 2000年.
433. Hayashi, C. : Questionnaire construction, data collection and data analysis: an approach by the idea of data science, *Proc. of the International Conference on Measurement and Multivariate Analysis*, 7-9, 2000.
434. Hayashi, C. : Evaluation of data quality and data analysis, IN *Data Analysis, Classification and Related Methods* (eds. Kiers, H.A.L., Rasson, J.-P., Groener, R.J.R. and Schader, M.), Springer Verlag, 335-310, 2000.

435. Hayashi, C. : Design and analysis of data in social surveys, *Bulletin de Methodologie Sociologique*, No. 68, 50, 2000.
436. Hayashi, C. : The enduring and changing patterns of opinion — Japanese national character surveys — social science methodology in the new millennium, *Proc. of the Fifth International Conference on Logic and Methodology*, 276, 2000.
437. 林文 : 「野生動物に対する日本人の意識」 教育と情報, No. 513, 24-25, 2000 年.
438. 黒田安昌 : 「変化してゆく日本文化: その要素と原因」 統計数理, 48 巻 1 号, 77-92, 2000 年.
439. 前田忠彦 : 「国民性調査における調査精度の経時的比較」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 195-198, 2000 年.
440. 前田忠彦・中村隆 : 「近年 5 回の国民性調査の標本設計と標本精度について」 統計数理, 48 巻 1 号, 147-178, 2000 年.
441. Maeda, T. : Analyses of satisfaction related items in the Japanese national character survey by structural equation modeling, *Proc. of the International Conference on Measurement and Multivariate Analysis*, 152-155, 2000.
442. 中村隆 : 「質問項目のコウホート分析 — 多項ロジット・コウホートモデル —」 統計数理, 48 巻 1 号, 93-119, 2000 年.
443. 中村隆 : 「公開講演会要旨: 国民性と変化 — 年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか —」 統計数理, 48 巻 1 号, 255-258, 2000 年.
444. 中村隆 : 「質問項目のコウホート分析 — ベイズ型コウホートモデル (XVI) —」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 191-192, 2000 年.
445. 西平重喜 : 「国民性調査の周辺」 統計数理, 48 巻 1 号, 67-76, 2000 年.
446. 西平重喜 : 「女は明るく、男はやさしく — 世界青年意識調査から」 新情報, Vol. 83, 7-9, 2000 年.
447. 坂元慶行 : 「日本人の考えはどう変わったか — 『日本人の国民性調査』 の半世紀 —」 統計数理, 48 巻 1 号, 3-32, 2000 年.
448. 坂元慶行 : 「公開講演会要旨: 統計的日本人研究 — 『日本人の国民性調査』 の半世紀 —」 統計数理, 48 巻 1 号, 253, 2000 年.
449. 坂元慶行 : 「日本人の考えはどう変わったか — 『日本人の国民性調査』 の半世紀」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 189-190, 2000 年.
450. 坂元慶行 : 「男と女」 統計数理研究所ニュース, No. 68, 14, 2000 年.
451. 坂元慶行 : 「調査方法と調査結果」 統計数理研究所ニュース, No. 71, 7, 2000 年.
452. Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T., Maeda, T. and Fouse, D. B. : A Study of the Japanese National Character: The Tenth Nationwide Survey (1998), *ISM Research Report*, General Series No. 85, , 2000. (426. を付録として再録)

453. 土屋隆裕：「UNISCAL による『日本人の国民性調査』データの分析」統計数理, 48 巻 1 号, 121-145, 2000 年.
454. 吉野諒三 他：「国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」統計数理研究所 研究レポート, No. 84, 2000 年.
455. 鄭躍軍：「七カ国における自然観・環境観の比較分析」日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 273-274, 2000 年.
456. Zheng, Y. and Yoshino, R. : A cross-national analysis of the natural and environmental consciousness based on the survey data in seven countries, *Proc. of the 7th Japan-China Symposium on Statistics*, 231-234, 2000.

2001 年

457. 「頭痛・イライラ・不眠でもぐっと我慢の日本人—健康観を国際比較 文科省研究所」朝日新聞, 2001 年 7 月 18 日.
458. 林知己夫：日本人の国民性研究, 南窓社, 2001 年.
459. 林知己夫：データの科学, 朝倉書店, 2001 年.
460. 林知己夫：「国民性を土台に考える—変えてはいけないものと変えてよいもの—」医療改革本当のところはどうなんだ, 日医総研, 20-29 & 30-47, 2001 年.
461. 林知己夫：「『日本らしさ』の構造」佛教大学総合研究所報, 7 月号, 21-23, 2001 年.
462. 林知己夫：「柳は緑、花は紅」市場調査 (輿論科学協会), 248 号, 4-19, 2001 年.
463. 林文：「自然と人間の関係についての日本人の意識」教育と情報, No. 516, 8-9, 2001 年.
464. 林文：「面接調査の調査不能による回収率の偏りの検討—WHO『DV と女性の健康調査』日本調査 (横浜市) を例として—」中央調査報, No. 530, 1-4, 2001 年.
465. 前田忠彦：「二段抽出におけるデザイン効果の検証」日本行動計量学会第 29 回大会発表論文抄録集, 354-357, 2001 年.
466. 前田忠彦：「二段抽出因子分析モデルにおけるデザイン効果の検討」科研費研究集会「因子分析と共分散構造分析に関する諸問題」講演報告集, 45-63, 2001 年.
467. 前田忠彦・土屋隆裕：「日本人の国民性 2000 年度吟味調査報告～電話・郵送・面接調査の比較～」統計数理研究所 研究レポート, No. 87, 2001 年.
468. Maeda, T. and Tsuchiya, T. : Comparison among telephone, mail and face-to-face interviewing surveys, *IMPS-2001 International Meeting of the Psychometric Society Abstracts*, 177, 2001.
469. 中村隆：「コウホート分析から見た調査の継続性—ベイズ型コウホートモデル (XVII)—」日本行動計量学会第 29 回大会発表論文抄録集, 372-373, 2001 年.

470. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか①—1970年代までの変化」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 88, 83-86, 2001年.
471. 坂元慶行：「質的データのデータマイニング—最適なクロス表の自動探索CATDAP ①」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 91, 82-85, 2001年.
472. 坂元慶行：「質的データのデータマイニング—最適なクロス表の自動探索CATDAP ②」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 92, 84-87, 2001年.
473. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか②—1970年代以降の変化を中心に」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 93, 81-84, 2001年.
474. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—社会調査研究のある最前線」理論と方法, 16巻1号, 75-88, 2001年.
475. 坂元慶行・土屋隆裕・中村隆・桂康一：あなたは旧人類？ 新人類？ (日経2000年夢のプロジェクト用ソフト), 2001年7月.
476. Tsuchiya, T. and Maeda, T. : On the characteristics of two telephone survey methods, *IMPS-2001 International Meeting of the Psychometric Society Abstracts*, 179, 2001.
477. 吉野諒三：心を測る—個と集団の意識の科学, 朝倉書店, 2001年.
478. 吉野諒三 (研究代表者)：国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析 (平成10年度～平成12年度科学研究費補助金 (基盤研究A(2)) 研究成果報告書), 2001年. (454.を改訂したもの)
479. 吉野諒三 他：「文化の伝播変容の統計科学的研究—ハワイ日系人・非日系人国際比較調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 86, 2001年.
480. 鄭躍軍：「科学・技術に対する意識の国際比較」科学と社会 **2000** (総合研究大学院大学 編), 総合研究大学院大学, 121-141, 2001年.
481. 鄭躍軍・吉野諒三：「科学・技術に対する信—日米欧の7カ国データに見られる信頼感のあり方—」, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 813, 2001年.
482. 鄭躍軍・吉野諒三・山岡和枝・林文：「日米欧における科学文明観の比較分析」日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集, 368-371, 2001年.
483. Zheng, Y. and Yoshino, R. : Cross-national comparison on consciousness of science, nature and environment, *Proc. of 35th International Institute of Sociology Congress in Krakow*, 171, 2001.

2002年

484. 安部光弘・馬場康維：「強制分類による生活満足度に関する量的アプローチ」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 6-7, 2002年.

485. Abe, M. and Baba, Y. : An application of forced classification to analysis of the survey of the Japanese national character, *Proc. of the 4th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing*, 249-252, 2002.
486. Fugita, S. S., Kashima, T. and Miyamoto, S. F. : Methodology of comparative studies of national character: west coast survey, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 143-148, 2002.
487. Fugita, S. S., Miyamoto, S. F. and Kashima, T. : Interpersonal style and Japanese American organizational involvement, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 185-202, 2002.
488. 林知己夫 : 「世論調査とデータの科学」よろん, 89号, 36-39, 2002年.
489. 林知己夫 編著 : 社会調査ハンドブック, 朝倉書店, 2002年.
490. 林知己夫・櫻庭雅文 : 数字が明かす日本人の潜在力 — 50年間の国民性調査データが証明した真実, 講談社, 2002年.
491. Hayashi, C. : Questionnaire construction, data collection and data analysis: an approach by the idea of data science, IN *Measurement and Multivariate Analysis* (eds. Nishisato, S. *et al.*), Springer-Verlag, 13-24, 2002.
492. Hayashi, C. : Design and analysis of data in sample surveys on Japanese national character, *Comparative Sociology*, Vol. 1, No. 1, 93-114, 2002.
493. 林文・佐々木正道 : 「日米の親子調査 — 親子間における考え方の継承について —」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 342-343, 2002年.
494. 林文・山岡和枝 : 調査の実際 — 不完全なデータから何を讀みとるか, 朝倉書店, 2002年.
495. Kashima, T., Miyamoto, S. F. and Fugita, S. S. : Religious attitudes and beliefs among Japanese Americans: King county, Washington and Santa Clara county, California, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 203-229, 2002.
496. 前田忠彦 : 「郵送調査法の特徴に関する研究 : 一つの事例報告」第33回数理社会学会大会研究報告要旨集, 10-13, 2002年.
497. 前田忠彦 : 「郵送調査法の特徴に関する研究 — 2000年度1都3県有権者調査報告 —」統計数理研究所 研究教育活動報告, No. 14, 2002年.
498. Miyamoto, S. F., Fugita, S. S. and Kashima, T. : A theory of interpersonal relations for cross cultural studies, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 149-184, 2002.
499. Nakamura, T. : Cohort analysis of data obtained using a multiple choice question, IN *Measurement and Multivariate Analysis* (eds. Nishisato, S. *et al.*), Springer-Verlag, 241-248, 2002.

500. 坂元慶行：「日本人の国民性調査」社会調査ハンドブック (林知己夫 編), 朝倉書店, 611-615, 2002 年.
501. 山岡和枝・鄭躍軍・吉野諒三：「健康観と信頼感」日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集, 350-351, 2002 年.
502. 吉野諒三：「『信の崩壊』—世論調査方法論の今日の課題—」行動計量学, 29 巻 1 号, 45-54, 2002 年.
503. 吉野諒三：「シンポジウム『集団と個』に関するデータ解析の問題点—『世論調査』及び『東アジア価値観』の方法論研究の視点から—」日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集, 72-75, 2002 年.
504. 吉野諒三 (研究代表者)：文化の伝搬変容の統計科学的研究—ハワイ日系人・非日系人国際比較調査— (平成 11 年度～平成 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究 A(2)) 研究成果報告書), 2002 年. (479. を改訂したもの)
505. Yoshino, R. : A time to trust—a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character—, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 231-260, 2002.
506. Yoshino, R. and Hayashi, C. : Editorial, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 121-124, 2002.
507. Yoshino, R. and Hayashi, C. : An overview of cultural link analysis of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 125-142, 2002.
508. 鄭躍軍：「中国・日本における国民の環境意識に関する研究」環境経済・政策学会 2002 年大会報告要旨集, 72-73, 2002 年.
509. 鄭躍軍：「環境意識形成の要因分析—中・日の環境意識比較を例として—」環境経済・政策学会 2003 年大会報告要旨集, 258-259, 2002 年.
510. 鄭躍軍・吉野諒三：「標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出—北京市・上海市における意識調査—」日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集, 346-349, 2002 年.

2003 年

511. 「北京・上海市民 8 割が失業不安—日中共同意識調査」朝日新聞, 2003 年 7 月 9 日.
512. 林文・佐々木正道：「日本の国際化に関する意識の世代間の比較」日本行動計量学会第 31 回大会発表論文抄録集, 248-249, 2003 年.
513. インケルス, アレックス (吉野諒三訳)：国民性論—精神社会的展望, 出光書店, 2003 年.

514. Kuroda, Y. : The rainbow model of American ethnic groups, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 39-62, 2003.
515. 前田忠彦 : 「伝統-近代をめぐる意識変遷の再分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 304-305, 2003年.
516. 三好美浩・吉野諒三 : 「自由回答に見る職業意識の分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 252-253, 2003年.
517. Nakamura, T. : A Bayesian logit age-period-cohort model, *Science of Modeling — The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC)* (eds. Ishiguro, M., Higuchi, T. and Iba, Y.), *ISM Report on Research and Education*, 61-70, 2003.
518. Sakamoto, Y. : CATDAP: Categorical data analysis program for data mining, *Science of Modeling — The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC)* (eds. Ishiguro, M., Higuchi, T. and Iba, Y.), *ISM Report on Research and Education*, 271-281, 2003.
519. 土屋隆裕・前田忠彦 : 「二種類の電話調査法の比較実験調査」行動計量学, Vol. 30, 93-109, 2003年.
520. 山岡和枝・吉野諒三 : 「健康感と関連要因：東アジア価値観調査結果の分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 250-251, 2003年.
521. Yamaoka, K. and Hayashi, C. : Cultural link analysis of Japanese Americans, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 7-20, 2003.
522. 吉野諒三 : 「(付) 日本における国民性研究」国民性論 — 精神社会的展望 (インケルス著／吉野諒三訳), 朝倉書店, 447-470, 2003年.
523. 吉野諒三 : 「東アジア諸国の人々の日本語観」**ECO-FORUM** ((財) 統計研究会), Vol. 22, No. 1, 42-51, 2003年.
524. 吉野諒三 : 「国際比較方法論の確立を目指して」*よろん*, 92号, 28-35, 2003年.
525. 吉野諒三 : 「富国信頼 — 東アジアの人々の『信頼感』の分析 —」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 254-257, 2003年.
526. 吉野諒三・鄭躍軍・朴承根 : 「東アジア諸国の人々の日本語観」行動計量学, 30巻1号, 31-52, 2003年.
527. Yoshino, R. and Hayashi, C. : Editorial, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 5-6, 2003.
528. 鄭躍軍・村上征勝・吉野諒三・馬場康維・前田忠彦・袁衛・趙彦雲・王棋延 : 「日本・中国の国民性比較のための基礎研究 — 中国北京市における意識調査 —」統計数理研究所 研究リポート, No. 89, 2003年.

529. 鄭躍軍・村上征勝・吉野諒三・前田忠彦・周国模・唐和平：「日本・中国の国民性比較の基礎研究(2) — 中国上海市における意識調査 —」統計数理研究所 研究リポート, No. 90, 2003年.
530. 鄭躍軍・吉野諒三：「東アジア価値観比較調査に向けて — 中国における意識調査のための標本抽出の実践的検討」よろん, 91号, 16-21, 2003年.
531. 鄭躍軍・吉野諒三：「中国人・日本人の国民性の特徴(I) — 不安感・満足感、家庭・家族間と伝統的な価値観を中心に —」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 244-247, 2003年.
532. Zheng, Y. and Yoshino, R. : Diversity patterns of attitudes toward nature and environment in Japan, USA, and European nations, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 21-37, 2003.

2004年

533. 「『家族が一番』45年前の4倍 日本人の国民性調査」産経新聞, 2004年4月29日.
534. 「生活水準10年間で『悪化』膨らみ39% 『改善』わずか20% 国民性調査2003年」日本経済新聞, 2004年4月29日.
535. 「『女の方が楽しみ多い』初の『多数派』に 日本人の国民性調査」毎日新聞, 2004年4月29日.
536. 「女の方が楽しみ多い 初めて逆転 国民性調査」読売新聞, 2004年4月29日.
537. 林文：「宗教感情の国際比較」日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集, 48-49, 2004年.
538. 林文：「日本人の自然観と素朴な感情」学際, No. 12, 32-38, 2004年.
539. 林文・吉野諒三・山岡和枝：「素朴な宗教感情に関する一考察 — 東アジア価値観調査から —」日本分類学会第21回研究報告予稿集, 6-12, 2004年.
540. 星野崇宏・吉野諒三：「信頼感と価値観の関係 — 個票データ解析によるソーシャルキャピタルの国際比較 —」日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集, 48-49, 2004年.
541. クロダ・ヤスマサ：「『羅生門と山桜』— 日本文化の神髄」学際, No. 12, 23-31, 2004年.
542. 松本渉・吉野諒三：「組織への信頼と所属についての国際比較 — 東アジアのシビルソサエティに注目して —」日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集, 44-47, 2004年.
543. Nakamura, T. : A Bayesian logit age-period-cohort model, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 922, 2004.
544. 坂元慶行：「調査紹介 第11次日本人の国民性調査」よろん, 94号, 44-48, 2004年.

545. 坂元慶行・中村隆・前田忠彦・土屋隆裕：「国民性の研究 第11次全国調査—2003年全国調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 92, 2004年.
546. 鈴木達三：「『一番大切なもの』の調査～国際比較調査からの二、三の話題」学際, No. 12, 13-22, 2004年.
547. 土屋隆裕・前田忠彦・坂元慶行・中村隆：「調査モード間の比較研究～2002年度・2003年度調査～」統計数理研究所 研究レポート, No. 93, 2004年.
548. 吉野諒三：「『国民性』の調査～計量的文明論に向けて～」学際, No. 12, 6-12, 2004年.
549. 吉野諒三：「『科学的』世論調査の価値」市場調査, No. 259, 4-13, 2004年.
550. 吉野諒三：「On the trust of nations: cross-national and longitudinal survey on national character」日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集, 38-41, 2004年.
551. Yoshino, R. : On the trust of nations: cross-national and longitudinal survey on national character, *Proc. of 36th World Congress of International Institute of Sociology Congress in Beijing*, 233-234, 2004.
552. Yoshino, R. : A cross-national study on trust—from a viewpoint of cross-national and longitudinal survey, *Proc. of 36th World Congress of International Institute of Sociology Congress in Beijing*, 396-397, 2004.
553. 鄭躍軍・吉野諒三：「中国人と日本人の国民性の特徴 (II) —リーダーの資質、愛国心、政治意識を中心に—」日本行動計量学会第32回大会発表論文抄録集, 52-55, 2004年.
554. 鄭躍軍・吉野諒三：「意識調査データから見た中国人・日本人の全体像」よろん, 93号, 4-10, 2004年.
555. Zheng, Y. : A vision for international comparative survey research, *Proc. of the Use of Cross-national Comparative Surveys*, Vol. 3, 123-138, 2004.
556. Zheng, Y. : Cross-cultural comparative studies on Chinese and Japanese national characters, *Proc. of 36th World Congress of International Institute of Sociology Congress in Beijing*, 394-395, 2004.
557. Zheng, Y. : Cross-national comparison on national characters of Chinese, Japanese and Korean based on survey data, *Proc. of 8th China-Japan Symposium on Statistics*, 394-399, 2004.

2005年

558. 「『生まれ変わっても女に』7割, 日本最高, (5カ国・地域での意識調査)」朝日新聞, 2005年5月19日夕刊.

559. 前田忠彦：「郵送調査法の特徴に関する一研究—面接調査法との比較を中心として—」統計数理, 53 巻 1 号, 57-81, 2005 年.
560. 松本渉：「東アジアにおける組織に対する信頼感—共分散構造分析を用いたソーシャルキャピタルの国際比較—」国際開発学会第 6 回春季大会報告論文集, 41-44, 2005 年.
561. 松本渉：「シンガポールは東アジアなのか?—価値観データからの検討—」日本行動計量学会第 33 回大会発表論文抄録集, 82-85, 2005 年.
562. 三好美浩・吉野諒三：「東アジアの職業観—日本・中国・台湾・韓国の比較—」行動計量学, 32 巻 1 号, 173-189, 2005 年.
563. 中村隆：「コウホート分析における交互作用効果モデル再考」統計数理, 53 巻 1 号, 103-132, 2005 年.
564. 中村隆：「統計的日本人研究の最近の話題から (6) コウホート分析における交互作用効果モデル再考—“一番大切なのは家族”のさらなる分析結果—」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 141, 50-53, 2005 年.
565. 中村隆：「交互作用項のあるコウホート・モデル (3)—ベイズ型コウホートモデル (XIX)—」日本行動計量学会第 33 回大会発表論文抄録集, 102-103, 2005 年.
566. 坂元慶行：「長期継続的な社会調査の最前線 調査と理論との往還」<社会>への知/現代社会学の理論と方法 経験知の現在 (盛山和夫・土場学・野宮大志郎・織田輝哉 編著), 勁草書房, 29-47, 2005 年.
567. 坂元慶行：「日本人の国民性 50 年の軌跡—『日本人の国民性調査』から—」統計数理, 53 巻 1 号, 3-33, 2005 年.
568. 坂元慶行：「統計的日本人研究の最近の話題から (1) 日本人の国民性 50 年の軌跡 ①—高まる家族志向」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 136, 54-57, 2005 年.
569. 坂元慶行：「統計的日本人研究の最近の話題から (2) 日本人の国民性 50 年の軌跡 ②—ゆらぐ人間関係観」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 137, 62-65, 2005 年.
570. 坂元慶行：「統計的日本人研究の最近の話題から (3) 日本人の国民性 50 年の軌跡 ③—政治意識とやまとだまし」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 138, 52-55, 2005 年.
571. 坂元慶行：「統計的日本人研究の最近の話題から (4) 日本人の国民性 50 年の軌跡 ④—外国や国に対する感覚」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 139, 46-49, 2005 年.

572. 坂元慶行：「統計的日本人研究の最近の話題から (5) 日本人の国民性 50 年の軌跡 ⑤—最近の意識調査の問題点と意識動向」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 140, 48-51, 2005 年.
573. 土屋隆裕：「調査不能者の特性に関する一考察—『日本人の国民性第 11 次全国調査』への協力理由 に関する事後調査から—」*統計数理*, 53 巻 1 号, 35-56, 2005 年.
574. 土屋隆裕：「電話調査における調査所要時間と回答傾向について」*統計数理*, 53 巻 1 号, 83-101, 2005 年.
575. Tsuchiya, T. : Domain estimators for the item count technique, *Survey Methodology*, Vol. 31, No. 1, 41-51, 2005.
576. 吉野諒三：「印東太郎 著『The Global Structure of Visual Space』」*行動計量学*, 32 巻 1 号, 70-73, 2005 年.
577. 吉野諒三：「東アジア価値観調査—文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量文明論の構築へ向けて—」*行動計量学*, 32 巻 1 号, 133-146, 2005 年.
578. 吉野諒三：「富国信頼の時代へ—東アジア価値観国際比較調査における信頼感の統計科学的解析—」*行動計量学*, 32 巻 1 号, 147-160, 2005 年.
579. 吉野諒三編：東アジア価値観国際比較調査—2004 年度日本 A 調査報告書— (統計数理研究所), 2005 年.
580. 吉野諒三編：東アジア価値観国際比較調査—2004 年度日本 B 調査報告書— (統計数理研究所), 2005 年.
581. Yoshino, R. : Trust and national character — Japanese sense of trust, cross-national and longitudinal surveys —, *Comparative Sociology*, Vol. 4, No. 3-4, 417-450, 2005.
582. 鄭躍軍：「伝統価値観の社会的変遷—東アジア諸国の国際比較—」**F-GENS** ジャーナル, Vol. 3, No. 1, 314-325, 2005 年.
583. 鄭躍軍：「東アジア諸国の伝統的価値観の変遷に関する計量分析」*行動計量学*, 32 巻 2 号, 161-172, 2005 年.
584. 鄭躍軍：「中国人・日本人の国民性の特徴 (III) —生活領域・人生観を中心に—」*日本行動計量学会第 33 回大会発表論文抄録集*, 74-77, 2005 年.
585. Zheng, Y. : Transition of confucian philosophy: Cross-national comparison on East Asian ethics, *Proc. of 37th International Institute of Sociology Congress*, 383-384, 2005.

2006 年

586. 前田忠彦・大隅昇：「自記式調査における実査方式間の比較研究—ウェブ調査の特徴をしらべるための実験的検討—」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 143, 12-19, 2006 年.

587. 松本渉：「東アジアにおける組織に対する信頼感—国際比較のための信頼感の分析—」行動計量学, 33 巻 1 号, 25-40, 2006 年.
588. 松本渉：「多言語・多民族国家としてのシンガポールの分析—東アジア価値観国際比較調査における信頼感を中心に—」日本行動計量学会第 34 回大会発表論文抄録集, 248-251, 2006 年.
589. 松本渉：「シンガポール調査に見る信頼比較の可能性と課題—東アジア価値観国際比較調査から—」第 17 回国際開発学会全国大会報告論文集, 315-318, 2006 年.
590. 中村隆：「ベイズ型コウホートモデルによる分析」総研大ジャーナル, 第 9 号, 42-43, 2006 年.
591. 坂元慶行：「ぶらり日本語 中間的な回答」日本語学, Vol. 25, 4-5, 2006 年.
592. 坂元慶行：「数字で見る日本人の心—『国民性調査』50 年の軌跡」総研大ジャーナル, 第 9 号, 40-45, 2006 年.
593. 土屋隆裕：「『調査への指向性』変数を用いた調査不能バイアス補正の試み—『日本人の国民性調査』データへの適用—」日本統計学会誌, 36 巻 1 号, 1-23, 2006 年.
594. 吉野諒三：「今世論調査が直面する壁—『歴史』と『理論』と『実践』—」よろん (世論調査協会報), 97 号, 31-36, 2006 年.
595. 吉野諒三 (研究代表者)：東アジア価値観国際比較調査—『信頼感』の統計科学的解析— (平成 14-17 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (A)) 研究成果報告書), 2006 年.
596. 吉野諒三編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2005 年度中国 (北京・上海・香港) 調査報告書 (統計数理研究所), 2006 年.
597. Yoshino, R. : A social value survey of China—on the change and stability in the Chinese globalization—, *Behaviormetrika*, Vol. 33, No. 2, 111-130, 2006.
598. 鄭躍軍・吉野諒三：「標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出—東京都における実証的な調査を中心に—」日本行動計量学会第 34 回大会発表論文抄録集, 224-227, 2006 年.
599. 鄭躍軍・吉野諒三・村上征勝：「環境意識—日本・中国の比較—」行動計量学, 32 巻 2 号, 55-68, 2006 年.
600. 鄭躍軍・吉野諒三・村上征勝：「東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析—環境意識形成に影響を与える要因の抽出—」行動計量学, 33 巻 1 号, 55-68, 2006 年.

2007 年

601. 「国際交流の重点領域：中国は科学技術、韓国は経済、日本は環境」朝日新聞, 2007 年 6 月 8 日朝刊.

602. 林文：「社会調査からみる宗教・素朴な宗教的感情と死生観」死生学年報 2007 (東洋英和女学院大学死生学研究所編), リトン, 129-154, 2007 年.
603. 林文：「宗教と素朴な宗教的感情」東アジア国民性比較 データの科学 (吉野諒三編), 勉誠出版, 139-154, 2007 年.
604. 林文：「宗教的な心について — アジアと日本の比較に向けて —」日本行動計量学会第 35 回大会発表論文抄録集, 291-292, 2007 年.
605. 松本渉：「組織に対する信頼の国際比較」東アジア国民性比較 データの科学 (吉野諒三編), 勉誠出版, 155-179, 2007 年.
606. 松本渉：「アジア・太平洋地域における組織に対する信頼 — 国際比較と時系列比較 —」日本行動計量学会第 35 回大会発表論文抄録集, 295-298, 2007 年.
607. Matsumoto, W. : Cross-national comparability of trust in organizations in East Asia, *Abstract of IMPS2007, the 72nd Annual Meeting of the Psychometric Society*, 83, 2007.
608. Matsumoto, W. : A study on technical and cultural differences in survey methodology between Japan and the United States, *Int. J. of Japanese Sociology*, No. 16, 23-34, 2007.
609. 袈岩晶・吉野諒三・鄭躍軍：「国際比較における『データの安定性』に関する一考察 — 中国調査データの検討を通じた文化多様体解析の試行 —」統計数理, 55 巻 2 号, 285-310, 2007 年.
610. 袈岩晶・吉野諒三・鄭躍軍：中国価値観調査回収データの際検討を通じた「意識の国際比較調査」データの安定性について — 文化多様体解析 (CULMAN) の方法論的基礎に関する一考察 —, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 1026, 2007.
611. Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T. and Maeda, T. : A Study of the Japanese National Character: The Eleventh Nationwide Survey (2003) — English Edition —, *ISM Research Report*, General Series No. 94, , 2007.
612. 土屋隆裕：「RDD 調査における世帯内抽出法の比較実験」統計数理, 55 巻 1 号, 143-157, 2007 年.
613. 土屋隆裕：「調査環境の悪化と間接質問法 — 間接質問法の新展開 — 統計調査における情報秘匿 — (1)」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 160, 48-51, 2007 年.
614. 土屋隆裕・前田忠彦・中村隆・坂元慶行：ポスティング調査における任意抽出法 — 日本人の国民性 2006 年松本市調査 —, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 1032, 2007 年.
615. 土屋隆裕・前田忠彦・中村隆・坂元慶行：「エリアサンプリングによるポスティング調査 — 郵送調査との比較実験 —」統計数理研究所 研究レポート, No. 96, 2007 年.

616. 吉野諒三：「第6章 計量的文明論」数理心理学(吉野諒三・千野直仁・山岸候彦), 培風館, 191-232, 2007年.
617. 吉野諒三：「統計数理研究所の『国民性の調査』」心理学ワールド(日本心理学会編集・発行), No. 39, 38, 2007年.
618. 吉野諒三・松本渉編：環太平洋(アジア太平洋地域)価値観国際比較調査 2006年度韓国調査報告書(統計数理研究所), 2007年.
619. 吉野諒三・裴岩晶編：環太平洋(アジア太平洋地域)価値観国際比較調査 2006年度台湾調査報告書(統計数理研究所), 2007年.
620. 吉野諒三編：東アジア国民性比較 データ科学, 勉誠出版, 2007年.
621. 吉野諒三編：環太平洋(アジア太平洋地域)価値観国際比較調査 2006年度USA調査報告書(統計数理研究所), 2007年.
622. 鄭躍軍：「抽出の枠がない場合の個人標本抽出の新しい試み—東京都における意識調査を例として—」統計数理, 55巻2号, 311-326, 2007年.
623. 鄭躍軍：「規範観の国際比較—東アジアの法意識を中心に」日本行動計量学会第35回大会発表論文抄録集, 293-294, 2007年.
624. 鄭躍軍・金明哲・村上征勝：データサイエンス入門, 勉誠出版, 2007年.

2008年

625. 「研究室訪問：『日本人の国民性調査』55年続く社会調査を担当：前田忠彦 データ科学研究系・調査解析グループ准教授」統計数理研究所ニュース, No. 102, 2-3, 2008年.
626. 「民の心を測る⑧みんな中流? 定期診断」朝日新聞, 2008年12月9日(夕刊).
627. 「研究室訪問：『日本人の国民性調査』55年続く社会調査を担当：前田忠彦 データ科学研究系・調査解析グループ准教授」統計数理研究所ニュース, No. 102, 2-3, 2008年.
628. 林文：「家族に関する価値観—日本を中心に調査データから—」多角的にみた家族—社会・文化・福祉(与那覇恵子・林文編), 鼎書房, 9-34, 2008年.
629. 林文：「健康観・死生観と宗教的な心」W'Waves(日本癌病態治療研究会誌), Vol. 14, No. 1, 35-38, 2008年.
630. 松本渉：「多母集団間の等値条件と連鎖的な比較分析—アジア・太平洋地域の繰り返し調査における組織に対する信頼を中心に—」日本行動計量学会第36回大会発表論文抄録集, 63-64, 2008年.
631. Matsumoto, W. and Maeda, T. : 「Cross-national Comparison of Political Participation and Social Contribution: Japan Survey Report—English Edition—」ISM Research Report, General Series No. 98, 2008.

632. 大隅昇・前田忠彦：「インターネット調査の抱える課題—実験調査から見えてきたこと—(その2)」よろん(日本世論調査協会報), 101号, 79-94, 2008年.
633. Tsunoda, H., Yoshino, R. and Yokoyama, K. : Components of social capital and socio-psychological factors that worsen the perceived health of Japanese males and females, *The Tohoku J. of Experimental Medicine*, Vol. 216, No. 2, 173-185, 2008.
634. 吉野諒三：「『科学的』世論調査の価値—歴史と理論と実践の三位一体」日本統計学会誌, 37巻2号, 279-290, 2008年.
635. 吉野諒三：「いんぷおるむ第53回 海外の標本抽出面接調査の方法」新情報, Vol. 95, 7-12, 2008年.
636. 吉野諒三：「『国民性』と環境問題—文化の多様性を受け入れる政策立案のために—」環境情報科学, 37巻1号, 21-26, 2008年.
637. 吉野諒三：「UFOは存在するか?—お化け調査再考『合理と非合理の間』—」市場調査, 273, 4-13, 2008年.
638. 吉野諒三：「継続調査の課題と将来」社会と調査, 創刊号, 29-35, 2008年.
639. 吉野諒三：「第1章 信頼の国際比較」ソーシャル・キャピタルの潜在力(稲葉陽二編), 日本評論社, 31-53, 2008年.
640. 吉野諒三：「(信頼感調査の結果についてのインタビュー記事) 不信のなかにも冷静な判断」朝日新聞, 2008年3月21日(朝刊).
641. 吉野諒三・松本渉編：環太平洋(アジア太平洋地域)価値観国際比較調査 2007年度オーストラリア調査報告書(統計数理研究所), 2008年.
642. 吉野諒三・山岡和枝編：医療と文化の連関に関する統計科学的研究—生命観の国際比較 2006年度米国CATI調査—(統計数理研究所), 2008年.
643. 吉野諒三編：環太平洋(アジア太平洋地域)価値観国際比較調査 2007年度シンガポール調査報告書(統計数理研究所), 2008年.
644. 鄭躍軍：統計的社会調査—心を測る理論と方法—, 勉誠出版, 2008年.
645. 鄭躍軍：「伝統的価値観の社会的変遷」少子化とエコノミー パネル調査で描く東アジア(篠塚英子・永瀬伸子編), 作品社, 2008年.
646. 鄭躍軍：「みんなの意見はなぜ大切なのか」地球の処方箋(総合地球環境学研究所編), 昭和堂, 2008年.
647. 鄭躍軍：「国家観の国際比較—東アジアの政治意識を中心に」日本行動計量学会第36回大会発表論文抄録集, 61-62, 2008年.

2009年

648. 「20~30代『イライラ』6割 国民性調査」朝日新聞, 2009年7月17日.

649. 「日本人の自信喪失続く 国民性調査」産経新聞, 2009年7月17日.
650. 「生活『貧しくなる』57% 不満『選挙で考慮』55% 国民性調査」東京新聞, 2009年7月17日.
651. 「貧しくなる57% 自由減る40% 不満は『選挙で』国民性調査」日本経済新聞, 2009年7月17日.
652. 「『仕事外でも上司と付き合いたい』20、30代で増える 国民性調査」毎日新聞, 2009年7月17日.
653. 「『イライラする』若者60%超 『家族が一番』最高46% 『日本人の国民性』調査」読売新聞, 2009年7月17日.
654. Fujita, T. and Yoshino, R. : Social values on international relationships in the Asia-Pacific region, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 149-166, 2009.
655. 林文・二階堂晃祐 : 「宗教的な心の国際比較に向けて—2008年インド調査を踏まえ、環太平洋価値観調査から—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 188-189, 2009年.
656. Hayashi, F. and Nikaido, K. : Religious faith and religious feelings in Japan: analyses of cross-cultural and longitudinal surveys, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 167-180, 2009.
657. 星野崇宏 : 「社会調査における選択バイアスと感度分析—国民性調査データへの適用—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 130-131, 2009年.
658. Kuroda, Y. : *Ha* model of multi-ethnic-culture in a city without majority, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 181-203, 2009.
659. 前田忠彦 : 「全国規模の社会調査の標本設計に関する一考察—日本人の国民性第12次全国調査を題材として—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 126-127, 2009年.
660. 前田忠彦 : 「匿名性を確保した郵送調査の実施方法に関する検討」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 236-237, 2009年.
661. 松本渉 : 「組織に対する信頼の文化多様体解析—東アジア価値観国際比較調査とアジア・太平洋価値観国際比較調査から—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 194-195, 2009年.
662. 松本渉 : 「質問文の変更とその影響の有無について—国民性調査とその関連調査から—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 132-133, 2009年.
663. 三船毅・中村隆 : 「衆議院選挙投票率の分析—1969年から2005年における年齢・時代・世代の影響—」選挙研究, 25巻2号, 83-106, 2009年.

664. 中村隆：「第12次調査の結果概要と回収／不能のコウホート分析—ベイズ型コウホートモデル (XXI)—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 124-125, 2009年.
665. 中村隆：「継続調査で見えてくるもの〜コウホート分析の方法」よろん (世論調査協会報), 104号, 4-11, 2009年.
666. 西平重喜：世論をさがし求めて, ミネルヴァ書房, 2009年.
667. 土屋隆裕：「国民性調査における調査不能」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 128-129, 2009年.
668. 土屋隆裕：概説 標本調査法, 朝倉書店, 2009年.
669. 山岡和枝：「健康感から捉えた文化的連鎖」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 190-191, 2009年.
670. 吉野諒三：「信頼感と基本的価値観—アジア太平洋価値観国際比較調査における文化多様体解析—」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 186-187, 2009年.
671. 吉野諒三編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2008年度インド調査報告書 (統計数理研究所), 2009年.
672. Yoshino, R. : Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 115-147, 2009.
673. Yoshino, R., Nikaido, K. and Fujita, T. : Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 89-113, 2009.
674. 鄭躍軍：「文化観の国際比較—東アジアの伝統文化と現代社会を中心に」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 192-193, 2009年.

2010年

675. 「研究室訪問：文化多様体の解析に基づく計量的文明論構築への試み：吉野諒三 データ科学研究系・調査解析グループ教授」統計数理研究所ニュース, No. 108, 2-3, 2010年.
676. 林文：「現代日本人にとっての信仰の有無と宗教的な心—日本人の国民性調査と国際比較調査から—」統計数理, 58巻1号, 39-59, 2010年.
677. 林文・大隅昇・吉野諒三：「ウェブ調査から何を読み取るか—基底意識に関する実験調査—」日本行動計量学会第38回大会発表論文抄録集, 30-33, 2010年.
678. Hayashi, F. : Japanese religious mind in daily life — based on East-Asia Value Surveys, *Program and Papers, International Symposium on "Culture, Society,*

Economics and Environment in Modern East Asia,” Doshisha University, 65-70, 2010.

679. 星野崇宏：「調査不能がある場合の標本調査におけるセミパラメトリック推定と感度分析：日本人の国民性調査データへの適用」統計数理, 58巻1号, 3-23, 2010年.
680. 松本渉・吉野諒三：「市民の政治参加と社会貢献の国際比較—韓国調査報告書—」統計数理研究所 研究レポート, No. 101, 2010年.
681. 松本渉 他：「政治参加と社会貢献の計量分析—日本 RDD 調査の集計と日本面接調査の分析—」統計数理研究所 共同研究レポート, No. 248, 2010年.
682. Matsumoto, W. and Nikaido, K. : 「Cross-national Comparison of Political Participation and Social Contribution: USA Survey Report — English Edition —」統計数理研究所 研究レポート, No. 100, 2010年.
683. Matsumoto, W. and Nikaido, K. : 「Cross-national Comparison of Political Participation and Social Contribution: USA Survey Report — English Edition —」**ISM Research Report**, General Series No. 100, 2010.
684. 峯村芳樹・山岡和枝・吉野諒三：「生命観の国際比較からみた臓器移植・脳死に関するわが国の課題の検討」保健医療科学, 59巻3号, 109-115, 2010年.
685. 中村隆：「『特集 日本人の国民性調査研究—平成期の20年—』について」統計数理, 58巻1号, 1-2, 2010年.
686. 坂元慶行：「統計的日本人研究雑感—ある国民性調査係の36年の思い出—」統計数理, 58巻1号, 61-82, 2010年.
687. 坂元慶行：「巻頭言—一寸先は闇」よろん (世論調査協会報), 105号, 1, 2010年.
688. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』」社会と調査, 5号, 112, 2010年.
689. 土屋隆裕：「調査への指向性変数を用いた調査不能バイアスの二段補正—『日本人の国民性第12次全国調査』への適用—」統計数理, 58巻1号, 25-38, 2010年.
690. 山岡和枝・吉野諒三編：医療と文化の連関に関する統計科学的研究—社会格差と生命観のダイナミクス—フランス CATI 調査 (統計数理研究所), 2010年.
691. 山岡和枝・吉野諒三編：医療と文化の連関に関する統計科学的研究—社会格差と生命観のダイナミクス—日本 CATI 調査 (統計数理研究所), 2010年.
692. Yamaoka, K. : Subjective health and social factors: multidimensional data analyses of cross-national survey, *Behaviormetrika*, Vol. 37, No. 1, 37-54, 2010.
693. 吉野諒三・林文・山岡和枝：国際比較データの解析, 朝倉書店, 2010年.
694. 吉野諒三・角田弘子：「人々の関係の広がりについて—国際比較方法論研究の幾つかの知見から—」行動計量学, 37巻1号, 3-17, 2010年.
695. 吉野諒三編：環太平洋価値観国際比較調査—東アジア周辺諸国の人々の『信頼感』の統計科学的解析 総合報告書 (統計数理研究所), 2010年.

696. Yoshino, R. : A Cultural manifold analysis of East Asia, *Program and Papers, International Symposium on "Culture, Society, Economics and Environment in Modern East Asia," Doshisha University*, 31-35, 2010.
697. Zheng, Y. : Association analysis on pre-environmental behaviors and environmental consciousness in main cities of East Asia, *Behaviormetrika*, Vol. 37, No. 1, 55-69, 2010.

2011年

698. 「研究室訪問：時代、年齢、世代効果を分離するコウホート分析で多分野に貢献：中村隆 データ科学研究系・調査解析グループ教授」統計数理研究所ニュース, No. 114, 2-3, 2011年.
699. 林文・吉野諒三：「日本人の素朴な自然観と宗教観」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 39-40, 2011年.
700. 前田忠彦・吉川徹・尾崎幸謙・中村隆：「『2010年格差と社会意識についての全国調査』の設計と実施」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 333-334, 2011年.
701. 松本渉：「非営利組織に対する信頼の国際比較—複数の国際比較調査の結果から—」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 97-100, 2011年.
702. 中村隆・米田正人・阿部貴人・前田忠彦：「『鶴岡市における共通語化の調査』データのコウホート分析—バイズ型コウホートモデル(XXII)—」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 121-122, 2011年.
703. Nakamura, T., Maeda, T., Tsuchiya, T., Matsumoto, W., and Nikaido, K. : 「A Study of the Japanese National Character :The Twelfth Nationwide Survey (2008)—English Edition—」 **ISM Research Report**, General Series No. 102, 2011.
704. 二階堂晃祐：「東アジアにおける各国の宗教意識の独自性—共産党政権下における中国のケースを通して—」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 105-106, 2011年.
705. 大崎裕子・吉野諒三：「信頼感の測定項目の分析」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 101-104, 2011年.
706. 坂元慶行：「社会調査の現状と課題」経済統計学会第55回全国研究大会報告要旨集, 9-10, 2011年.
707. 芝井清久：「職業観に関する国際比較」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 47-50, 2011年.

708. 山岡和枝・吉野諒三：「健康観の国際比較」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 41-42, 2011年.
709. 山崎康平・鄭躍軍：「流動性のある組織における帰属意識分析」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 329-332, 2011年.
710. 吉野諒三：「文化の多様体解析」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 35-38, 2011年.
711. 吉野諒三・二階堂晃祐：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— 日本2010調査報告書」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 103, 2011年.
712. 吉野諒三・二階堂晃祐：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— USA2010調査報告書」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 104, 2011年.
713. 鄭躍軍：「東洋の伝統価値観の横断比較」日本行動計量学会第39回大会発表論文抄録集, 43-46, 2011年.

2012年

714. 藤田泰昌・吉野諒三：「一般信頼と対組織信頼に関するアジア太平洋地域での国際比較」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 439-440, 2012年.
715. 林文：「社会的不安感と宗教意識に関するアジア・太平洋地域の国際比較」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 373-374, 2012年.
716. 林文：「『考え方の筋道』—数量化 類分析でみる日本人の国民性継続調査データの意識構造の変化—」データ分析の理論と応用, 2巻1号, 1-16, 2012年.
717. 林文：「数量化理論による分析方法の利用の視点から」社会と調査, 9号, 24-32, 2012年.
718. 林文：「素朴な宗教的感情に関する調査で考えたこと」新情報, Vol. 100, 12-19, 2012年.
719. 松本渉：「日本・米国・韓国における社会貢献に関する意識—市民社会調査の結果を用いた国際比較—」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 23-26, 2012年.
720. 中村隆・阿部貴人・米田正人・前田忠彦・横山詔一：「鶴岡市における共通語化の調査」データのコウホート分析(2)—ベイズ型コウホートモデル(XXIII)—」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 475-476, 2012年.
721. 二階堂晃祐：「文化か、階級構造か、調査員効果か?—中国社会調査における自由回答質問への回答パターン—」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 433-434, 2012年.

722. 大崎裕子・吉野諒三：「信頼と生きがい」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 441-444, 2012年.
723. 朴堯星：「国際比較からみた Contextual Performance 的価値観の規定要因」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 445-448, 2012年.
724. 芝井清久・吉野諒三：「職業に関するアジア太平洋地域の国際比較 — 仕事における関心事」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 435-438, 2012年.
725. 土屋隆裕：「明治末期における小学生の理想人物調査 — キャリブレーション手法の比較 —」統計数理, 60巻1号, 219-234, 2012年.
726. 若井理恵・鄭躍軍：「東アジア家族・家庭における人間関係の国際比較」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 381-384, 2012年.
727. 山岡和枝・吉野諒三：「健康感と関連要因からみた翻訳の影響に関する検討」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 375-376, 2012年.
728. 吉野諒三：「調査の概要とサンプリングについて」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 369-372, 2012年.
729. 吉野諒三・二階堂晃祐：「アジア・太平洋価値観国際比較調査 — 文化多様体の統計科学的解析 — 香港 2011 調査報告書」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 107, 2012年.
730. 吉野諒三・二階堂晃祐・氏家豊：「アジア・太平洋価値観国際比較調査 — 文化多様体の統計科学的解析 — 北京・上海 2011 調査報告書」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 105, 2012年.
731. 吉野諒三・芝井清久：「アジア・太平洋価値観国際比較調査 — 文化多様体の統計科学的解析 — 台湾 2011 調査報告書」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 106, 2012年.
732. 鄭躍軍：「主観的幸福度の国際比較 — 調査データからみた東アジアの実態 —」日本行動計量学会第40回大会発表論文抄録集, 377-380, 2012年.

2013年

733. 馬場康維：「データは語る (8) 調査と人口構成」季刊家計経済研究, No.97, 77-79, 2013年.
734. 伏木忠義・前田忠彦：「近年の社会調査における調査不能バイアスの調整」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 236-237, 2013年.
735. 林文：「素朴な宗教的感情と信頼感の構造」日本分類学会第31回大会講演報告集, 4-5, 2013年.
736. 林文・吉野諒三：「現代社会における宗教的な感情の意味 アジア・太平洋地域の調査から」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 100-101, 2013年.

737. Hayashi, F. : The feeling on interpersonal trust and the view of religious mind — an international comparison, IN *Trust in Society, Business and Organization, Proc. of the Conference “Business, Society, Human” (October 30-31, 2013, Moscow)* (eds. Dyrakhlov, N.I., Ishikawa, A., Kupreychenko, A.B., Sasaki, M., Toshchenko, Zh.T., and Shadrikov, V.D.), , 258-265, 2013.
738. 小寺敦之・林文：「東日本大震災における不安感と情報行動 — 東洋英和女学院大学の保護者・学生アンケートをもとに —」人文・社会科学論集 (東洋英和女学院大学), 30号, 93-114, 2013年.
739. 前田忠彦・中村隆・朴堯星・尾崎幸謙：「東日本大震災前後の意識変化について」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 232-233, 2013年.
740. 前田忠彦・尾崎幸謙：「留置法と面接法による調査問の比較分析」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 238-239, 2013年.
741. 松本渉：「各種民間非営利組織への所属についての国際比較分析 — 複数の国際比較調査 (2007年度～2012年度) の結果から —」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 166-169, 2013年.
742. 松岡亮二・前田忠彦：「意識動向調査の回収状況に関する基礎分析」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 234-235, 2013年.
743. 中村隆：「コウホート分析入門 — 鶴岡調査データを例に —」統計 (日本統計協会), 64巻3号 (3月号), 50-54, 2013年.
744. 中村隆：「年齢・時代・世代効果を分離するコウホート分析への招待」社会言語科学会第31回大会発表論文集, 234-235, 2013年.
745. 中村隆・阿部貴人・米田正人・前田忠彦・横山詔一：「『鶴岡市における共通語化の調査』データのコウホート分析 (3) — ベイズ型コウホートモデル (XXIV) —」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 116-117, 2013年.
746. 二階堂晃祐：「日本における宗教意識の独自性とその意味づけ — 国際比較及び宗教意識以外の変数との関連の分析を通して —」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 160-161, 2013年.
747. 朴堯星・土屋隆裕：「郵送調査法における回収率向上策の検討 — 多摩地域住民調査の事例を中心として —」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 240-243, 2013年.
748. 朴堯星・土屋隆裕：「多摩地域住民意識調査 — 昭島市・小金井市郵送調査 (2013) —」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 112, 2013年.
749. 朴堯星・吉野諒三：「生きがいとソーシャル・サポート」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 162-165, 2013年.

750. 芝井清久：「世界金融危機による労働意識の変化の考察 環太平洋国際比較データとアジア太平洋国際比較データによる比較分析」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 108-111, 2013年.
751. 土屋隆裕：「多摩地域住民意識調査—立川市・小平市郵送調査(2012)—」統計数理研究所 調査研究リポート, No. 108, 2013年.
752. 若井理恵・鄭躍軍：「家族に対する心理的距離の計測方法—東アジア価値観国際比較調査データを用いた尺度の考案—」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 156-157, 2013年.
753. 山岡和枝・吉野諒三：「国際比較調査からみた健康感と生命観・社会・生活関連要因との関連」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 106-107, 2013年.
754. 吉野諒三：「アジア・太平洋価値観国際比較—信頼感の文化多様体解析—」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 96-99, 2013年.
755. 吉野諒三・藤田泰昌・芝井清久：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析—シンガポール2012調査報告書」統計数理研究所 調査研究リポート, No. 111, 2013年.
756. 吉野諒三・朴堯星：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析—韓国2012調査報告書」統計数理研究所 調査研究リポート, No. 110, 2013年.
757. 吉野諒三・芝井清久：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析—オーストラリア2012調査報告書」統計数理研究所 調査研究リポート, No. 109, 2013年.
758. 鄭躍軍：「主観的幸福度の計測指標の考案—東アジア価値観調査データから得たエビデンス—」日本行動計量学会第41回大会発表論文抄録集, 154-155, 2013年.

2014年

759. 「日本人 利己的→利他的 国民性調査」産経新聞, 2014年10月31日.
760. 「『生まれ変わるなら日本』8割超」産経新聞, 2014年10月31日.
761. 「日本人は『親切』『勤勉』意識調査 過去最高」東京新聞, 2014年10月31日.
762. 「『親切』『礼儀正しい』7割超 日本人の国民性、震災での姿影響？」日本経済新聞, 2014年10月31日.
763. 「人の役に立ちたい人増えた 国民性調査」毎日新聞, 2014年10月31日.
764. 「『自分』より『人の役に』『国民性調査』初めて逆転」読売新聞, 2014年10月31日.
765. 「研究室訪問：質の高いデータを求めて調査方法を研究：土屋隆裕 データ科学研究系・データ設計グループ准教授」統計数理研究所ニュース, No. 123, 4-5, 2014年.

766. 「研究室訪問：自治体や組織の意思決定の構造メカニズムを研究：朴堯星 データ科学研究系・構造探索グループ助教」統計数理研究所ニュース, No. 124, 4-5, 2014年.
767. 服部浩昌：「ベトナムの『宗教』と『信仰』—アジア・太平洋価値観国際比較・ベトナム 2013 調査—」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 412-413, 2014年.
768. 林文：『人間関係信頼感』と『信仰・宗教的な心』の国際比較, 社会科学研究所研究叢書 26 (中央大学), 2014年.
769. 林文・中村隆：「国民性調査における伝統的意識項目の回答の変化—宗教的な心に関する項目を中心に—」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 120-121, 2014年.
770. 稲垣佑典・前田忠彦・中村隆：「『日本人の国民性調査』からみた信頼の意味とその時代的変遷」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 116-117, 2014年.
771. 角田弘子・林文・吉野諒三：「地域社会における宗教的感情とソーシャル・キャピタル」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 422-423, 2014年.
772. 前田忠彦・中村隆：「日本人の国民性第 13 次全国調査」の設計と実施概要」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 112-113, 2014年.
773. 中村隆・前田忠彦：「『日本人の国民性第 13 次全国調査』の主要な結果」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 114-115, 2014年.
774. 中村隆・前田忠彦：「日本人の国民性調査第 13 次全国調査」日本世論調査協会特別研究大会資料集 (2014 年度), 28, 2014年.
775. 朴堯星：「努力は本当に報われるのか? —『日本人の国民性調査』第 13 次全国調査結果—」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 118-119, 2014年.
776. 朴堯星・吉野諒三：「調査データに表れる生きがいとソーシャル・サポート—『アジア・太平洋価値観国際比較調査 (APVS)』の結果から—」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 408-411, 2014年.
777. 芝井清久：「南北ベトナム人の社会意識と価値観の相違 アジア・太平洋比較調査データによる比較分析」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 418-421, 2014年.
778. 富永京子・吉野諒三：「アジア・太平洋価値観国際比較—社会的参画の国際比較からみる『日本的な政治参加』—」日本行動計量学会第 42 回大会発表論文抄録集, 414-417, 2014年.
779. 吉野諒三・服部浩昌・芝井清久・朴堯星：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析—ベトナム 2013 調査報告書」統計数理研究所調査研究レポート, No. 114, 2014年.

780. 吉野諒三・芝井清久・二階堂晃祐：「アジア・太平洋価値観国際比較調査—文化多様体の統計科学的解析— インド 2013 調査報告書」統計数理研究所 調査研究レポート, No. 113, 2014 年.

IV 調査項目一覧表

調 査 項 目

§	項 目		全								
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973		VI 1978	
	1.1	性	性	1	101	性	性	K性	M性	K性	M性
	1.2	年 齢	1	1	101	年 齢	年 齢	K年 齢	M年 齢	K年 齢	M年 齢
	1.2b	婚 姻	56	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.2b2	子	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.3	学 歴	55	32a	132a	学 歴	学 歴	K学 歴	M29	K学 歴	M学 歴
	1.3b	学 歴 (新形式)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.4	職 業	57	31a	131a	職 業	職 業	-	-	K職 業	M職 業
	1.4*	職 業	-	-	-	-	-	K職 業	M30	-	-
	1.4b	職 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.4c	職 業 (新形式)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.4d	勤 務 形 態	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.4d*	勤 務 形 態	-	-	-	-	-	-	-	-	-
§1	1.5	市郡別 ^{注1)}	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	K市郡	M市郡	K市郡	M市郡
	1.6	地方別 ^{注1)}	地方	地方	地方	地方	地方	K地方	M地方	K地方	M地方
	1.7	おくに (生まれ)	-	33	133	-	-	-	-	-	-
基	1.8	帰属階層	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.9	所有 (財産)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本	1.10	新聞よむか	52	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.10b	ラジオのニュースきくか	53	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.10c	映画みるか	54	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.11	インターネット使うか	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.11b	インターネット使用頻度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
項	1.21b	住居の種類	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.22	世帯人員数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.22b	20歳以上80歳未満世帯人員数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.22b*	20歳以上85歳未満世帯人員数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.22c	年齢順	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.22c*	年齢順	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.23	世帯主との続柄	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.24	世帯類型	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.30	騒 音	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.80	休日は在宅か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.90*	調査協力理由	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1.91	再協力の意向	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注 1) サンプリング台帳より

一 覧 表

(全国調査のみ)

国														#	ページ
VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003		XII 2008		XIII 2013			
K性	M性	K性	M性	K性	M性	K性	M性	K性	M性	KF1	MF1	KF1	MF1	1.1	11
K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	KF2	MF2	KF2	MF2	1.2	11
-	-	-	-	-	-	K40	M36	-	-	KF5a	MF5a	K44a	M44a	1.2b	12
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF5b	MF5b	K44b	M44b	1.2b2	13
K学歴	M学歴	K学歴	M学歴	K40	M34	K38	M34	K38	M33	KF4	MF4	-	-	1.3	15
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K42	M42	1.3b	14
K職業	M職業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.4	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.4*	
-	-	K職業a	M職業a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.4b	
-	-	K職業b	M職業b	K41b	M35b	K39	M35	K39	M34	KF6b	MF6b	K41b	M41b	1.4c	16
-	-	-	-	K41a	M35a	-	-	-	-	-	-	-	-	1.4d	18
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF6a	MF6a	K41a	M41a	1.4d*	17
K市郡	M市郡	K市郡	M市郡	K市郡	M市郡	K市郡	M市郡	K市郡	M市郡	K市郡	M市郡	K市郡	M市郡	1.5	19
K地方	M地方	K地方	M地方	K地方	M地方	K地方	M地方	K地方	M地方	K地方	M地方	K地方	M地方	1.6	20
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	
K33	M30	K32	M23	K37	M22	-	M24	-	M24	-	M24	K39	M26	1.8	21
K所有	M所有	K所有	M所有	K38	M32	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.10	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.10b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.10c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF3	MF3	-	-	1.11	23
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K49	M49	1.11b	22
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF7	MF7	K43	M43	1.21b	24
-	-	-	-	-	-	-	-	K40	M35	KF8	MF8	K45前半	M45前半	1.22	25
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF8	MF8	-	-	1.22b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K45後半	M45後半	1.22b*	26
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF9	MF9	-	-	1.22c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K46	M46	1.22c*	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF10	MF10	K47	M47	1.23	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K48	M48	1.24	29
-	M29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.30	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF12	MF12	K51	M51	1.80	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF13	MF13	K52	M52	1.90*	31
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	KF11	MF11	K50	M50	1.91	32

§	項 目		全								
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973		VI 1978	
§2 個 人 的 態 度	2.1	しきたりに従うか	4	7	107	7	8	K11	-	K6	-
	2.2	反対をおしきって実行	-	27	127	19	21	K27	-	-	-
	2.2b	スジかまるくか	-	-	-	-	-	-	-	K13	-
	2.3	幸福か	-	20	-	-	-	-	-	-	-
	2.3*	幸福か (11 段階)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3b	住所に満足か	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3c	家庭に満足か	-	-	-	-	-	-	M9a	-	M5a
	2.3d	社会に満足か	-	-	-	-	-	-	M9b	-	M5b
	2.3f	生活環境に満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3g	健康状態満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3h	くらしむき満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3i	仕事や職場に満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3j	余暇に満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3k	健康状態に満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.3l	生活全体に満足か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.4	くらし方	39	22	-	26	31	K34	-	K19	-
	2.4*	くらし方	-	-	-	-	-	-	M26	-	-
	2.5	自然と人間との関係	34	15	-	15	17	K23	M20	K16	-
	2.6	過去と将来	44	-	-	-	18	K24	-	-	-
	2.7	一番大切なもの	47	29	129	29	34	K41	-	K32	-
	2.7a2	二番大切なもの	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.7b	あなたの趣味は	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.8	一生働くか	-	-	-	-	-	-	M2	K1	-
	2.9	ムダにしているか	-	-	-	-	-	-	M6	-	-
	2.10	幸福かためになることか	-	-	-	-	-	-	M11	-	-
	2.11	好きなくらしか人のためか	-	-	-	-	-	-	-	-	M6
	2.11b	可能性をためすか	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.12	他人のためか自分のためか	-	-	-	-	-	-	-	K27	-
	2.12b	スキがあれば利用されるか	-	-	-	-	-	-	-	K28	-
	2.12c	人は信頼できるか	-	-	-	-	-	-	-	K29	-
2.13	将来に備えるか楽しむか	-	-	-	-	-	-	-	-	M7	
2.30	不安感 重い病気	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30b	仕事上の事故	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30c	街での暴力	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30d	交通事故	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30e	失 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30f	戦 争	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30g	原子力施設の事故	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30h	経済面の不安	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.30i	自然災害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

国										#	ページ				
VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003				XII 2008		XIII 2013	
K6	M5	K7	-	K6	-	K7	-	K7	-	K7	-	K8	-	2.1	33
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.2	
K27	-	K25	-	K28	-	K29	-	K30	-	K29	-	K32	-	2.2b	34
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K14	-	2.3	35
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M38	-	2.3*	36
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3b	
K32a	-	-	-	M20c	-	M21c	-	M20c	-	M19c	-	M21c	-	2.3c	39
K32b	M19	K31b	M20b	M20a	-	M21a	-	M20a	-	M19a	-	M21a	-	2.3d	37
-	M12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3f	
-	M13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3g	
-	-	K31a	M20a	-	-	-	-	M13	-	M14	-	M16	-	2.3h	43
-	-	-	-	M20b	-	M21b	-	M20b	-	M19b	-	M21b	-	2.3i	38
-	-	-	-	M20d	-	M21d	-	M20d	-	M19d	-	M21d	-	2.3j	40
-	-	-	-	M20e	-	M21e	-	M20e	-	M19e	-	M21e	-	2.3k	41
-	-	-	-	M20f	-	M21f	-	M20f	-	M19f	-	M21f	-	2.3l	42
K20	M20	K18	M9	K22	M10	K22	-	K24	-	K22	-	K25	-	2.4	44
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4*	
K17	M17	K15	-	K19	-	K19	-	K21	-	K19	-	K22	-	2.5	45
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6	
K13	-	K11	-	K10	-	K10a	-	K10a	-	K9	-	K10	-	2.7	46
-	-	-	-	-	-	K10b	-	K10b	-	-	-	-	-	2.7a2	
K12	-	K10	-	K9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.7b	
K2	M1	K3	M1	M1	-	M4	-	M3	-	M4	-	M4	-	2.8	47
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9	
-	-	-	-	-	-	K25	-	K26	-	K25	-	K28	-	2.10	48
K21a	-	K19	M10	M11	-	M10	-	M9	-	M10	-	M11	-	2.11	49
K21b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M12	-	2.11b	50
K7	-	-	-	K14	-	K14	-	K14	-	K13	-	K16	-	2.12	51
K8	-	-	-	K15	-	K15	-	K15	-	K14	-	K17	-	2.12b	52
K9	-	-	-	K16	-	K16	-	K16	-	K15	-	K18	-	2.12c	53
-	-	K20	-	M13	-	M12	-	M11	-	M12	-	M14	-	2.13	54
-	M25a	-	-	-	-	M15a	-	M14a	-	M15a	-	M17a	-	2.30	55
-	M25b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.30b	
-	M25c	-	-	-	-	M15b	-	M14b	-	M15b	-	M17b	-	2.30c	56
-	M25d	-	-	-	-	M15c	-	M14c	-	M15c	-	M17c	-	2.30d	57
-	M25e	-	-	-	-	M15d	-	M14d	-	M15d	-	M17d	-	2.30e	58
-	M25f	-	-	-	-	M15e	-	M14e	-	M15e	-	M17e	-	2.30f	59
-	M25g	-	-	-	-	M15f	-	M14f	-	M15f	-	M17f	-	2.30g	60
-	-	-	-	-	-	M15g	-	M14g	-	M15g	-	M17g	-	2.30h	61
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M17h	-	2.30i	62

§	項 目		全								
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	VI 1978			
§2 個 人 的 態 度	2.31a	関心度 定年後	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.31b	余暇	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.31c	株	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.31d	科学技術	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.31e	防衛問題	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32a	社会への 内面的生き方 関心度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32b	自分と家族	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32c	自分と友人	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32d	自分と隣人	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32e	自分と職場	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32f	自分と国家	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.32g	自分と国際社会	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.35	ボランティア活動	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80a	病気 頭痛	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80b	背中の痛み	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80b*	腰の痛み	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80c	いらいら	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80d	うつ状態	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80d*	ゆううつ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2.80e	不眠症	-	-	-	-	-	-	-	-	-
§3 宗 教	3.1	宗教を信じるか	-	16a	-	28a	33a	K19a	-	K11a	-
	3.1b	宗派名	-	16b	-	28a	33a	K19a	-	-	-
	3.1c	(宗教) していること	-	-	-	28a	33a	K19a	-	-	-
	3.2	「宗教心」は大切か	-	16c	-	28b	33b	K19b	-	K11b	-
	3.2b	「宗教心」は大切か	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3.3	宗教は1つか	-	17	-	-	-	-	-	-	-
	3.4	人々の宗教への態度	-	18	-	-	-	-	-	-	-
	3.5	「あの世」を信じるか	-	19	-	-	-	-	-	-	-
	3.6	宗教か科学か	37	-	-	-	-	-	-	-	-
	3.7	性善・性悪	46	-	-	-	-	K36	-	-	-
	3.8	自殺やむをえぬか (板ばさみ)	21-1	-	-	-	-	-	-	-	-
	3.8b	〃 (生活苦)	21-2	-	-	-	-	-	-	-	-
3.9	首相の伊勢参り	14	-	110	10	11	K14	-	K7	-	
3.9*	首相の伊勢参り	-	-	-	-	-	-	M4	-	-	
3.9b	首相の伊勢参り	-	-	-	-	-	-	-	-	M19	
§4.1 子 供	4.1	子供を使いに出すとき	-	4	-	-	-	-	-	-	-
	4.2	水鉄砲に注意	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	4.3	弟のわがまま	31	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.4	先生が悪いことをした	9	6	-	4	4	K5	-	K4	-

国							#	ページ	
VII 1983	VIII 1988	IX 1993	X 1998	XI 2003	XII 2008	XIII 2013			
-	-	M26a	M26a	-	-	-	2.31a		
-	-	M26b	M26b	-	-	-	2.31b		
-	-	M26c	-	-	-	-	2.31c		
-	-	M26d	-	-	-	-	2.31d		
-	-	M26e	M26c	-	-	-	2.31e		
-	-	-	M27a	-	-	-	2.32a		
-	-	-	M27b	-	-	-	2.32b		
-	-	-	M27c	-	-	-	2.32c		
-	-	-	M27d	-	-	-	2.32d		
-	-	-	M27e	-	-	-	2.32e		
-	-	-	M27f	-	-	-	2.32f		
-	-	-	M27g	-	-	-	2.32g		
-	-	-	-	-	M28	M30	2.35	63	
-	-	-	M25a	M28a	M27a	M27a	M29a	2.80a	64
-	-	-	M25b	M28b	M27b	-	-	2.80b	66
-	-	-	-	-	-	M27b	M29b	2.80b*	65
-	-	-	M25c	M28c	M27c	M27c	M29c	2.80c	67
-	-	-	M25d	M28d	-	-	-	2.80d	69
-	-	-	-	-	M27d	M27d	M29d	2.80d*	68
-	-	-	M25e	M28e	M27e	M27e	M29e	2.80e	70
K15a	K13a	K12a	K12a	K12a	K11a	K12a	3.1	71	
-	-	-	-	-	-	-	3.1b		
-	-	-	-	-	-	-	3.1c		
-	-	-	-	-	-	-	3.2	73	
K15b	K13b	K12b	K12b	K12b	K11b	K12b	3.2b	72	
-	-	-	-	-	-	-	3.3		
-	-	-	-	-	-	-	3.4		
-	-	-	-	-	K17	K13	3.5	74	
K29	-	-	-	-	-	M34	M33	3.6	75
-	-	-	-	-	-	-	3.7		
-	-	-	-	-	-	-	3.8		
-	-	-	-	-	-	-	3.8b		
-	M6	K9	K8	K9	K9	-	3.9		
-	-	-	-	-	-	-	3.9*		
-	-	-	-	-	-	-	3.9b		
-	-	-	-	-	-	-	4.1		
-	-	-	-	-	-	-	4.2		
-	-	-	-	-	-	-	4.3		
K4	K5	K4	K5	K5	K5	K5	4.4	76	

§	項 目		全								
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973		VI 1978	
§4.1 子 供	4.4b	ウソー先生のうわさ話	-	-	-	-	-	-	M7a	-	-
	4.4c	ウソーつき合い	-	-	-	-	-	-	M7b	-	-
	4.4d	ウソー国内の混乱	-	-	-	-	-	-	M7c	-	-
	4.5	子供に「金は大切」と教える	24-1	-	-	5	5	K6	-	K5	-
	4.5*	子供に「金は大切」と教える	-	-	-	-	-	-	M10	-	-
	4.6	子供に「メンツは大切」と教える	24-3	-	-	-	-	K8	-	-	-
	4.7	子供に自由と規律	24-4	-	-	-	6	K7	-	-	-
	4.13	就職のとき	-	-	-	-	-	-	M15a	-	M12a
	4.13b	嫁入りのとき	-	-	-	-	-	-	M15b	-	M12b
	4.14	子供の雑誌売り	-	-	-	-	-	-	-	-	M3
	4.15	親もテレビに出すべきか	-	-	-	-	-	-	-	-	M15
4.16	子供の将来の性質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.18	国際理解のための教育	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
§4.2 家	4.8	結婚式・葬式盛大に	17	-	109	9	10	K13	-	-	-
	4.8*	結婚式に金をかける	-	-	-	-	-	-	M3	-	-
	4.9	本家・分家を考えるか	-	-	105	-	-	-	-	-	-
	4.10	他人の子供を養子にするか	28-1(3)	-	106	2	2	K3	-	K3	-
	4.10b	親類の子供を養子にするか	28-2	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.11	先祖を尊ぶか	3	-	-	-	-	K20	-	K10	-
	4.12	有名人のむすこのチンドン屋	12	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.30	家庭はくつろぐ場所	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.31	家事や子供の世話	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.32	離婚すべきでないか	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.33	お盆は親族で	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
§5 身 近 な 社 会	5.1	恩人がキトクのとき	41	-	111a	13a	15a	K21a	-	K15a	-
	5.1*	恩人がキトクのとき	-	-	-	-	-	-	M17a	-	-
	5.1b	親がキトクのとき	42	-	111b	13b	15b	K21b	-	K15b	-
	5.1b*	親がキトクのとき	-	-	-	-	-	-	M17b	-	-
	5.1c1	入社試験（親戚）	-	-	-	20a	22a	K28a	M16a	K21a	-
	5.1c2	入社試験（恩人の子）	-	-	-	20b	22b	K28b	M16b	K21b	-
	5.1d	大切な道徳	-	-	-	17	20	K26	-	K18	-
	5.1e	「親孝行」戦前との比較	-	-	-	18a	-	-	-	-	-
	5.1f	「恩返し」戦前との比較	-	-	-	18b	-	-	-	-	-
	5.1g	「権利尊重」戦前との比較	-	-	-	18c	-	-	-	-	-
	5.2	恩人のむすこの入社	26(27)	14a(bc)	114a(bc)	-	-	-	-	-	-
	5.3	出し合う金が高いとき	-	13	-	-	-	-	-	-	-
	5.4	目上の誤解の注意	19	-	116	-	-	-	-	-	-
5.4c	目上につかわれるとき	11	-	-	-	-	-	-	-	-	
5.5	巡査へ口答え	-	-	118	-	-	-	-	-	-	

国														#	ページ	
VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003		XII 2008		XIII 2013				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4b	77	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4c		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4d		
K5	M4	K6	-	K5	-	K6	-	K6	-	K6	-	K6	-	4.5		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.5*		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.6		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K7	-	4.7		
-	-	-	M13a	-	-	-	M14	-	M12a	-	M13	-	M15	4.13		
-	-	-	M13b	-	-	-	-	-	M12b	-	-	-	-	4.13b		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.14		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.15		
-	-	-	-	-	-	K23	M13	K25	-	K23	-	K26	-	4.16	80	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M30	-	M32	4.18	81	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8	82	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8*		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9		
-	M3	K2	-	K2	-	K2	-	K2	-	K2	-	K2	-	4.10		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.10b		
K14	-	K12	-	K11	-	K11	-	K11	-	K10	-	K11	-	4.11		83
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.12		
-	M9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.30		
-	M10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.31		
-	M11	-	-	-	-	-	-	-	M21	-	M21	-	M23	4.32		84
-	-	-	-	K24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.33		
K16a	M16a	K14a	-	K18a	-	K18a	-	K20a	-	K18a	-	K21a	-	5.1	85	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1*		
K16b	M16b	K14b	-	K18b	-	K18b	-	K20b	-	K18b	-	K21b	-	5.1b	86	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1b*		
K22a	M21a	K21a	-	K25a	-	K26a	-	K27a	-	K26a	-	K29a	-	5.1c1	88	
K22b	M21b	K21b	-	K25b	-	K26b	-	K27b	-	K26b	-	K29b	-	5.1c2	89	
K19	-	K17	-	K21	-	K21	-	K23	-	K21	-	K24	-	5.1d	91	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1e		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1f		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1g		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.2		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.4		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.4c		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.5		

§	項 目		全							
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	VI 1978		
	5.6	めんどろをみる課長	35	- 117	21	23	K29	-	K22	-
	5.6*2	めんどろをみる課長	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.6*	上役とのつき合い	-	-	-	-	-	M5	-	-
	5.6b	つとめたい会社	-	-	-	-	-	M18	K23	-
	5.6c	嫌いな旅行-いくべきか	-	-	-	-	-	-	K25a	-
	5.6d	嫌いな旅行-世間では	-	-	-	-	-	-	K25b	-
	5.6e	課長-ヨメの世話	-	-	-	-	-	-	K30a	-
	5.6f	課長-引っ越し	-	-	-	-	-	-	K30b	-
	5.6g	課長-居残り	-	-	-	-	-	-	K30c	-
	5.6h	他人との仲か仕事か	-	-	-	-	-	-	K14	-
	5.7	近所・安い・有名な店	36	-	-	-	24	-	-	-
	5.8	共同炊事	40	-	-	-	25	-	-	-
§5	5.9	秀吉は若者の手本	6	-	-	-	-	K9	-	-
	5.10	四十七士はよいか	50	-	-	-	-	-	-	-
身	5.16	三万円の借用書	-	-	-	-	26	-	-	M10
	5.17	社会生活で注意しあう	-	-	-	-	-	M12	-	M9
近	5.18	友人のタイプ	-	-	-	-	-	M14	-	-
	5.19	議論をつくすか	-	-	-	-	-	M19	-	-
	5.19b	議論をつくすか	-	-	-	-	-	-	K20	-
な	5.20	「自由」は大切か	-	-	-	-	-	M24a	-	-
	5.20b	「規律」は大切か	-	-	-	-	-	M24b	-	-
社	5.20c	「宗教的な心」は大切か	-	-	-	-	-	M24c	-	-
	5.20d	「国を愛するということ」は大切か	-	-	-	-	-	M24d	-	-
	5.20e	「先祖をとうとぶこと」は大切か	-	-	-	-	-	M24e	-	-
会	5.20f	「親孝行」は大切か	-	-	-	-	-	M24f	-	-
	5.20g	「恩返し」は大切か	-	-	-	-	-	M24g	-	-
	5.20h	「お金」は大切か	-	-	-	-	-	M24h	-	-
	5.21	課長の選挙違反	-	-	-	-	-	-	-	M14
	5.22	金か人間のつながりか	-	-	-	-	-	-	-	M8
	5.23	能力か功労か	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.23*	能力か功労か	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.24	勤め先を変えるか	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.25	リーダーの条件	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.81a	生活領域 家族や子供の重要性	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.81b	職業や仕事	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.81c	自由時間	-	-	-	-	-	-	-	-
	5.81d	友人、知人	-	-	-	-	-	-	-	-

国										#	ページ				
VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003				XII 2008		XIII 2013	
K23	M22	K22	M18	K26	-	K27	-	K28	-	K27	-	K30	-	5.6	93
-	-	-	-	-	-	-	-	-	M16	-	-	-	-	5.6*2	
-	-	-	-	-	-	-	M9	-	M8	-	M9	K19	-	5.6*	94
-	-	-	-	-	M19	-	M20	-	M19	-	M18	-	M20	5.6b	95
-	-	-	M19a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6c	
-	-	-	M19b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6d	
-	-	-	-	-	-	-	-	K17a	-	-	-	-	-	5.6e	
-	-	-	-	-	-	-	-	K17b	-	-	-	-	-	5.6f	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6g	
K26	-	-	-	K27	-	K28	-	K29	-	K28	-	K31	-	5.6h	96
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.7	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.9	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.10	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.16	
-	-	-	-	-	-	-	M22	-	-	-	M20	-	M22	5.17	97
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.18	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.19	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.19b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20d	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20e	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20f	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20g	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.20h	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.21	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K24	-	K27	-	5.22	98
-	-	-	-	-	M8	-	M8	-	M7	-	M8	-	M8	5.23	99
-	-	-	-	-	-	-	-	K18	-	-	-	-	-	5.23*	
-	-	-	-	-	M17	-	M18	-	M17	-	M17	-	M19	5.24	100
-	-	-	-	-	M18	-	M19	-	M18	-	-	-	-	5.25	
-	-	-	-	-	M14a	-	-	-	-	-	-	-	-	5.81a	
-	-	-	-	-	M14b	-	-	-	-	-	-	-	-	5.81b	
-	-	-	-	-	M14c	-	-	-	-	-	-	-	-	5.81c	
-	-	-	-	-	M14d	-	-	-	-	-	-	-	-	5.81d	

§	項 目		全								
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973		VI 1978	
§6 男 女 の 差 異	6.1	中学校の男女共学	-	-	102	-	-	-	-	-	-
	6.2	男・女の生まれかわり	-	-	103	1a	1a	K1a	M1a	-	M1a
	6.2b	男・女を希望	16	-	-	-	-	-	-	-	-
	6.2c	苦勞どちらが多いか	-	-	-	1b	1b	K1b	M1b	-	M1b
	6.2d	楽しみどちらが多いか	-	-	-	1c	1c	K1c	M1c	-	M1c
	6.2e	男の子と女の子	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6.2f	どちらがトクか	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6.3	女は家庭か世間か	-	-	104	-	-	-	-	-	-
	6.4	女の仕事は好ましいか	10	-	-	-	-	K2	-	-	-
	6.5	男女の能力差	-	-	120	-	-	-	-	-	-
6.6	年下の上役と女の上役	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
§7 一 般 の 社 会 的 問 題	7.1	人間らしさはへるか	5	3	-	6	7	K10	-	K2	-
	7.2	心の豊かさはへらないか	29	24	-	12	13	K18	-	K12	-
	7.2b	21世紀の世の中	-	-	-	-	14	-	-	-	-
	7.3	家族・国家中心と個人中心	-	26	126	-	-	-	-	-	-
	7.4	日本と個人の幸福	45	-	-	16	19	K25	-	K17	-
	7.4*	国と個人の幸福	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.4b	国の繁栄と国民の生活	-	-	-	-	-	-	-	-	M20
	7.5	公益と個人の権利	-	-	119	-	-	-	-	-	-
	7.5*	公益と個人の権利	-	-	-	-	-	-	-	-	M23
	7.5b	公益と個人の権利	-	-	-	23	28	K31	-	-	-
	7.5b*	公益と個人の権利	-	-	-	-	-	-	M21	-	M17
	7.5c	道路立退き反対運動	-	-	-	-	-	-	M22a	-	-
	7.5d	学校立退き反対運動	-	-	-	-	-	-	M22b	-	-
	7.6	勲章か賞金か	23	9	-	14	16	K22	-	-	-
	7.7	仕事の価値	8	-	108	8	9	K12	-	-	-
	7.8	個人賞金の使い方 (ノーベル)	-	23	-	-	-	-	-	-	-
	7.9	ふしだらな科学者	48	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.10	公金使いこみの疑い	-	-	115	-	-	-	-	-	-
7.11	自称・他称の統一	-	10	-	-	-	-	-	-	-	
7.12	競輪で教育施設	-	8	-	-	-	-	-	-	-	
7.12b	競輪で教育施設	22	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.13	法律は金持に有利か	-	-	121	-	-	-	-	-	-	
7.13c	法律の精神	-	-	-	22	27	K30	-	-	-	
7.13d	行為か動機か	-	-	-	-	-	-	-	K9	-	
7.14	客がない車中のタバコ	-	-	122a(b)	-	-	-	-	-	-	
7.15	労組をつくるのはよいか	38	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.16	事故と社長	-	-	-	-	-	-	M13	-	M16	
7.18	人間の健康の面はよくなるか	-	-	-	-	-	-	M27a	-	M25a	

国										#	ページ				
VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003				XII 2008		XIII 2013	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.1	
K1	-	K1	-	K1	-	K1	M1	K1	M1	K1	M1	K1	M1	6.2	101
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.2b	
-	-	-	-	-	-	-	M2a	-	M2a	-	M3a	-	M3a	6.2c	103
-	-	-	-	-	-	-	M2b	-	M2b	-	M3b	-	M3b	6.2d	105
-	-	-	M2	-	M2	-	M5	-	M4	-	M5	-	M5	6.2e	107
-	-	-	-	-	-	-	M3	-	-	-	-	-	-	6.2f	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.3	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.4	
-	-	-	M5	-	M5	K3	-	K3	-	K3	-	K3	-	6.5	109
-	-	-	M7	-	M7	-	-	-	-	-	-	-	-	6.6	
K3	M2	K4	-	K3	-	K4	-	K4	-	K4	-	K4	-	7.1	111
-	M8	K27	-	K13	-	K13	-	K13	-	K12	-	K15	-	7.2	112
-	-	-	M28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.2b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.3	
K18	-	K16	-	K20	-	K20	-	K22	-	K20	-	K23	-	7.4	113
-	M18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4*	
K30	-	K29	-	K30	-	K32	-	K32	-	K31	-	K34	-	7.4b	114
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5*	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	M22	-	M22	-	M24	7.5b*	115
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.5d	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.6	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.7	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.9	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.10	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.11	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.12	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.12b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.13	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.13c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.13d	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.14	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.15	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.16	
-	-	-	-	-	-	-	M32a	-	M31a	-	M35a	-	M39a	7.18	116

§	項 目		全							
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	VI 1978		
§7 一 般 の 社 会 的 問 題	7.18b	心のやすらかさはますか	-	-	-	-	-	M27b	-	M25b
	7.18c	人間の自由はふえるか	-	-	-	-	-	M27c	-	M25c
	7.18d	生活は豊かになるか	-	-	-	-	-	M27d	-	M25d
	7.18e	幸福になるか	-	-	-	-	-	M27e	-	M25e
	7.19	才能か運か	-	-	-	-	-	-	-	M2
	7.20	自分の責任か	-	-	-	-	-	-	-	M11a
	7.21	金を貰えばわるい気はしないか	-	-	-	-	-	-	-	M4a
	7.21b	金があれば墮落するか	-	-	-	-	-	-	-	M4b
	7.21c	かせいだ金と幸運の金	-	-	-	-	-	-	-	M4c
	7.21d	金にきちょうめん	-	-	-	-	-	-	-	M4d
	7.21e	無理して金をかせぐか	-	-	-	-	-	-	-	M4e
	7.22	万事金か	-	-	-	-	-	-	-	M11b
	7.23	事故と先生—本人の意見	-	-	-	-	-	-	-	M13a
	7.23b	事故と先生—一般の親は	-	-	-	-	-	-	-	M13b
	7.24	就職の第1の条件	-	-	-	-	-	-	K24a	-
	7.24b	就職の第2の条件	-	-	-	-	-	-	K24b	-
	7.25	お金と仕事	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.29	くらしむき	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.29b	たけのこ生活	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.30a	生活水準 10 年の変化	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.30b	日本人の生活水準	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.31	今後の生活水準	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.32	お金とコネがあればよい治療がうけられるか	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.33	コンピュータ社会は好ましいか	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.34	省エネルギーは重要か	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.35	環境の保護は重要か	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.36	科学上の発見・利用は生活に役立つか	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.37	自分だけとり残されているか	-	-	-	-	-	-	-	-
7.38	努力は報われるか	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.39a	社会のために働く人	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.39b	仕事に打ち込む人	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.40	社会は公平か	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.45b	社会のあり方	-	-	-	-	-	-	-	-	
7.82	アリとキリギリス	-	-	-	-	-	-	-	-	
§8 政 治 的 態 度	8.1	政治家にまかせるか	30	12	112	11	12	K15	-	-
	8.1*	政治家にまかせるか	-	-	-	-	-	M8	-	-
	8.1b	政治家にまかせるか	-	-	-	-	-	-	K8	-
	8.2	「民主主義」はよい感じか	-	-	123a	-	-	-	-	-
	8.2b	「資本主義」はよい感じか	-	-	123b	-	-	-	-	-

国							#	ページ							
VII 1983	VIII 1988		IX 1993		X 1998				XI 2003		XII 2008		XIII 2013		
-	-	-	-	-	-	M32b	-	M31b	-	M35b	-	M39b	7.18b	117	
-	-	-	-	-	-	M32c	-	M31c	-	M35c	-	M39c	7.18c	118	
-	-	-	-	-	-	M32d	-	M31d	-	M35d	-	M39d	7.18d	119	
-	-	-	-	-	-	M32e	-	M31e	-	M35e	-	M39e	7.18e	120	
-	-	-	M6	-	M6	-	M7	-	M6	-	M7	-	M7	7.19	121
-	-	-	-	K23	-	K24	-	-	-	-	-	-	-	7.20	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.21	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.21b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.21c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.21d	
-	-	-	M16a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.21e	
-	-	-	M16b	-	-	-	M27	-	-	-	-	-	-	7.22	
K28a	-	K26a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.23	
K28b	-	K26b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.23b	
K25	M23	K24	M17	-	M16a	K30a	M17	K31a	-	K30a	-	K33a	-	7.24	122
-	-	-	-	-	M16b	K30b	-	K31b	-	K30b	-	K33b	-	7.24b	123
K24	-	K23	M11	-	M12	-	M11	-	M10	-	M11	-	M13	7.25	124
-	-	-	M12	-	M15	-	M16	-	M15	-	M16	-	M18	7.29	125
-	-	-	M24	-	M31	-	-	-	-	-	-	-	-	7.29b	
-	M14a	-	M25	-	M24	-	M26	-	M26	-	M26	-	M28	7.30a	126
-	M14b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.30b	
-	M15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.31	
-	M24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.32	
-	M26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.33	
-	M27a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.34	
-	M27b	-	-	K36	-	K35	-	K35	-	K34	-	K37	-	7.35	127
-	M28	-	-	K35	-	K34	-	K34	-	K33	-	K36	-	7.36	128
-	-	-	M8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M9	7.37	129
-	-	-	M14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M36	7.38	130
-	-	-	M15a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.39a	
-	-	-	M15b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.39b	
-	-	-	-	-	M23	-	M25	-	M25	-	M25	-	M27	7.40	131
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	M33	-	M37	7.45b	132
-	-	-	-	K29	-	K31	-	-	-	-	-	-	-	7.82	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.1	134
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.1*	
K10	M7	K8	-	K7	-	K8	-	K8	-	K8	-	K9	-	8.1b	133
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.2	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.2b	

§	項 目		全								
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973		VI 1978	
§8 政 治 的 態 度	8.2c	「自由主義」はよい感じか	-	-	123c	-	-	-	-	-	-
	8.2d	「社会主義」はよい感じか	-	-	123d	-	-	-	-	-	-
	8.2e	「民主主義」はよい感じか	-	-	-	27a	32a	K35a	-	-	-
	8.2f	「資本主義」はよい感じか	-	-	-	27b	32b	K35b	-	-	-
	8.2g	「自由主義」はよい感じか	-	-	-	27c	32c	K35c	-	-	-
	8.2h	「社会主義」はよい感じか	-	-	-	27d	32d	K35d	-	-	-
	8.2i	「共産主義」はよい感じか	-	-	-	-	-	K35e	-	-	-
	8.2j	「全体主義」はよい感じか	-	-	-	-	-	K35f	-	-	-
	8.3	科学者と政治	-	11	-	-	-	-	-	-	-
	8.3b	専門の研究と政治	43	-	-	24	29	K32	-	-	-
	8.4	校長の礼服	-	2	-	3	-	-	-	-	-
	8.4b	校長の礼服	-	-	-	-	3	K4	-	-	-
	8.5	社会問題への関心	-	30a(b)	130a(b)	-	-	-	-	-	-
	8.6	選挙への関心	-	34	134	33	38	K39	-	-	M18
	8.7	支持政党	58	35	135	35	39	K40	M28	K31	M26
	8.7g	支持政党	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8.7h	支持政党	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8.7i	支持政党	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8.7j	支持政党	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8.7k	支持政党	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8.8	社会は変えるべきか	-	-	-	-	-	-	-	K26	-	
8.9	社会不満の表し方	-	-	-	-	-	-	-	-	M24	
8.10	福祉国家の是非	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8.11	憲法改正に賛成か	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8.80	国家目標	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
§9 日 本 人 ・ 人 種	9.1	日本人の性格（長所）	-	28	128	32a	37a	K38a	-	-	-
	9.1c	日本人の性格（短所）	-	-	-	32b	37b	K38b	-	-	-
	9.3	日本の庭・西洋の庭	32	21	-	25	30	K33	M23	-	-
	9.3b	パリ・イラン・ニューヨークの建物	33	-	-	-	-	-	-	-	-
	9.4	立派な人物	-	-	-	34	-	-	-	-	-
	9.5	日本人・西洋人の残酷	-	25	-	-	-	-	-	-	-
	9.6	日本人・西洋人の優劣	25	-	-	30	35	K16	-	-	-
	9.7	すぐれた人種	-	-	124	31	36	K37	-	-	-
	9.8	人種有能力差	-	-	125	-	-	-	-	-	-
	9.9	日本の立場	-	-	113	-	-	-	-	-	-
	9.10	国旗をあげること（競技）	7	-	-	-	-	-	-	-	-
	9.10b	国旗をあげること（競技）	-	-	-	-	-	K17	-	-	-
9.12	日本の「科学技術の水準」	-	-	-	-	-	-	M25a	-	M22a	
9.12b	日本の「芸術」	-	-	-	-	-	-	M25b	-	M22b	

国							#	ページ							
VII 1983	VIII 1988		IX 1993	X 1998	XI 2003	XII 2008			XIII 2013						
-	-	-	-	-	-	-	-	8.2c							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.2d							
-	-	-	K32a	-	-	-	-	8.2e							
-	-	-	K32b	-	-	-	-	8.2f							
-	-	-	K32c	-	-	-	-	8.2g							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.2h							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.2i							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.2j							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.3							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.3b							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.4							
-	-	-	-	-	-	-	-	8.4b							
-	-	-	-	-	-	-	M10	8.5	135						
-	M31	K28	M21	K31	-	K33	-	K32	-	K35	-	8.6	136		
K支持	M支持	K支持	M支持	-	-	-	-	-	-	-	-	8.7	138		
-	-	-	-	K39	M33	-	-	-	-	-	-	8.7g	139		
-	-	-	-	-	-	K37	M33	-	-	-	-	8.7h	140		
-	-	-	-	-	-	-	-	K37	M32	-	-	8.7i	141		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K36	M36	8.7j	142		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K40	M40	8.7k	137	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8			
-	-	-	M22	-	M21	-	M23	-	M23	-	M23	-	M25	8.9	143
-	-	-	-	K33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.10	
-	-	-	-	-	M9	-	-	-	-	-	-	-	-	8.11	
-	-	-	-	K34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.80	
K31	-	K30	-	-	-	K36	-	K36	-	K35	-	K38	-	9.1	144
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.1c	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.3	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.3b	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.4	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.5	
K11	-	-	-	K17	-	K17	-	K19	-	K16	-	K20	-	9.6	145
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.7	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.8	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.9	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.10	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.10b	
-	-	-	M27a	-	M28a	-	M29a	-	M28a	-	M29a	-	M31a	9.12	146
-	-	-	M27b	-	M28b	-	M29b	-	M28b	-	M29b	-	M31b	9.12b	147

§	項 目		全							
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	VI 1978		
§9 日本人・人種	9.12c	日本の「経済力」	-	-	-	-	-	M25c	-	M22c
	9.12d	日本の「生活水準」	-	-	-	-	-	M25d	-	M22d
	9.12e	日本の「心の豊かさ」	-	-	-	-	-	M25e	-	M22e
	9.13	日本文化の国際化	-	-	-	-	-	-	-	M21
	9.14	外国人との結婚	-	-	-	-	-	-	-	-
	9.15	外国旅行の経験	-	-	-	-	-	-	-	-
	9.16	国際貢献	-	-	-	-	-	-	-	-
	9.17	地球環境	-	-	-	-	-	-	-	-
	9.22c	生まれかわりたい国	-	-	-	-	-	-	-	-

国							#	ページ	
VII 1983	VIII 1988	IX 1993	X 1998	XI 2003	XII 2008	XIII 2013			
-	-	- M27c	- M28c	- M29c	- M28c	- M29c	- M31c	9.12c	148
-	-	- M27d	- M28d	- M29d	- M28d	- M29d	- M31d	9.12d	149
-	-	- M27e	- M28e	- M29e	- M28e	- M29e	- M31e	9.12e	150
-	-	-	-	-	-	-	-	9.13	
-	-	- M3	- M3	- M6	- M5	- M6	- M6	9.14	151
-	-	- M4	- M4	-	-	-	-	9.15	
-	-	-	- M29	- M31	- M30	- M32	- M35	9.16	152
-	-	-	- M30	- M30	- M29	- M31	- M34	9.17	153
-	-	-	-	-	-	- M2	- M2	9.22c	154

ISM Survey Research Report No.116

A STUDY OF THE JAPANESE
NATIONAL CHARACTER
— The Thirteenth Nationwide Survey —

Takashi Nakamura
Takahiro Tsuchiya
and
Tadahiko Maeda

February, 2015

The Institute of Statistical Mathematics
Research Organization of Information and Systems

10-3 Midori-cho, Tachikawa
Tokyo 190-8562, Japan

ISSN 2185-8381